

用スヘカラス又ハ之ヲ適用セシムヘカラス又其文字畫圖ヲ描改スヘカラス描改セシムヘカラス描改スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス描改セシ紙幣ト知りテ之ヲ適用スヘカラス又ハ之ヲ適用セシムヘカラス

第九十條 右銀行紙幣ヲ印刷スルニ用ウル所ノ版板又ハ之ニ類似スル者ハ之ヲ私ニ彫刻スヘカラス又ハ私ニ彫刻ヲ命スヘカラス又右銀行紙幣ニ用ウル所ノ紙品又ハ之ニ類似スル紙品ハ之ヲ私ニ製スヘカラス又ハ人ヲシテ之ヲ製セシムヘカラス又ハ之ヲ私ニ所持スヘカラス若シ前第八十九條及ヒ本條ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ皆テ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第九十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣又ハ爲換手形、約束手形其他證書ノ類ハ何人ニ限ラス之ヲ切抜キ又ハ切裂キ又ハ剝去リ又ハ塗抹シ又ハ孔ヲ穿チ又ハ糊付ニスル等ノヲチナスヘカラス又人ヲシテ此等ノヲチナシムヘカラス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルハ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ償金ヲ銀行ヘ拂ハシムヘシ

第十二章 官命鎖店ノ場合特例監督役跡引受人等ノ取扱方並ニ公債證書ノ没入及ヒ紙幣引換等ノ手續ヲ明カニスル  
第九十二條 同上  
第九十三條 國立銀行ニ於テ左ニ掲グル事實アルハ大藏卿ハ鎖店ヲ命スルコトアルヘシ

第一 國立銀行條例ノ旨趣又ハ箇條ニ背戻シ大藏卿其銀行ヲ鎖店セシムルヲ相當ナリト思考スルトキ  
同上全條改正

第二 國立銀行ニ於テ負債辨償ノ義務ヲ尽ス能ハサル證據アルトキ

第三 國立銀行ニ於テ其資本金總額十分ノ五以上ノ損失ヲ生スルトキ

第九十四條 前條ニ記載スル事實アリト認ムルトキハ大藏卿ハ檢査ノ官員ヲ派遣シ其事實ヲ推糺セシメ若シ相違ナキニ於テハ都テ其銀行ノ營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スヘシ  
同上

第九十五條 前條ノ如ク營業ヲ差止メラレタル銀行ノ頭取々締役支配人其他ノ役員ハ諸手形、諸證書類又ハ抵當物、地所等ヲ他人ヘ譲リ渡シ又ハ賣渡スヘカラス又他人ヨリ金銀其他ノ物件ヲ預ルヘカラス若シ頭取々締役支配人其他ノ役員等コノ箇條ニ背キ或ハ譲リ渡シ又ハ賣渡シ又ハ預リ又ハ拂方ノ引受ヲナスコトアルニ於テハ紙幣頭ハ督促シテ其金額ヲ償ハシメ之ヲ其元ニ復セシムヘシ

第九十六條 紙幣頭ハ更ニ大藏卿ヘ稟議シ特例監督役ヲ命遣シ其銀行ノ實際諸般ノ取扱ヲ推究シテ其事實ヲ詳細ニ報知セシムヘシ而シテ其背戻ノ事實相違ナキニ於テハ紙幣頭ハ其銀行ヨリ出納寮ニ預ケ置キタル公債證書ヲ没入スヘキ旨ヲ(右報知ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ)申渡シ其公債證書ヲ取上シムヘシ

第九十七條 右諸般ノ手續了リシ后紙幣頭ハ大藏卿ヘ稟議ヲ經テ凡ソ此銀行ノ紙幣ヲ所

(貨幣門) (預金貸金ノ部) (國立銀行條例)



持スル者ハ都テ之ヲ大藏卿ニ出クシテ其引換ヲ乞フヘキ旨ヲ公告シ相當ノ時日ヲ以テ之ヲ引換遣ハスベシ而シテ其引換タル紙幣ハ總テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其趣ヲ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第九十八條 此條例第九十六條ニ據リ其銀行ヨリ没入シタル公債證書ハ大藏省ノ便宜ニ從ヒ之ヲ公賣若ハ私賣シ以テ其銀行ノ發行紙幣引換ノ資ニ充ルモノトス但右公債證書ノ賣却代價紙幣下付高ニ對シ不足アルトキハ大藏卿ハ他ノ債主ニ先チ之ヲ其銀行ノ資産ヨリ徵收シ若シ下付高ニ對シ過剩アルトキハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ

第九十九條 此條例第九十六條ニ揭クル所ノ特別監督後ノ報知ヲ得之カ處分ヲナスニ於テハ紙幣頭ハ即チ右銀行ノ跡引受人ヲ命シ其銀行ノ諸簿冊及ヒ各種ノ資産等ヲ取押ヘ諸債付金立替金ヲ取立タル上ニハ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ謀リテ滞リ貸金類及ヒ銀行ノ所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ其銀行ノ諸借財又ハ預リ金ソノ外ヲ償却シ過金アレハ株高ニ應シテ之ヲ株主ヘ割返シ不足アレハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所有物ヲ限リテ相當ノ分散ヲサシムヘシ

第一百條 右借財又ハ預リ金等ヲ償却スルニハ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ三ヶ月間世上ニ公告シ其銀行ニ貸金預ケ金等アル者ハ右期限中ニ申出テシメ其事由ト證書類トヲ檢按シ紙幣頭ハ厚シ之ニ注意シ適正ノ處分ヲ以テ貸方ニ賦當償却スヘシ

第一百一條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ株主等ハ假令其銀行ニ損失又ハ其他ノ事故アリテ其銀行鎖店分散スルコトアルモ其株主等ハ其創立證書ニ於テ掲載シタル株式金額ノミヲ損失スルノ外其鎖店分散ニ付テ別ニ賦當出金ヲ受クルノ責メ勿ルヘシ

第一百二條 紙幣頭ハ此條例第九十六條ニ揭クル所ノ處分ヲナスニ際シ其銀行ヨリ尙ホ請願スルコトアリテ其狀實ヲ具陳スルキハ監督役ヲ出セシヨリ三十日以内(郵便遞送日數ヲ除ク)ナラハ其地方官廳ニ謀リ更ニ其實況ヲ詳悉シテ全ク其背戻セサルノ實證アルニ於テハ紙幣頭ハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ而シテ之ヲ宥恕スヘシ尤右ノ請願書ハ必ス其地方官廳ヲ經テ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

但シ此宥恕ヲナスキハ紙幣頭ハ速カニ其趣ヲ出張ノ監督役ニ達シテ暫ラク其處置ニ取掛ルコトヲ見合セシムヘシ

第一百三條 此條例ヲ遵奉スル銀行鎖店ノ場合ニ於テ跡引受人ノ入費等ハ總テ相當ノ處分ヲ以テ大藏卿之ヲ取極メ他ノ債主ニ先チ其銀行ノ資産ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ

○第十三章 銀行平穩鎖店ノ手續及其紙幣引換方等ノ事ヲ明カニス

第一百四條 此條例ヲ遵奉スル銀行三分二以上ノ株主等ノ協議ニ從テ平穩ニ分散又ハ鎖店セントスルニハ其銀行ノ頭取支配人ヨリ其銀行ノ名印ヲ以テ其決議ノ旨趣ヲ紙幣頭ニ申牒シ其承認ヲ得テ后十三ヶ月間新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方其他銀行ニ屬スル取引ノ精算ヲ詳載シタル報告ヲ製シテ之ヲ世上ニ公告スヘシ

第一百五條 右ノ公告ヲナシタル日ヨリ其銀行ハ其引換ヘタル銀行紙幣ヲ以テ豫テ出納案ニ

(貨幣門) (預金貸金ノ部) (國立銀行條例)



預ケ置キタル公債證書ノ内ヲ取戻スヲ得ヘシ尤其公告ノ日ヨリ半年ヲ過キ其銀行ノ簿冊上ニ於テ尙ホ世上ニ殘在スル銀行紙幣アルニ於テハ其員額丈ケノ通貨ヲ出納頭ニ差出シ右預ケ置キタル公債證書ノ全額ヲ取戻スヲ得ヘシ然ル上ハ其銀行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ大藏省ニ於テ之ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ一切其引換ノ責ニ任セサルヘシ

第六六條 右銀行シタル銀行ヨリ其殘在銀行紙幣引換ノタメ通貨ヲ差出スニ於テハ出納頭ハ之ヲ領受シ其趣ヲ詳記シタル受取證書ヲ製シ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ  
但シ出納頭ハ右受取證書ノ外ニ預ケ證書ヲ製シテ之ヲ紙幣頭ヘ回附シ置キ其殘在銀行紙幣引換ノ爲メ通貨ノ受取方ヲ要スル於テハ何時ニテモ之ヲ紙幣頭ヘ渡スヘシ

第七七條 右預リ證書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ大藏卿ノ票讀ヲ經テ相當ノ期限ヲ定メ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告シ其殘在銀行紙幣ノ引換方ニ從事スヘシ

第八八條 右ノ手續ヲ以テ引換タル銀行紙幣ハ此條例第五十一條ノ規定ニ從テ之ヲ燒捨シ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ尤右ニ屬スル諸計算其外トモ紙幣頭國價出納頭ハ各其簿冊ニ詳記シ置クヘシ

第十四章 銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス  
第九九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行若シ他ノ會社又ハ一般ノ人民ヲ相手取り訴訟スルカ又ハ他ヨリ此銀行ヲ相手取り訴訟セラルカノキハ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其裁判所(又ハ府縣ノ聽訟主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ

第十條 此條例ニ於テ期定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ罪科ニ付テハ裁判所(又ハ府縣ノ聽訟主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ但シ此條例中現ニ金罰ノ明文無キ條ヲ犯スコトアルキハ其時ニ當リ其裁判所(又ハ府縣ノ聽訟主任官員)ニ於テ相當ト思考スル罰金(三圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル額數)ヲ右犯罪ノ銀行又ハ頭取々締役其他ノ役員ニ命スヘシ

第十五章 銀行納稅ノ事ヲ明カニス  
第十一條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ相當ノ稅金ヲ納ムヘシ

第十六章 銀行紙幣消却ノ方法ヲ明カニス十六年第四號布告ヲ以テ追加ス  
第十二條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ハ左ニ掲クル方法ヲ以テ其營業年限内ニ悉皆消却スヘキモノトス但其取扱手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ之ニ從事セシムヘシ同上

一 各國立銀行ノ紙幣引換準備金ハ大藏卿ノ指定スル期限迄ニ日本銀行ニ納付シ營業年限内ニ定期預ケトナシ以テ紙幣消却ノ元資ニ充ツヘシ

一 各國立銀行ハ每半季利益金ノ多少ニ拘ラス其銀行紙幣下付高ニ對シ年二分五厘即チ一分ニニ當ル金額ヲ引去リ之ヲ日本銀行ニ預ケテ紙幣消却等ノ資ニ充ツヘシ

一 日本銀行ハ前項ニ掲クル金額ヲ預リ各國立銀行ト別段ノ約定ヲ結ビ之カ發行紙幣ヲ(貨幣門) (預金資金ノ部) (國立銀行條例)

七四五



消却シテ大藏省ニ上納スルモノトス但共約定書ハ大藏卿ニ呈シテ之カ奥書印ヲ受  
シヘシ

- 一 日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ上納シタルトキハ大藏省ヲ於ニ此條例第五十一條ノ手續  
ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其都度之ヲ公告スヘシ
- 一 日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ大藏省ニ上納シタルトキハ豫テ出納局ニ差出シ置キタル  
紙幣抵當公債證書ノ内右消却高ニ相當スル員額ヲ大藏省ヨリ直チニ其銀行ニ還付ス  
ヘシ

○第十七章 條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カニス十六年第十四號布告ヲ以テ十六年第十四號布告ヲ以テ  
 第百十三條 此國立銀行條例ハ政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ何時ニテモ之ヲ増補シ又  
 之ヲ更正シ又或ハ之ヲ廢止スルコトアルヘシ若シ右増補其他ノ節ハ直チニ其由チ世上ニ  
 公告スヘシ十六年第十四號布告ヲ以テ第百十二條ヲ第百十三條ト改ム

○橫濱正金銀行條例 (明治二十年七月六日勅令第二十九號)

- 第一條 橫濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負債ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止  
マルモノトス
- 第二條 橫濱正金銀行ハ本店ヲ橫濱ニ設置ス又内外國ニ於テ貿易上要用ナル地ニ支店又ハ  
出張所ヲ設置シ又他ノ銀行ト「コレレスポンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設

置廢止シ又ハ外國銀ト「コレレスポンデンス」ヲ締約若クハ解約スルトキハ共事由チ大藏  
 大臣ニ具狀シテ許可ヲ受クヘシ

第三條 橫濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日即チ明治十三年二月二十八日より滿二十年  
 トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條 橫濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定メ之チ六萬株ニ分チ一株チ百圓トス但株主  
 總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増減ヲ請願スルコトヲ得

第五條 橫濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス

第六條 橫濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ定款ニ從ヒ賣買讓與スルコトヲ得

第七條 橫濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ

- 第一 外國ノ爲替及荷爲替
- 第二 内國ノ爲替及荷爲替

- 第三 貸付
- 第四 諸預金及保護預

- 第五 爲替手形約束手形其他諸証券ノ割引又ハ其代金取立
- 第六 貨幣ノ交換

第八條 橫濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證券地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ賣拂  
 フコトヲ得

(貨幣門)

(資本金ノ部) (橫濱正金銀行條例)



第九條 橫濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スヲアルヘシ  
第十條 橫濱正金銀行ハ第七條八條及九條ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スヲ許サス  
第十一條 橫濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除ク外不動産株券其他ノ物件ヲ買取り又ハ引受クル  
コトヲ得ス

第一 銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルトキ

第二 貸金返済ノ爲メ負債者ヨリ之ヲ引渡シ又ハ賣却スルトキ

第三 貸金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付シタルトキ

第十二條 橫濱正金銀行ハ本行ノ株券ヲ抵當ニ取り又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負債者其辨  
償ヲ忘リテ他ニ相當ノ抵當ナク若シハ返済ノ道ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取り又ハ引受  
クルハ此限ニ在ラス

第十三條 第十一條第二項第三項及第十二條ノ場合ニ於テ不動産株券其他ノ物件ヲ引受ケ  
シキハ必ス十ヶ月以内ニ之ヲ賣却スヘシ但賣却代價不相當ト認メタルハ其事實ヲ大藏  
大臣ニ具申シ延期ヲ請フコトヲ得

第十四條 橫濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ支拂フヘキ諸預金ニ對シ其四分ノ一以上ニ  
當ル準備金ヲ備ヘ置クヘシ

第十五條 橫濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ定メ五十株以上ヲ  
所有スル株主中ニ就キ之ヲ撰舉シ其任期チ一年トス但滿期ニ當リ復選スルモ妨ナキモノ

トス

第十六條 頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但大藏大臣ニ於テ必  
要ト思考スルハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ橫濱正金銀行頭取ヲ兼テシメ又ハ橫濱正金  
銀行頭取ヲシテ日本銀行理事ヲ兼テシムルコトアルヘシ

銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ副頭取一人ヲ互選スルコトヲ得但其職權ハ頭取事故ノ  
ルトキ之ヲ代理スルニ止マルモノトス

頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十七條 橫濱正金銀行ハ毎年二回定式株主總會ヲ開キ定款ニ定メタル事項ヲ決定スヘシ  
又臨時ノ事件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會ヲ開クコトヲ得

株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ

第十八條 毎半季利益金ヲ配當スルトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シ認可ヲ受クヘシ

第十九條 毎半季純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フコト

第二 配當金ノ不足ヲ補フコト

第二十條 貸金返済ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルトキハ其損失ト見積リ  
タル金額ニ對シテ準備金ヲ積立ツヘシ

第二十一條 橫濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金ノ半額以上ヲ減少シタルトキ又

(貨幣門)

(預金貸金ノ部)

(橫濱正金銀行條例)



ハ此條例ニ背戻レタル所爲アリテ大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ解散ヲ命スルコトヲ得

又株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ於テハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得但此總會ニ於テハ株主總員二分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ三分ノ二以上ニ依テ決議スルモノトス

第二十二條 橫濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戻スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ不利ナリト認ムル事件アルトキハ大藏大臣之ヲ制止スルコトヲ得

第二十三條 大藏大臣ハ時々官吏ヲ派遣シテ橫濱正金銀行ノ業務及財産ノ實況ヲ検査セシムヘシ

第二十四條 橫濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十五條 橫濱正金銀行本支店及出張所ニ於テハ重要ノ文書ニ其本支店若シハ出張所ノ印ヲ捺捺スヘシ但横文ヲ以テ發スル文書ニハ之ヲ捺捺スルコトヲ要セス

第二十六條 橫濱正金銀行ハ明治二十年七月十日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議ヲ以テ更ニ定款ヲ制定シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款ノ改正増補ヲ要スルトキハ亦本條例ニ準ス

第二十七條 橫濱正金銀行ノ頭取取締役其他ノ役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五圓以上

五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ三箇月以前ニ之ヲ公布スヘシ

○諸貸付金整理順序(十九年四月二十四日 大藏省訓令第五號 北海道廳府縣)

諸貸付金整理方ノ義十九年度以後左ノ通心得ヘシ

但書式ハ別ニ送付ス (書式略ス)

第一條 諸貸付金ノ徵收ハ明治十九年閣令第三號歳入歳出納規則ニ準據スルモノトス

第二條 諸貸付金ヲ徵收スルニ付テハ明治十九年當省令第四號歳入取扱順序第十六條第十七條ニ據ル

第三條 諸貸付金ハ左ニ掲ケル科目ニ分ツテ整理スヘシ

一 舊藩貸 従前ノ舊藩貸ヲ云フ

二 勸業貸 従前ノ勸業貸ヲ云フ

三 繰替貸 豫備金繰替金舊島田組貸付金等ヲ云フ

四 雜種貸 従前ノ救助貸雜貸官方貸外國債代價石炭貸並ニ從來雜收入トシテ納入スヘキモノノ内諸過渡金諸拂下代諸方下料其他既認入費償却金等ノ類ニシテ年月賦付シクハ置据ノ後上納スヘキモノ及身代限ノ過分ヲ受ケ追テ身代持直次第上納スヘキモノヲ云フ

第四條 諸貸付金返納期限ニ際シ困難ノ事情等ニ依リ猶豫ヲ請フ場合ニ於テハ各廳限リ六ケ月以内ノ延期ヲ與フルコトヲ得

(貨幣門) (預金貸金ノ部) (諸貸付金整理順序)



第五條 左ニ掲クル諸件ハ處分ヲ了シタル後其事由ヲ詳記シ計算書ヲ付每一箇月取纏メ翌月五日限當省ヘ報告スヘシ

- 一 年賦返納金ヲ繰上ケ又ハ返納年度未定ノ金額ヲ一時ニ上納ヲ願出タルトキ
- 二 舊藩貸付金ニ係ル年賦返納金ヲ利引ヲ以テ一時ニ返納ヲ願出タルトキ  
但勸業貸繰替貸及雜種貸ト雖モ別段ノ伺定アルモノハ本項ニ據ル
- 三 負債主ノ移轉ニ因リ他ノ管廳ヘ引繼キ若シクハ之ヲ引受タルトキ
- 四 負債主失踪シタルトキ(明治二十年二月十八日追加)及ヒ失踪後三十六ヶ月經過シタルトキ
- 五 負債主身代限ノ處分ヲ受ケタルトキ
- 六 負債主死亡若シハ退隱等ニテ相續人ヘ負債ノ義務移轉シタルトキ

第六條 左ニ掲クル諸件ハ事由ヲ詳悉シ處分ノ見込ヲ具シ經伺ノ上處理スヘシ

- 一 諸貸付金返納ノ年月賦ヲ變換シ若シクハ負債ノ義務他人ヘ移轉ヲ願出タルトキ
- 二 諸貸付金ニ對スル抵當品ノ増減交換ヲ願出タルトキ
- 三 諸貸付金ノ棄捐又ハ利子ノ減却或ハ免除ニ係ルモノ

第七條 諸貸付返納金ハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ現收シタル額ヲ以テ一週年度ノ決算トス

第八條 第五條第二項ノ利引額第三項ノ引續額又ハ引受額ハ報告ノ月ニ於テ加除スヘシ

第九條 第五條第四項ニ係ル未納金額ハ報告ノ月ニ於テ返納年度未定ノ部ヘ組替共三十六

箇月經過ノ後尙徵收ノ途ナキトキハ雜種貸中還納未定ノ部ヘ組替スヘシ

第十條 第五條第五項ニ係ル分配金ハ相當ノ科目ヘ收納シ未納金額ハ報告ノ月ニ於テ雜種貸中還納未定ノ部ヘ組替スヘシ

第十一條 第六條第一項返納金ノ年月賦ヲ變換シ又ハ第三項ノ棄捐等ニ係ルモノハ指令日附ノ月ニ於テ加除スヘシ

第十二條 左ニ掲クル諸件ハ其期限後十五日以内ニ該廳ヲ發シ當省ニ送付スヘシ

- 一 毎年四月一日ノ現狀ニ依リ諸貸付未納金報告書(書式第一號)及ヒ返納年度未定内譯表(書式第二號)ヲ調製スルヲ
- 二 前項報告書ニ對シ其増減毎年八月一日十二月一日(明治二十年十月八日追加)及ヒ四月一日ノ現狀ニ依リ増減報告表(書式第三號)ヲ調製スルヲ
- 三 毎月納済ノ金額ハ歳入取扱順序第二十五條ニ準シ歳入報告書ヲ調製スルヲ
- 四 前項ノ報告書ト同時ニ勸業貸及繰替貸ノ收入濟仕譯書(書式第四號)ヲ調製スルヲ
- 五 第四條ニ依リ諸貸付金ノ返納期限ヲ六箇月以内延期シタルトキハ毎月之レヲ報告書(書式第五號)ヲ調製スルヲ

第十三條 此整理順序ニ對シ從前ノ當省達中矛盾スル廉ハ廢止ス

○諸貸付金徵收取扱順序(十九年五月二十日農商務省訓令第四號)

(貨幣門) (預金資金ノ部) (諸貸付金徵收取扱順序)



當省諸貸付金返納取扱方ノ儀十九年度以後左ノ通心得ヘシ

諸貸付金徵收取扱順序

- 第一條 當省貸下金ノ徵收ハ明治十九年四月大藏省訓令第五號諸貸付金整理順序ニ準據スルモノトス
- 第二條 諸貸下金ヲ徵收スルニ付テハ豫テ定ムル處ノ返納期限ニ先ダチ各廳ニ於テ隨時納額告知書ヲ發スヘシ
- 第三條 整理順序第四條第五條第六條ノ處分ニ係ルモノハ其時々當省ヘ伺出ヘシ
- 第四條 毎月納濟ノ金額ハ整理順序第十二條第三項第四項ニ掲クル報告書及仕譯書ヲ調製シ翌月十日迄ニ當省ヘ送附スヘシ其第一項第二項第五項ニ係ル調書ハ差出ニ及ハス

教育門

○勅令第三號(明治十九年三月二日官報)

◎帝國大學令

- 第一條 帝國大學ハ國家ノ須要ニ應ズル學術技藝ヲ教授シ乃チ其蘊奧ヲ攷究スルヲ以テ目的トス
- 第二條 帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ分科

大學ハ學術技藝ノ理論及應用ヲ教授スル所トス

- 第三條 分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ經クル者ニハ卒業證書ヲ授與ス
- 第四條 分科大學ノ卒業生若シハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者コシテ大學院ニ入り學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ定規ノ試験ヲ經クル者ニハ學位ヲ授與ス
- 第五條 帝國大學職員ヲ置ク左ノ如シ

總長 勅任

評議官

書記官 奏任

書記 判任

第六條 帝國大學總長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ帝國大學ヲ總轄シ其職掌ノ要領ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一 帝國大學ノ秩序ヲ保持スル事
- 第二 帝國大學ノ狀況ヲ監視シ改良ヲ加フルノ必要アリト認ムル事項ハ案ヲ具ヘテ文部大臣ニ提出スル事
- 第三 評議會ノ議長トナリテ其議事ヲ整理シ及ヒ議事ノ顛末ヲ文部大臣ニ報告スル事
- 第四 法科大學長ノ職務ニ當ル事

(教育門) (帝國大學令)



第七條 評議會ハ便宜ニ從ヒ帝國大學若シハ文部省ニ於テ開設ス

評議會ノ議ニ付スベキ事項左ノ如シ

第一 學科課程ニ關スル事項

第二 大學院及ヒ分科大學ノ利害ノ消長ニ關スル事項

第八條 評議會ハ文部大臣各分科大學教授ヨリ各二人ヲ特選シテ之ニ充ツ

第九條 評議會ハ五箇年ヲ以テ任期トス任期滿ツルノ後時宜ニ依リ更ニ勤績ヲ命スルコト  
アルベシ

第十條 分科大學ハ法科大學醫科大學工科大学文科大學及理科大學トス

法科大学ヲ分テ法律學科及政治學科ノ二部トス

第十一條 各分科大學職員ヲ置ク左ノ如シ

長 奏仕

教授 奏任

助教授 奏任

舍監 奏任

書記 判任

第十二條 分科大學長ハ教授ヨリ特選シテ之ニ兼任ス

分科大學長ハ帝國大學總長ノ命令ノ範圍内ニ於テ主管科大學ノ事務ヲ掌理ス

第十三條 各分科大學ノ教授ヨリ特選シテ之ニ兼任ス

教授ハ教授及助教授ノ職務ヲ監督シ及教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル

第十四條 各分科大學ハ教授助教授ノ人員ハ其學科ノ輕重及學生ノ員數ニ應シテ別ニ文部

大臣ニ定ムル所ニ依ル

朕茲ニ帝國大學ノ職員官等ヲ裁可ス

○中學校令(勅令)第十五號(明治十九年四月十日)

第一條 中學校ハ實業ニ就カント欲シ又ハ高等ノ學校ニ入ラント欲スルモノニ須要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 中學校ヲ分テ高等尋常ノ二等トス高等中等校ハ文部大臣ノ管理ニ屬ス

第三條 高等中學校ハ法科醫科工科大学理科農業商業等ノ分科ヲ設クルコトヲ得

第四條 高等中學校ハ全國北海道神戶ヲ除クニ分置シ每區ニ一箇所ヲ設置ス其區域ハ文部

大臣ノ定ムル所ニ依ル

○文部省告示(第三號)(明治十九年十月)

勅令第十五號中學校令第四條ニ基キ高等中學校ノ設置區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

(教育門) (中學校令)



高等中學校ノ設置區域

第一條 高等中學校ノ設置區域左ノ如ク

第一區

東京府 神奈川縣 埼玉縣 千葉縣 茨城縣 群馬縣 栃木縣 愛知縣 靜岡縣  
山梨縣 長野縣

第二區

宮城縣 福島縣 岩手縣 青森縣 秋田縣

第三區

京都府 大坂府 兵庫縣 三重縣 滋賀縣 岐阜縣 鳥取縣 嶋根縣 岡山縣  
廣島縣 山口縣 和歌山縣 德嶋縣 愛媛縣 高知縣

第四區

新潟縣 福井縣 石川縣 富山縣

第五區

長崎縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣 鹿兒嶋縣

第二條 高等中學校ノ位置第一區ハ東京第三區ハ京都第四區ハ金澤ト、第二區第五區ハ追分ノ決定ハ、當國ノ邊境トシテ、各該國ノ官報ニ依リテ、

○文部省令告示第四號(明治十九年十二月九日官報)

文部省告示第三號高等中學校ノ設置區域第二條高等中學校ノ位置第二區ハ仙臺トス

○文部省告示第二號(明治二十年四月十五日官報)

明治十九年十一月 文部省告示第三號高等中學校ノ設置區域第二條高等中學校ノ位置第五區ハ熊本縣トス

○文部省告示第三號(明治二十年四月十八日官報)

今般高等中學校設置區域第二區内仙臺及第四區内金澤ニ高等中學校ヲ設置シ仙臺ニ設置スルモノヲ第二高等中學校ト稱シ金澤ニ設置スルモノヲ第四高等中學校ト稱ス

○文部省告示第五號(明治二十年五月三十日官報)

今般高等中學校設置區域第五區内熊本ニ高等中學校ヲ設置シ第五高等中學校ト稱ス

○勅令第四十六號(明治二十年五月三十日官報)

○高等中學校設置區域内府縣委員會規則

第一條 委員會ハ九月若シハ十月ニ於テ高等中學校所在ノ府縣廳下ニ之ヲ開シ其開閉ハ

(教育門) (高等中學校設置區域内府縣委員會規則)



學校設置區域内各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事ヨリ之ヲ命ス會期ハ七日以内トス  
 但各府縣知事協議ノ上内務大臣ノ認可ヲ得テ開會ノ場所ヲ變更スルコトヲ得  
 第二條 委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會ニ於テ議定シタル事件ノ要領ヲ報告スヘシ  
 第三條 委員ノ任期ハ一會期限リノモノトス 但前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得  
 第四條 委員會ノ書記ハ開會地ノ府縣知事其廳ノ屬官若シハ雇員中ヨリ之ヲ選任スヘシ  
 第五條 委員會ノ諸費ハ之ヲ各府縣ニ平分シ其府縣會議諸費ヨリ支辨スヘシ  
 第六條 府縣會議規則第三條第四條第五條第九條第十一條第二十五條第二十六條第二十七條  
 第二十八條第二十九條第三十條第三十二條第三十三條第三十三條ハ此委員會ニ適用シ其條項中府縣  
 知事ノ職權ニ屬スルモノハ各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事之ヲ施行スヘシ  
 第七條 高等中學校ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支辨シ又ハ國庫ト該學校設置區域内ニ在ル府縣  
 ノ地方稅トニ依リ之ヲ支辨スルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ其管理及經費分擔ノ方法等  
 ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

○敕令第四十號 (明治二十年八月二日官報)

中學校令第五條ニ依リ高等中學校ノ經費ヲ國庫金ト地方稅トヲ以テ支辨スル場合ニ於テハ  
 該學校設置區域内ニ在ル府縣地方稅ノ負擔總額ハ當額ノ内文部大臣之ヲ定メ各府縣分擔額  
 ハ府縣知事協議ノ上之ヲ查定シ府縣常置委員ノ互選ヲ以テ各委員三名ヲ出シテ之ヲ議定シ

其徵收方法ハ各府縣會ニ於テ議定ス可シ但地方稅ノ負擔額ハ該學校經費總額ノ二分一ヲ超  
 過スルコトヲ得ス

第六條 尋常中學校ハ各府縣ニ於テ便宜之ヲ設置スルコトヲ得但其地方稅ノ支辨又ハ補助  
 ニ係ルモノハ各府縣一箇所ニ限ルヘシ  
 第七條 中學校ノ學科及其程度ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○文部省令第十六號 (明治十九年七月一日官報) 高等中學校ノ學科ハ通  
 常必要ナキヲ以テ略ス

○文部省令第十四號 (明治十九年六月十二日官報)

勅令第十五號中學校令第七條ニ基キ尋常中學校ノ學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

○尋常中學校ノ學科及程度

第一條 尋常中學校ノ學科ハ倫理國語漢文第一外國語第二外國語農業地理歷史數學博物  
 理化學習字圖書唱歌及體操トス第一外國語學ハ通常英語トシ第二外國語ハ通常獨語若ク  
 ハ佛語トス但第二外國語ト農業トハ其一ヲ缺クコトヲ得又唱歌ハ當分之ヲ缺クモ妨ケナ  
 シ  
 第二條 尋常中學校ノ修業年限ハ五箇年トス  
 第三條 尋常中學校ニ於テハ五級ヲ設ケ每級ノ授業期限ヲ一年トシ一年內ニ於テハ凡四十

(教育門) (尋常中學校ノ學科及其程度)



週授業スヘキモノトス  
 第四條 尋常中學校ノ各學科授業ノ時數凡左ノ如シ

	第五級第一年	第四級第二年	第三級第三年	第二級第四年	第一級第五年
倫理	一	一	一	一	一
國語及漢文	五	五	五	三	二
第一外國語	六	六	七	五	五
第二外國語若クハ農業				四	三
地理	一	二	二	一	一
歷史	一	一	二	一	二
博物學	四	四	四	四	三
物理學	一	一	二	一	三
化學	一	一	一	二	三
習字	二	二	二	二	一
圖畫	二	二	二	二	一
唱歌	二	二	二	二	一
體育	三	三	三	五	五
計	二八	二八	二八	二八	二八

第二外國語ト農業トナシテ置グトキハ其一ヲ生徒ニ課スルモノトス  
 第五條 尋常中學校ノ各學科程度左ノ如シ

倫理 人倫道德ノ要旨ヲ論ズルモノトス

國語及漢文 漢字交リ文及漢文ノ講讀書取作文

第一外國語 讀方譯讀讀書取會話文法作文翻譯

第二外國語 讀方譯讀讀書取會話作文

農業 農業初步及實業

地理 地文及政治地理

歷史 日本及外國歷史

數學 算術 比例及利息算

諸則ノ理由

代數 釋義整數四則分數一次方程式自乘開平開立指數根數二次方程式準二次方程式比  
 例等差級數等比級數調和級數順列組合二項法對數

幾何 定義公理直線形面積平面立體角角錐角球圓錐圓球

三角法 角度三角法比對數表用法三角形距離等ノ測法球面三角

博物 通常ノ動植物ノ示教

植物 觀察解析記述分類大意及植物ノ生活上緊要ナル現象

動物 觀察記述分類大意諸部類ノ相互及外物ノ關係人體ノ生理及衛生

物理 物理上ノ緊要ナル現象及定律

化學 普通ノ化學上ノ現象緊要ナル元素及無機化合物ノ性質

(教育門)

(尋常中學校ノ學科及其程度)



習字 楷行草三體ノ書寫及細字ノ速寫  
 圖畫 自在畫法及用器畫法  
 唱歌 單音及複音唱歌  
 體操 普通及兵式體操

第六條 尋常中學校ノ第五級ニ入ルコトヲ得ヘキモノハ品行端正身體健康年齡滿十二年以上ニシテ中學豫備ノ小學又ハ其他ノ學校ヨリ於テ該級ノ課程ヲ修ムルニ堪フヘキ學力ヲ得タルモノトス  
 其他ノ級ニ入ルコトヲ得ヘキモノハ前項ノ例ヨリ推シテ相當ノ年齡ニ達シ其課程ヲ修メ得ヘキ學力ヲ有シ且品行端正身體健康ナルモノトス  
 第七條 尋常中學校ニ於テハ土地ノ情況ニ因リ文部大臣ノ認可ヲ經テ商業工業ノ科ヲ置クコトヲ得

○文部省第十五號(明治十九年六月廿四日官報)

文部省令第十四號尋常中學校ノ學科體操中兵式體操ノ儀ハ其方法及細目ヲ具シテ文部大臣ノ認可ヲ得ヘシ

○文部省訓令第六號(明治十九年六月廿九日官報)

尋常中學校ノ學科體操中兵式體操細目

府縣立尋常中學校ノ學科體操中兵式體操ハ左ノ細目ニ據ルヘシ

○府縣立尋常中學校體操中兵式體操細目

第 四 年	第 五 年
第一 步兵操典生兵第一部第一章第二節第一教第二教第三教 徒手柔軟體操	步兵操典生兵第一部第一章第四教第五教第六教執銃ニテ步兵操典生兵第一部第一章ノ復習及生兵第二部第一章執銃柔軟體操及其復習
第二 步兵操典生兵第二部第一章第二節第二章 二手柔軟體操	步兵操典生兵第二部第一章及中隊第一節第一章執銃柔軟體操及其復習

右第一表ニ據ルチ常トスト雖モ教員ノ數充分ナルトキハ第二表ニ據ルコトヲ得  
 步兵操典生兵第一部第二章ニ於テ底裝法ヲ施ス能ハサル銃又ハ木銃相當ノ重量ヲ用ユルトキハ口裝法ニ易ナルコトヲ得

第八條 中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ限ル  
 第九條 尋常中學校ハ區町村費ヲ以テ設置スルコトヲ得ズ



◎小學校令勅令第十四號(明治十九年四月十日官報)

- 第一條 小學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス
- 第二條 小學校ノ設置區域及ヒ位置ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル
- 第三條 兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トシ父母後見人等ハ其學齡兒童チレテ普通教育ヲ得セシムルノ義務アルモノトス
- 第四條 父母後見人等ハ其學齡兒童ノ尋常小學校ヲ卒業サル間ハ就學セシムルニ其就學ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル
- 第五條 疾病家計困窮其他己ムチ得サル事故ニ由リテ兒童チ就學セシムルコト能ハスト認定スル者ニハ府縣知事其期限ヲ定メテ就學猶豫ヲ許スコトヲ得
- 第六條 父母後見人等ハ小學校ノ經費ニ充ツル爲メ其兒童ノ授業料ヲ支辨スヘキモノトス其金額ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル
- 第七條 寄附金及其他ノ收入金アリテ小學校ノ經費ニ供スルトキハ其收入及支出ノ方法ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル
- 第八條 授業料及寄附金等ヲ以テ小學校ノ經費ヲ辨シ能ハサル場合ニ於テハ區町村會ノ議決ニ依リ區町村費ヨリ其不足ヲ補フコトヲ得
- 第九條 小學校教員ノ俸給旅費ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル
- 第十條 小學校資金ノ收入及支出ハ其管理者ヨリ毎三箇月府縣知事ニ報告スヘシ

第十一條 小學校ニ屬スル資産ノ管理ニ關スル規程ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

◎文部省令第八號(明治十九年五月廿五日官報)

勅令第十四號小學校令第十二條ニ基キ小學校ノ學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

○小學校ノ學科及其程度

- 第一條 尋常小學校ノ修業年限ヲ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ヲ四箇年トス
- 第二條 尋常小學校ノ學科ハ修身讀書作文習字算術體操トス土地ノ情况ニ因テハ圖畫唱歌ノ一科若クハ二科ヲ加フルコトヲ得
- 第三條 高等小學校ノ學科ハ修身讀書作文習字算術地理歷史理科圖畫唱歌體操裁縫トス土地ノ情况ニテハ英語農業手工商業ノ一科若クハ二科ヲ加フルコトヲ得唱歌ハ之ヲ缺クモ妨ナレ
- 第四條 土地ノ情况ニ因テハ小學校ニ溫習科ヲ設ケ六箇月以上十二箇月以内兒童チシテ既修ノ學科ヲ溫習シ且之ヲ補修セシムルコトヲ得  
但尋常小學校ニ於テハ修業年限ノ外高等小學校ニ於テハ修業年限ノ内ニテ之ヲ設クヘ
- 第五條 尋常小學校ニ於テハ兒童ノ數八十八人以下高等小學校ニ於テハ六十八人以下ハ教員一人ヲ以テ之ヲ教授スルコトヲ得

(教育門) (小學校令)



第六條 小學校ニ於テ教員二人ヲ置クトキハ二學級ヲ設クヘシ兒童ノ數百二十人ヲ超スル  
トキハ三學級トナスヘシ

但教員三人以上ヲ置クトキハ本文ニ準シテ學級ヲ設クヘシ

第七條 小學校ハ一箇年內凡八週間及日曜日大祭日祝日ハ休業スヘシ

但土曜日ハ午後休業スルコトヲ得

第八條 小學校ノ授業時間ハ毎日凡五時トス

第九條 各學科ノ每週授業時間凡左ノ如シ

○尋常小學校

高等小學校

一時三十分

一時三十分

十四時

十時

六時

六時

算術

六時

地理

四時

歷史

二時

理科

二時

圖畫

二時

唱歌

二時

體操

五時

裁縫

二時乃至六時

第十條 各學科ノ程度左ノ如シ

修身 小學校ニ於テハ内外古今人士ノ善良ノ言行ニ就キ兒童ニ適切ニシテ且理會シ易キ

簡易ナル事柄ヲ談話シ日常ノ作法ヲ教ヘ教員身自ラ言行ノ模範トナリ兒童ヲシテ善ク

之ニ習ハシムルヲ以テ專要トス

讀書 尋常小學校ニ於テハ假名ノ單語短句簡易ナル漢字交リノ短句及地理歷史理科ノ事

項ヲ交ヘタル漢字交リ文高等小學校ニ於テハ稍之ヨリ高キ漢字交リノ文

作文 尋常小學校ニ於テハ假名ノ單語短句簡易ナル漢字交リノ短句漢字交リ文口上書類

及日用書類高等小學校ニ於テハ漢字交リノ文及日用書類

習字 尋常小學校ニ於テハ假名日用文字口上書類及日用書類高等小學校ニ於テハ日用

文字及日用書類

算術 尋常小學校ニ於テハ珠算ヲ用ヒ加法減法乘法除法普通ノ度量衡貨幣日用適切ノ雜

題及暗算高等小學校ニテハ算算ヲ用ヒ算用數字簡易ナル命位記數加法減法乘法除法分

數小數比例利息算雜題筆記ノ概略及暗算

地理 地理ハ學校近傍ノ地形其郷土郡區府縣本邦地理地球ノ形狀晝夜四季ノ原由大洋大

洲ノ名目等及外國地理ノ概略

歷史 歷史ハ建國ノ體制神武天皇ノ即位王朝ノ政治藤原氏ノ專權幕府ノ創立徳川氏ノ治

蹟王政維新外國交通貿易及世態又事物人情風俗ノ變遷等ニ關シ重要ナル事柄及忠貞賢

哲ノ事蹟

(教育門)

(小學校ノ學科及其程度)



理科 理科ハ果實動物菜蔬草木人體禽獸蟲魚金銀銅鐵等人生ニ最モ緊切ノ關係アルモノ  
 日月星空氣溫度水蒸氣雲霧霜雪露水電風雨火山地震湖汐燃燭銷腐敗唧筒噴水音響返響  
 時計寒暖計晴雨計蒸氣器械眼鏡色虹槓杆滑車天秤磁石電信機等日常兒童ノ目擊シ得ル  
 所ノモノ  
 圖畫 圖畫ハ自在畫及用器畫  
 唱歌 唱歌ハ單音唱歌複音唱歌  
 體操 體操ハ幼年ノ兒童ニハ遊戲稍長シタル兒童ニハ輕體操男兒ニハ隊列運動ヲ交フ  
 裁縫 裁縫ハ連針法襪裱單物袷等通常衣服類ノ縫方裁方及補綴方

○文部省令第二十五號 (明治十九年十二月二十八日官報)

文部省令第八號小學校ノ學科程度第十條算術ノ部ニ左ノ二項ヲ追加ス  
 尋常小學校ニ於テ算術ヲ用フルトキハ算用數字簡易命位記數加法減法乘法除法普通ノ度  
 量衡貨幣日用適切ノ雜題及暗算トシ高等小學校ニ至リ分數小數比例利息算開平開立求積  
 雜題簿記ノ概略及暗算トス  
 又尋常小學校ニ於テハ算算珠算ヲ併置スルモ妨ケナシ

○文部省訓令第五號 (明治十九年六月九日官報) (北海道廳府縣)

文部省令第八號小學校ノ學科及其程度ニ付實施上要スル方法ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ  
 第十三條 小學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ限ルヘシ

○文部省訓令第三號 (明治二十年三月二十五日官報) (北海道廳府縣)

公立小學校教科用圖書採定ノ方左ノ通心得ヘシ

○公立小學校教科用圖書採定方法

- 第一條 北海道廳長官府縣知事ハ公立小學校ノ教科用圖書ヲ新定又ハ更定セントスルト  
 キハ其都度小學校教科用圖書審查委員ヲ設ケテ其事由ノ當否實施ノ時期等ヲ審議セシメ  
 併セテ圖書ヲ採擇セシムヘシ  
 第二條 審查委員ハ左ノ諸員ヲ以テ組織スヘシ  
 一 尋常師範學校長若クハ長補  
 二 學務課員一名  
 三 尋常師範學校教頭及附屬小學校上席訓導  
 四 小學教員三名  
 五 該地方經濟上ノ情況ニ通スル者二名

第三條 北海道廳長官府縣知事ハ審查ニ係ル圖書ニ掲載スル所ノ事物ニ通スル教員等ヲシ  
 テ該圖書ヲ採擇上ニ限リ審查委員ト同一ノ資格ヲ以テ便宜之ニ參與セシムヘシ但一種類

(教育門) (公立小學校教科用圖書採定方法)



ノ圖書ニ付一名ニ限ルヘシ

第四條 審査委員ニ於テ審査上ニ關スル事項ヲ決定スルハ會議ニ依ルヘキモノトス

第五條 北海道廳長官府縣知事ハ審査委員中ニ就キ審査委員會ノ議長ヲ命スヘシ

第六條 審査委員ハ自己及其親屬並其地方廳學務課員ノ著撰譯述編纂校閱及出版等ニ係ル圖書ヲ採擇スルコトヲ得サルモノトス但已ムヲ得サル場合ニ於テハ北海道廳長官府縣知事共事情ヲ詳具シ認可ヲ經テ本文ノ例ニ依ラサルコトヲ得

第七條 審査委員ハ未ダ文部大臣ノ檢定ヲ經サル圖書ト雖モ之ヲ採擇スルコトヲ得

但北海道廳長官府縣知事ハ本文ニ依リ採擇シタル圖書ヲ新定又ハ更定ノ圖書ニ充ントスルトキハ豫メ文部大臣ノ檢定ヲ經ヘシ

第八條 審査委員ニ於テ審査ヲ終ルトキハ其意見及會議ノ頗末ヲ具シ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ

第九條 北海道廳長官府縣知事ニ於テ教科用圖書ヲ新定又ハ更定スルニハ一學科ニ就キ數種ノ圖書ヲ取ルモ若クハ一種ノ圖書ニ限ルモ妨ケナシ

第十條 北海道廳長官府縣知事ハ教科用圖書ノ新定又ハ更定ヲ公布スルニ箇月前ニ於テ其事由實施ノ時期圖書ノ目錄及第八條審査委員ノ申報又第六條但書ノ場合ニ屬スル處分アルトキハ共事情ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

○文部省訓令第十二號 (明治二十年九月十二日官報)

(北海道廳 府縣)

本年三月文部省訓令第三號公立小學校教科用圖書採定方法ニ依リ新定若シハ更定シタル圖書ハ四箇年ヲ經ルニアラサレハ之ヲ變更スヘカラス又該圖書ハ之ヲ課スヘキ最下ノ學級ヨリ用ヒシメ其他ノ學級ニハ從來ノ教科用圖書ヲ製用セシメ漸次各學級ヲテ新舊交換セシムルニシテ但本文ニ依リ難キ特別ノ事情アルニ於テハ文部大臣ニ稟申スヘシ

第十四條 私立學校ニ於テ小學校ト均シキ普通教育ヲ兒童ニ施サントスルモノハ豫メ府縣知事ノ認可ヲ經ヘシ

第十五條 土地ノ情況ニ依リテハ小學簡易科ヲ設ケテ尋常小學科ニ代用スルコトヲ得但其經費ハ區町村費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

○文部省訓令第一號 (明治十九年五月二十五日官報)

(北海道廳 府縣)

小學簡易科ハ益々要領ニ依リ土地ノ情況ヲ考ヘ其敷則チ定ムヘシ

○小學簡易科要領

- 一 修業年限 三箇年以内ナルヘシ
- 一 學科 簡書作文習字算術
- 一 學級 兒童六十人以下ノ場合ニ於テハ學級ヲ分ツコトヲ得ス其他ハ尋常小學校ニ準ス

(教育門)

(公立小學校教科用圖書採定方法)



一 授業時間

毎日二時ヨリ少カラス三時ヨリ多カラス

但算術ノ授業時間ハ授業時間總數ノ半以上タルヘシ

第十六條 小學簡易科教員ノ俸給ハ地方稅ヲ以テ之ヲ補助スルコトヲ得

◎師範學校令(明治十九年四月十日勅令第十三號布告)

第一條 師範學校ハ教員トナルヘキモノヲ養成スル所トス

但生徒ヲシテ願良信愛威重ノ氣質ヲ備ヘシムルコトニ注目スヘキモノトス

第二條 師範學校ヲ分テテ高等尋常ノ二等トス高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬ス

第三條 高等師範學校ハ東京ニ一箇所尋常師範學校ハ府縣ニ各一箇所ヲ設置スヘシ

第四條 高等師範學校ノ經費ハ國庫ヨリ尋常師範學校ノ經費ハ地方稅ヨリ支辨スヘシ

◎勅令第三十號(明治二十年七月七日官報)

明治十九年<sup>四</sup>勅令第十三號師範學校令第四條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但尋常師範學校附屬小學校ノ經費(簡易科ニ係ルハ)授業料ヲ以テ支辨スヘシ授業料ノヨ

チ以テ支辨シ能ハサル場合ニ於テハ其不足額ハ訓導俸給ヲ除クノ外尋常師範學校經費

ヨリ支辨スヘシ

第五條 尋常師範學校ノ經費ニ要スル地方稅ノ額ハ府縣知事其豫算ヲ調整シ文部大臣ノ認

可ヲ受クヘシ

○文部省訓令第二號(明治十九年五月二十六日官報)

(府縣沖繩縣ヲ除ク)

師範學校令第五條ニ依リ本大臣ノ認可ヲ受クヘキ尋常師範學校經費豫算ノ備ハ其説明書ヲ

添ヘ毎年九月十五日マテニ差出スヘシ

第六條 師範學校長及教員ノ任期ハ五箇年トス滿期ノ後尙ホ繼續スルコトアルヘシ

第七條 尋常師範學校長ハ其府縣ノ學務課長ヲ兼スルコトヲ得

第八條 師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○文部省令第十八號(明治十九年十月十四日官報)

勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ高等師範學校生徒募集規則ヲ定ムルヲ左ノ如シ

○高等師範學校生徒募集規則

第一條 高等師範學校男女生徒ハ府縣知事之ヲ選舉シ高等師範學校長其中ニ就キ選抜スル

モノトス

第二條 高等師範學校ノ男生徒ハ尋常師範學校ヲ卒業シタルモノヨリ選舉シ女生徒ハ尋常師

範學校ノ二箇年課程ヲ終リタルモノ若シハ之ニ均シキ學力並資格ヲ有スルモノヨリ選舉

スヘシ

(教育門)

(師範學校令)



第三條 高等師範學校ノ男女生徒ハ毎年一度之ヲ募集シ其期日及員數ハ其都度高等師範學校ヨリ府縣ニ通知スヘシ

第四條 新募生徒ハ初メ試験生トシテ三箇月以内假ニ入學セシメ其資性品行等ヲ審察シ適當ト認ムルモノニ限り本入學ヲ許スヘシ

○文部省令第十九號(明治十九年十月十四日官報)

勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ高等師範學校卒業生服務規則ヲ定ムルヲ左ノ如シ

○高等師範學校卒業生服務規則

第一條 高等師範學校男子師範學科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年トシ其間教職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス

第二條 高等師範學校男子師範學科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年間ハ文部省指定ノ場所ニ奉職スル義務ヲ有スルモノトス

第三條 高等師範學校女子師範學科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年トシ其間教職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス

第四條 高等師範學校女子師範學科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間ハ文部省指定ノ場所ニ奉職スルノ義務ヲ有スルモノトス

○文部省令第十號(明治十九年五月二十八日官報)

勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ尋常師範學校生徒募集規則ヲ定ムルヲ左ノ如シ

○尋常師範學校生徒募集規則

第一條 尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ資格ヲ有スルモノヨリ募集スヘシ

一 身體強健ニシテ師範學校令第一條但書ノ目的ヲ達シ得ヘキト認ムルモノ

一 高等小學校卒業以上ノ學力ヲ有スルモノ

一 年齡十七年以上二十年以下ノモノ 但第二條第一種ノモノハ此限ニアラス

一 其府縣下在籍ノモノ

○文部省令第一號(明治二十年四月三十日官報)

明治十九年五月文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則第一條第三項ノ但書ヲ刪除ス

第二條 尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ二種ヨリ募集スヘシ

第一種 郡區長ノ薦舉ニ係ルモノ

第二種 直ニ師範學校ニ願出タルモノ

第三條 尋常師範學校ニ於テハ入學志願者ノ身體學力等ヲ檢定シテ之ヲ選フヘシ

身體ノ檢定ハ府縣立病院或ハ他ノ適當ノ醫員ヲシテ執行セシメ學力ノ檢定ハ高等小學校ノ學科程度ニ依テ之ヲ施行スヘシ

(教育四)

(高等師範學校卒業生服務規則尋常師範學校生徒募集規則)



第四條 生徒ノ募集ハ毎年一度學期ノ始ニ於テ其期日及員數ハ其郡度前以テ廣告スヘシ  
第五條 入學ヲ許可セントスルトキハ初メ試驗生トシテ一箇月以上三箇月以内假コ入學セ  
シメ共資性品行等ヲ審察シ適當ト認ムルモノニ限リ本入學ヲ許スヘシ  
第六條 入學志願者ノ願書薦學書及履歷書ハ左式ニ依テ之ヲ出スヘシ

○第一種志願者願書式

某志願者儀小學校教員志願ニ付御校へ入學ノ許可ヲ得度何郡區長薦學書相添此段相願  
候也

何府縣何國何郡區何町村何番地居住誰方同居

何府縣華士族平民

戶主誰長男女弟妹等

入學志願者 姓 名 印

年 月 日

當何年何月幾年幾月

何師範學校長某殿

○薦學書式

族 籍

姓 名

右ノ者儀豫テ當郡區内小學校教員志願ニ付今般御校生徒ノ募集ニ應シ入學志願ノ旨申

出候尤同人儀ハ別紙履歷書ノ通何年何月當郡區何小學校卒業生ニシテ爾來何職ニ從事  
シ若シハ何郡區何學校ニ於テ何科ヲ修メ云々其資性品行ニ付テハ師範學校令第一條但  
書ノ目的ヲ達スルニ適スル者ト認メ候ニ付薦學候也  
年 月 日 何郡區長 姓 名 印

何師範學校長某殿

○第二種志願者願書式

某志願者儀小學校教員志願ニ付御校へ入學ノ許可ヲ得度尤某ノ身上ニ關スル事件ハ保  
證人ニ於テ一切引受シヘシ候間別紙履歷書相添此段相願候也

何府縣何國何郡區何町村何番地居住誰方同居

何府縣華士族平民

戶主誰長男女弟妹等

入學志願者 姓 名 印

年 月 日

當何年何月幾年幾月

何府縣何國何郡區何町村何番地居住

何府縣華士族平民

保證人 姓 名 印

何師範學校長某殿

(教育門)

(師範師範學校生徒募集規則)



前書保證人ハ保證ノ責ニ任シ得ル者ト認ム

何府縣何國郡區長

年月日

姓

名印

○履歷書式  
履歷書

何府縣何國何郡區何町村何番地居住離方同居

何府縣華士族平民

戸主離長男女弟妹等

生所何府縣何國何郡區何町村

姓

名印

何年何月生

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何所何學校ニ於テ何科修業

一 何年何月何所何學校ニ於テ何科卒業證書ヲ受領ス

○卒業證書ノ寫

何々

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何所何職ニ就キ何學修業

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何職ニ從事ス

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何學校補助員ニ雇ハル

一 何年何月何所ニ於テ何職ニ付何賃ヲ受ケ或ハ何罰ヲ受ク  
何々

第七條 保證人ハ其府縣下ニ本籍ヲ定メ現ニ入學志願者居住ノ郡區内ニ居住スル戸主ナル

但師範學校長ニ於テ保證人ヲ不十分ト認ムルトキハ之ヲ易ヘシムルコトアルヘシ

第八條 保證人ノ住所師範學校ノ所在地ヨリ一里以外ニアルモノハ別ニ其以內ニ居住若シ

ハ寄留スルモノヲ以テ保證人代理者トナシ豫テ其學校ニ届置不時急劇ノ用ニ應スヘシ

但師範學校長ニ於テ保證人代理者ヲ不十分ト認ムルトキハ之ヲ易ヘシムルコトアルヘシ

第九條 尋常師範學校生徒ノ員數ハ左表ノ如シ

尋常師範學校生徒員數表

府縣名	生徒數	府縣名	生徒數	府縣名	生徒數
東京	一〇〇	千葉	一五〇	長野	二〇〇
京都	一五〇	茨城	一四〇	宮城	一二〇
大阪	二四〇	栃木	一〇〇	福岡	一八〇
				鳥取	一〇〇
				富山	一四〇
				根	一四〇

(教育門)

(尋常師範學校生徒募集規則)



福岡	高知	郡馬	埴玉	新瀉	長崎	兵庫	神奈川
一五〇	一五〇	一四〇	一五〇	二四〇	二二〇	二〇〇	一一〇
佐賀	大分	岐阜	滋賀	山梨	静岡	愛知	三重
一〇〇	一四〇	二〇〇	一一〇	一〇〇	一五〇	二〇〇	一五〇
宮崎	熊本	石川	福井	秋田	山形	青森	岩手
一〇〇	一五〇	一五〇	一四〇	一五〇	一五〇	一二〇	一五〇
	鹿児島	愛媛	徳島	和歌山	山口	廣島	岡山
	一五〇	二〇〇	一四〇	一四〇	一五〇	一八〇	一八〇

七八二

北海道及沖繩縣ハ追テ之ヲ定ムヘシ

第十條 郡區長薦舉ニ係ル生徒ノ員數ハ郡區長ノ所轄區域毎ニ府縣知事之ヲ定ムヘシ  
第十一條 郡區長ノ薦舉ニ關スル方法ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

○文部省令第十一號(明治十九年五月二十八日官報)

勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ尋常師範學校卒業生服務規則ヲ定ムルノ左ノ如シ  
○尋常師範學校卒業生服務規則  
第一條 尋常師範學校卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年トシ其間教職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス

第二條 尋常師範學校ノ卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年間其府縣知事指定ノ學校ニ奉職スルノ義務ヲ有スルモノトス

但郡區長ノ薦舉ニ係ル生徒ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年間其郡區長指定ノ小學校ニ奉職スルノ義務ヲ有スルモノトス

第三條 第一條第二條ノ義務ヲ盡ス能ハサルノ事故アル者ハ其理由ヲ具シテ府縣知事ノ指揮ヲ請フヘシ

第四條 第一條第二條ノ義務ヲ終ヘタル者ハ其經歷書ヲ具シテ其府縣廳ニ届ケ出ヘシ

第五條 罷ハレナシ第一條第二條ノ義務ヲ盡サハルモノ或ハ服務年限内ニ於テ品行不正ニシテ其職務ヲ免シタルモノアルトキハ其都府縣知事之ヲ文部大臣ニ具申スヘシ

第六條 府縣知事ハ服務規則ニ關スル細則ヲ定ムルコトヲ得

第九條 師範學校生徒ノ學費ハ其學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

○文部省訓令第四號(明治十九年六月四日官報) (府縣沖繩縣ヲ除ク)

勅令第十三號師範學校令第九條尋常師範學校男生徒ノ學費ハ左ノ要領ニ據リ支給スヘシ

- 第一項 生徒ノ學費ハ左ノ五種目ヲ支辨スルモノトス
  - 一 食物
  - 一 被服
  - 一 日用品
  - 一 修理及湯浴
  - 一 一週間手當
- 第二項 食物ハ專ハテ衛生上ニ注意シテ賄フヘシ

(教育門) (尋常師範學校卒業生服務規則)



第三項 被服ハ左ノ九種トシ一定ノ時期ニ於テ之ヲ給シ若シ所定ノ期限内ニ於テ之ヲ損傷シ更ニ交付スルヲ要スルトキハ其費用ハ本人ヨリ徴收スヘシ

一 冬衣袴 一 夏衣袴 一 冬シャツ袴下 一 夏シャツ袴下 以上四種

ハ入學ノ初年各二組ヲ給シ次年ヨリ各一組ヲ給ス

一 外套 在學中一枚ヲ給ス

一 靴 一 脚絆 以上二種ハ一個年各二足ヲ給ス

一 帽子 師ノ宇ノ徽章ヲ付ス 在學中二箇ヲ給ス

一 靴下 一箇月二足ヲ給ス

第四項 日用品ハ左ノ六種トシ時ノ需用ニ應レテ適宜之ヲ給スヘシ

一 黒墨汁 一 紙半紙洋紙 一 筆ペン、ペン軸石筆 一 鉛筆常用

一 石油 一 炭

第五項 修理ハ被服ノ洗濯及靴ノ修履トス湯浴ハ寄宿舎構内ニ其場ヲ設クヘシ

第六項 一週間手當ハ毎土曜日ニ於テ其日在學ノ生徒一人ニ付金拾錢ヲ給スヘシ

第七項 給與シタル被服及日用品ハ卒業シテ退學スルモノニ在テハ之ヲ返納セシムルヲ要セスト雖モ半途退學ヲ命シタルモノハ其時ノ現在品ヲ悉皆返納セシムルヲ

第八項 夏期休業中ハ生徒ニ食費及一週間手當ヲ給シ歸郷セシムヘシ

第九項 發病ノ生徒ニ療養ヲ命シタルトキハ其費用ヲ給スヘシ

第十條 高等師範學校ノ卒業生ハ尋常師範學校長及教員ニ任スヘキモノトス

但時宜ニ依リ各種ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得

第十一條 尋常師範學校ノ卒業生ハ公立小學校長及教員ニ任スヘキモノトス

但時宜ニ依リ各種ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得

第十二條 師範學校ノ學科及程度并教科書ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○文部省令第十七號(明治十九年十月十四日官報)

勅令第十三號師範學校令第十二條ニ基キ高等師範學校ノ學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

○高等師範學校ノ學科及其程度

第一條 高等師範學校ノ學科ヲ分テテ男子師範學科及女子師範學科トス

第二條 男子師範學科ヲ分テテ理化學科博物學科及文學科トス

第三條 理化學科ハ教育學倫理學英語數學物理學化學手工圖畫及音樂體操トス

第四條 博物學科ハ教育學倫理學英語有機化學礦物學地質學植物學動物學生理學農藥圖書

及音樂體操トス

第五條 文學科ハ教育學倫理學國語漢文英語地理歷史理財學哲學及音樂體操トス

第六條 各學科ノ程度左ノ如シ

(教育門)

(尋常師範學校卒業生徒服務規則)



○理化學科

教育學 倫理學

教育汎論 教授汎論 教授各論 教育史 批評及實地練習  
人倫道德ノ要旨

英語 講讀 作文 翻譯

數學 代數 幾何 三角術 測量 解析幾何 微分積分大意

物理學 力學 熱學 音響學 光學 越歷學 磁氣學 實驗 天文 氣象

化學 無機化學 有機化學 實驗 定性及定量分析

手工 木工金工ノ道具用法 簡易ノ木金器具製造

圖畫 用器畫法

音樂 溫習

體操 普通及兵式體操

○博物學科

教育學 倫理學

教育汎論 教授汎論 教授各論 教育史 批評及實地練習  
人倫道德ノ要旨

英語 講讀 作文 翻譯

有機化學 總論 炭素化合物分類及特論

礦物學地質學 礦物總論 礦物特論 礦物鑑識 構造地質 諸力ノ作用 地質沿革

植物學 植物分類 植物組織 植物生理 實驗

動物學 動物分類 動物組織 動物發生 實驗

生理學 總論 骨節 筋肉 皮膚 循環 呼吸 消化 神經 特感 衛生 實地解剖

農業 土ノ成分分類植物ノ成分等 肥料ノ用法家畜ノ選擇保護等 耕作ノ實業 器具

ノ用法

圖畫 臨畫 投影畫法 照鏡法 寫生

音樂 溫習

體操 普通及兵式體操

○文學科

教育學 倫理學

教育汎論 教授汎論 教授各論 教育史 批評及實地練習

人倫道德ノ要旨

國語漢文 日本ノ文法文學及作文 支那ノ文法文學及作文

英語 講讀 作文 翻譯

地理歴史 政治地理 日本歴史 外國歴史

(教育門) (尋常師範學校卒業生徒服務規則)



理財學 大意

哲學 心理 論理 哲學史

音樂 溫習

體操 普通及兵式體操

第七條 理化學科博物學科及文學科ノ修業年限ハ三箇年トス

第八條 理化學科博物學科及文學科ニ於テハ各三學級ヲ設ケ每學級ノ授業時限チ一年トシ

一年內ニ於テハ凡四十週授業スヘキモノトス

第九條 理化學科博物學科及文學科ノ授業時間配當ハ左表ニ依ルヘシ

教 育 學	英 語 學	數 學	物 理 學	化 學	手 工 學	圖 畫	音 樂
4	4	4	3	2	2	3	3
教 育 學	英 語 學	數 學	物 理 學	化 學	手 工 學	圖 畫	音 樂
3	3	3	3	3	3	3	3
教 育 學	英 語 學	數 學	物 理 學	化 學	手 工 學	圖 畫	音 樂
3	3	3	3	3	3	3	3

圖 畫	音 樂	六
圖 畫	音 樂	六
圖 畫	音 樂	六

○博物學科

教 育 學	英 語 學	有 機 化 學	地 質 學	植 物 學	動 物 學	生 物 學	農 業 學	圖 畫	音 樂
4	4	2	4	3	2	3	3	3	3
教 育 學	英 語 學	有 機 化 學	地 質 學	植 物 學	動 物 學	生 物 學	農 業 學	圖 畫	音 樂
3	3	2	4	3	2	3	3	3	3
教 育 學	英 語 學	有 機 化 學	地 質 學	植 物 學	動 物 學	生 物 學	農 業 學	圖 畫	音 樂
3	3	2	4	3	2	3	3	3	3

○文學科

(教育門) (尋常師範學校卒業生徒服務規則)







國語	漢文	英語	簿記	地理	博物	物理	化學	家庭	習字	圖畫	音樂	體育	體操
五	六	三	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

七九三

○文部省令第九號 (明治十九年五月二十六日官報)

勅令第十三號師範學校令第十二條ニ基キ尋常師範學校ノ學科及其程度ヲ定ムルノ如シ

第一條 尋常師範學校ノ學科ハ倫理教育國語漢文英語數學簿記地理歷史博物物理化學農業手工家事習字圖畫音樂體操トス

農業手工及兵式體操ハ男生徒ニ課シ家事ハ女生徒ニ課ス

第二條 各學科ノ程度左ノ如シ

倫理 人倫道德ノ要旨

教育 總論智育德育體育ノ理學校ノ設置編制管理ノ方法本邦教育史外國教育史ノ概略

教授ノ原理各學科ノ教授法及實地授業

國語 日本ノ文法文學ノ要略及作文

漢文 支那ノ文法文學ノ要略

英語 綴字習字讀法文法及翻譯

數學 算算ハ命位記數四則分數小數比例利息算自乘法開平開立求積法

珠算ハ加減乘除及四則雜題

代數ハ釋義記法符號四則分數一次方程式自乘法求根法指數法二次方程式比例

幾何ハ定義公理直線直線形圓積比例平面立體角

簿記 單記及複記

地理歷史 地理ハ總論日本地誌外國地誌ノ要略製圖法及地文ノ概論

歷史ハ日本歷史及外國歷史ノ要略

博物 植物ハ總論根莖枝葉花實等ノ形論及其作用生活種類分類法解折法記述法採集法

ノ要旨及隱花植物形質ノ概略

(教育四) (尋常師範學校ノ學科及其程度)

七九三



動物ハ總論有脊動物及無脊動物中ノ主要ナル諸綱ノ論及其解剖ノ初步人身生理ノ要旨

鑛物ハ總論形像化學及物理上ノ性質等及燃鑛類金鑛類石鑛類鹵石類ノ諸論普通鑛物鑑識ノ概略

物理化學 物理ハ總論力學物質論熱學音響學光學越歷學磁氣學ノ要略

化學ハ非金屬金屬中重ナル諸元素及其化合物ノ製法性質及農業工業上重要ナル有機物ノ性質等ノ要略

農業手工 農業ハ土ノ成分分類植物ノ成分等及肥料ノ用法家畜ノ選擇保護等ノ要略耕作ノ實業器具ノ用法手工ハ木工金工具ノ種類用法等及工業上ノ理財ノ要略

家事 衣食住金錢ノ出納等ニ係ル事項及裁縫具ノ用法各種衣服裁縫等ノ實業習字圖書 習字ハ楷書行書草書 圖書ハ自在書法及用器書法ノ要略

音樂 單音唱歌複音唱歌樂器用法及音樂上ノ名稱記號旋律和聲拍子等ノ要略體操 普通體操ハ準備法矯正術徒手啞鈴棍棒球竿ノ諸體操

兵式體操ハ生兵學中隊學行軍演習兵學大意測圖

第三條 尋常師範學校ノ修業年限ヲ四箇年トシ一學年ヲ以テ一學級トス

第四條 尋常師範學校ノ授業時間ハ一年四十週ニ週三十四時以上トス

第五條 各學科授業ノ時間配當ハ左表ニ依ルベシ

尋常師範學校學科授業時間配當表

	第一一年	第二二年	第三三年	第四四年
倫理	一	一	一	一
教育		二	八	四
國語	三	一		
漢文		二	二	二
英語	五	四	三	三
數學	四	三	三	
簿記				二
地理歷史	三	三	三	
博物	二	二	二	三
				二八

(教育門)

(尋常師範學校ノ學科及其程度)







和文軌範  
改本朝文範  
神皇正統記  
消息文例  
女子消息文範

漢

里見義 著  
稻垣千坂 編輯  
松岡大愿 編輯  
源親房 撰  
松屋主人著  
小原燕子著

和文教科書  
土佐日記  
文藝類纂  
明治女用文  
中小女子文例

下川歌子編輯  
紀貫之作  
柳原芳野編  
小原燕子著  
岡野伊平編述

正文章軌範  
唐宋八大家文讀本  
春秋左氏傳  
孟子  
近世名家文粹  
日本政記  
再刻日本文章軌範

數

謝枋得批選  
沈德潛評點  
杜預集解  
朱熹集註  
東條永胤編輯  
賴襄 著  
石川鴻齋批撰

續文章軌範  
史記  
日本外史  
謝選拾遺  
通鑑聖要  
近世小品文鈔  
名家小品文鈔

守益批選  
司馬遷著  
賴襄 著  
賴襄 選  
桃培鍊等錄  
土屋榮 編

算術教科書  
算術摘要  
算術授業書

田中矢德編輯  
神津道太郎譯  
遠藤利貞編

商業算術書 第一冊 第二冊  
新珠算精法 第一冊 第二冊 第三冊  
明治小學庶却記 第一冊 第二冊

ブライアント 著  
森島修太郎 譯述  
駒野政和 著  
福田理軒 著述

代數教科書  
幾何教科書上 一冊  
幾何學教授書 首卷至六卷 七冊

簿記學階梯

田中矢德編輯  
田中矢德編輯  
中條澄海譯

代數學一至四冊  
幾何新論

石川彌 譯  
宮川保全 譯

馬耳記簿法  
簿記學階梯

小林儀秀譯  
森下岩楠 合著  
森島修太郎 合著

帳合ノ法  
簿記學例題

福澤諭吉著  
森島修太郎著

地理歷史

改日本地誌要略  
藤氏地文學刊行中  
日本文明史略首卷一冊  
日本外史  
明治元明清史略  
新刻萬國史略

博物

大槻修三編  
富士谷孝雄譯  
物集高見著  
賴襄 著  
石村貞一編次  
西村茂樹編輯

新中地理書  
撰國史按一二二冊  
皇朝史略  
十八史略  
清史聖要  
低洛萬國史

山田行元編述  
木村正辭 編  
青山延干 著  
曾先之編次  
增田實著  
木村一步 譯  
永田健助 譯  
梅若名晉 譯

植物通解  
金石學  
動物通解

矢田部良吉譯  
和田維四郎譯  
岩川友太郎 編  
佐々木忠二郎 編

普通植物學  
金石一覽圖  
中學動物學

丹波敬三 同譯  
高橋秀松 同譯  
柴田承桂 同譯  
和田維四郎譯  
宮原直堯 譯

(教育門)

(尋常師範學校ノ學科及其程度)



弗氏生理學

坪井爲春譯

人身生理學

松山誠二纂述

博物解明圖

シヨンストン

植物解明圖

ヘンスロー

士都華氏物理學

川本清一譯

改物理全誌

宇田川準一譯

物理學

飯盛三枝譯

羅斯珂氏化學

茂木春太譯

密氏化學書刊行中

柴田承桂譯

化學教授法

秋山政篤編

新式化學

磯野德三郎譯

中學化學書

磯野德三郎編述

無機化學

太田雄譯

植物生育論

高山甚太郎譯

農業學初步

久原躬枝譯

シエレー氏(刊行中)

山田要吉譯

農用家畜論

大内健之助譯

工場用具論

磯野德三郎譯

勸業理財學

今井秀之助譯

家事經濟訓蒙

日下部三之介編纂

家事

前田寅七郎編述

普通裁縫教授書

渡邊辰五郎編輯

婦女家事要訓

藤田久道編述

裁縫教授書

朴澤三代治編輯

家事經濟論

近藤壽和編著

習字圖書

裁縫指導

近藤壽和編著

習字圖書

近藤壽和編著

裁縫教授書

朴澤三代治編輯

小學習書帖

文部省編輯局編

用器畫法并圖式

平瀬作五郎纂譯

小學幾何畫法

山田昌邦譯

用器畫法并圖式

平瀬作五郎纂譯

小學唱歌集

文部省音樂取調掛編

唱歌掛圖

文部省音樂取調掛編

音樂問答

瀧村小太郎譯

樂典

神津 元譯

音樂指南

内田彌一譯

音樂捷徑

内田彌一譯

新體操法

體操

新體操法

文部省體操傳習所編

體操教範

陸軍省編

步兵操典

陸軍省編

體操隊列運動法

松石安治編述

射的教程

陸軍省編

野外演習軌典

陸軍省編

射的教程

陸軍省編

○尋常師範學校官制(勅令)第六十五號(明治十九年十月八日官報)

第一條 尋常師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長 教頭 助教諭 幹事 舍監 訓導 書記

第二條 學校長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ整理シ教頭以下ノ職員ヲ統督ス但學校長ヲ置

カサルトキハ學校長補ヲ置キ學校長ノ職務ヲ掌ラシム

(教育四) (尋常師範學校ノ學科及其程度)



第三條 教頭ハ教諭中ヨリ之ニ兼任シ學校長ノ監督ニ屬シ教務ヲ整理シ教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル

第四條 教諭ハ學校長及ヒ教頭ノ監督ニ屬シ教授ノ事ヲ掌ル

第五條 助教諭ハ學校長及ヒ教頭ノ監督ニ屬シ教諭ノ職掌ヲ助ク

第六條 幹事ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ幹理ス

第七條 舍監ハ學校長及ヒ幹事ノ指揮ヲ承ケ寄宿舎ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 訓導ハ學校長及ヒ教頭ノ監督ニ屬シ附屬小學校生徒教授ノ事ヲ掌リ兼テ師範生徒實地練習ノ事ヲ助ク

第九條 書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十條 教諭助教諭訓導ノ員數ハ學科ノ輕重及ヒ生徒ノ員數ニ應シテ之ヲ定ム

第十一條 學校長及ヒ教頭ハ奏任ノ待遇ヲ受ケ學校長補以下ハ判任ノ待遇ヲ受ク但尋常師範學校職員ハ勅令第六號高等官々等俸給令勅令第三十六號判任官々等俸給令及ヒ明治十七年太政官達恩給令ノ限ニアラス

○文部省訓令第八號(明治十九年十月九日官報)

(北海道廳 府縣)

尋常師範學校職員ノ俸額ハ左表ニ據ル

○尋常師範學校職員俸額表

學校長年俸	千二百圓以下六百圓以上
學校長補月俸	五十圓以下四十圓以上
教頭年俸	千圓以下五百圓以上
教諭月俸	七十五圓以下三十圓以上
助教諭月俸	三十圓以下十五圓以上
幹事月俸	五十圓以下三十圓以上
舍監月俸	三十圓以下十五圓以上
訓導月俸	三十圓以下十圓以上
書記月俸	二十圓以下十圓以上

○閣令第三十五號(明治十九年十二月二十八日官報)

公立學校職員ノ名稱ハ尋常中學校及等位ノ之ニ準スベキ學校ニ於テハ學校長教諭助教諭書記トシ小學校及等位ノ之ニ準スベキ學校ニ於テハ學校長訓導トシ總テ判任ヲ以テ待遇スベシ

○諸學校通則(勅令)第十六號(明治十九年四月十日官報)

第一條 師範學校ヲ除ク外各種ノ學校又ハ書籍館ヲ設置維持スルニ足ルベキ金額ヲ寄附(教育門) (諸學校通則) (小學校教員免許規則)



シ其管理ヲ文部大臣又ハ府縣知事ニ願出ルモノアルトキハ之ヲ許可シ官立又ハ府縣立ト  
同一ニ之ヲ認ムルコトヲ得  
但寄附人ノ望ニ依リ名稱ヲ附スルコトヲ得

○文部省告示第二號(明治十九年二月廿日官報)

勅令第十六號諸學校通則第一條ニ從ヒ山口中學校ヲ高等中學校ノ制ニ改メテ當省ノ管理ト  
ナシ山口高等中學校ト稱ス  
第二條 寄附金ハ其寄附人ヨリ指定セシ目途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス  
第三條 學校幼稚圖書館等ノ設置變更廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ヘ  
一ク其區町村立ニ係ルモノハ府縣知事ノ認可ヲ經ヘシ其私立ニ係ルモノハ設置變更ハ府縣  
知事ノ認可ヲ經ヘシ廢止ハ府縣知事ニ上申スヘシ  
第四條 凡教員ハ文部大臣若クハ府縣知事ノ免許狀ヲ得タルモノナルヘシ

○文部省令第十二號(明治十九年六月二十一日官報)

勅令第十六號諸學校通則第四條ニ基キ小學校教員免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

○小學校教員免許規則  
第一條 小學校教員免許狀ハ師範學校卒業生及丁年以上ニシテ小學校教員學力檢定試験ニ

及第シタルモノニ之ヲ授與スルモノトス

第二條 小學校教員免許狀ハ普通免許狀地方免許狀ノ二種トス

第三條 普通免許狀ハ文部大臣ヨリ授與シ全國ニ通シテ有効ノモノトス

第四條 地方免許狀ハ府縣知事ヨリ授與シ其管轄地方ニ限り有効ノモノトス

第五條 普通免許狀ハ無期有効ノモノトス

第六條 地方免許狀ハ有期若シハ無期有効ノモノトス

第七條 有期ノ地方免許狀ハ五箇年ヲ以テ一期トシ期滿ル毎ニ勤務ノ經歷ニ依リ適任ノモ  
ノト認ムルトキハ更ニ免許狀ヲ授與スルモノトス

第八條 有期ノ地方免許狀ヲ有シ五箇年以上勤務ノモノニハ其經歷ニ依リ適任ノモノニ限  
リ無期ノ地方免許狀ヲ授與スルモノトス

第九條 普通免許狀ハ高等師範學校卒業生若クハ地方免許狀ヲ有シテ五箇年以上勤務シ學  
術授業トモ超衆ノモノニ之ヲ授與スルモノトス

○文部省告示第一號(明治十九年十一月十六日官報)

文部省令第十二號第九條ニ據リ授與スル小學校教員普通免許狀ノ手数料ハ金壹圓ト定メ該  
免許狀番換ノ手数料ハ金五十錢ト定ム  
第十條 有期地方免許狀ハ尋常師範學科卒業生若シハ小學校教員學力檢定試験ニ及第シテ

(教育門) (小學校教員免許規則)



ルモノニ之ヲ授與スルモノトス

第十一條 小學校教員學力驗定試験ハ尋常師範學料及其程度ニ據リテ之ヲ施行スベシ

但一科若クハ數科ニ限リタル教員學力驗定試験モ本文ニ準スベシ

第十二條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノニハ免許狀ヲ授與セス又既ニ授與シタルモノト雖モ之ヲ沒收スヘシ

但本文免許狀ヲ沒收シタルモノアルトキハ府縣知事ヨリ其族籍姓名並事由ヲ具シテ文部大臣ニ開申スヘシ

一新法ニ依リ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレタルモノ

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯レ罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ輕禁錮ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

一賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルモノ

一身分限ノ處分ヲ受ケ未ダ辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ

一荒圃暴激等總テ教員タルノ面目ニ關スル所行アルモノ

一舊法ニ依リ懲役若クハ禁錮若クハ鎖錮ノ刑ニ處セラレタルモノ

但贈金罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

一前項ノ刑ニ處セラレ存留養親老少廢疾婦女等ノ故ヲ以テ收贖ヲ聽サレタルモノ

第十三條 前條ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノト雖モ府縣知事ニ於テ特ニ小學校教員ヌラシメントスルトキハ其族籍姓名並事由ヲ具シテ文部大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第十四條 小學簡易科教員及小學校授業生免許規則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十五條 小學校教員學力驗定試験ヲ受クルモノ及小學校教員免許狀ヲ受クルモノハ其手

繳料ヲ納ムヘシ

○文部省令第五號(明治二十年七月一日官報)

明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則第十五條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但師範學校卒業ノ際免許狀ヲ受クルモノハ手繳料ヲ納ムルコトヲ要セス

第十六條 小學校教員學力驗定試験ニ係ル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十七條 小學校教員免許狀ノ書式左ノ如シ

地方免許狀

族籍

姓名

何年何月日生

(教育門) (小學校教員免許規則)



右ハ明治何年何月何日ヨリ明治何年何月何日  
マテ五箇年間小學校(何科)教員タルコトヲ免  
許ス

明治何年何月何日 府縣知事位勳爵姓名印  
番號

無期免許狀書式

地方免許狀

族籍

姓名

何年何月生

右者小學校(何科)教員タルコトヲ免許

明治何年何月何日 府縣知事位勳爵姓名印  
番號

普通免許狀

族籍

姓名

何年何月生

右者小學校(何科)教員タルコトヲ免許

明治何年何月何日 文部大臣位勳爵姓名印  
番號

○文部省令第十三號(明治十九年六月廿一日官報)

文部省令第十三號小學校教員免許規則發令前ニ於テ授與シタル小學校教員免許狀ハ從前  
ノ通有効ノモノトス

但小學校初等科免許狀ヲ有スルモノハ小學簡易科小學中等科免許狀ヲ有スルモノハ尋  
常小學科以下小學高等科免許狀ヲ有スルモノハ高等小學科以下ノ教員タルコトヲ得

○文部省令二十三號(明治十九年十二月二十三日官報)

文部省令第十二號小學校教員免許規則發令前東京師範學校及府縣立師範學校ニ於テ授與シ  
タル小學師範學科卒業證書ハ其有效年限間小學校教員免許狀ト同一ノ效ヲ有スルモノト  
ス

但初等師範學科卒業證書ヲ有スルモノハ尋常小學科以下中等及高等師範學科卒業證書  
ヲ有スルモノハ高等小學科以下ノ教員タルコトヲ得

○文部省令第六號(明治二十年八月四日官報)

明治十九年六月文部省令第十三號ヲ以テ從前ノ通有效ノモノトナシタル小學校教員免許狀ヲ  
有スル者及明治十九年十二月文部省令第二十三號ヲ以テ小學校教員免許狀ト同一ノ效ヲ有スル

(一) (教習門)

(小學校教員免許規則)

(尋常師範學校同中學校高等女學校教員免許規則) 八〇九



モノトナレタル小學師範學科卒業證書ヲ有スル者ニシテ該免許狀若クハ卒業證書ノ有效期  
滿ニ至リ猶教員タラント欲スル者ハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ其勤務ノ經歷ヲ調査シ適  
任ト認メタル者ニ限リ更ニ該免許狀若クハ卒業證書ノ有效年限ヲ五箇年以内延期スルコト  
ヲ得

○文部省令第七號(明治二十年八月四日官報)

地方ノ情況ニ依リテハ當分北海道廳長官府縣知事ハ小學校教員タラント欲スル者ノ資格ヲ  
明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依ラズ便宜檢定シテ相當ノ小學校教  
員假免許狀ヲ授與スルコトヲ得

但本文假免許狀ノ有效年限ハ四箇年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

○文部省令第廿一號(明治十九年十二月二十二日官報)

尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

○尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則

第一條 尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許狀ハ高等師範學校卒業生及丁年以  
上ニシテ文部省ノ檢定ヲ經タルモノノ之ヲ授與スルモノトス

第二條 高等師範學校ノ男子師範學科卒業生ニハ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校ノ

教員免許狀ヲ授與シ女子師範學科卒業生ニハ尋常師範學校女子部及高等女學校ノ教員免  
許狀ヲ授與シ體操專修科卒業生ニハ體操ノ教員免許狀ヲ授與ス

第三條 高等師範學校ノ卒業生ニアラスシテ某學科ノ教員免許狀ヲ得ント欲スルモノハ文  
部省ノ檢定ヲ受クヘシ

第四條 檢定ハ毎年一回文部大臣檢定委員ヲシテ之ヲ施行セシム

第五條 檢定ノ要目ハ左ノ如シ

- 一 學力
- 一 品行
- 一 身體

第六條 學力ノ檢定ハ試験ニ依ル

但内外國高等學校卒業生等ハ檢定委員ニ於テ教員タルニ適スヘキ學力アリト認ムルモ  
ノニ限リ特ニ本文ノ例ニ依ラサルコトアルベシ

第七條 試験ハ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校ノ學科中受檢者志願ノ學科ニ就テ之  
ヲ施行シ該學科教員タルニ適スルヤ否ヲ判ス

第八條 身體ノ檢定ハ檢査ニ依ル

第九條 檢定ヲ受ケント欲スルモノハ族籍姓名宿所生年月及志願ノ學科ヲ記シタル願書ニ  
左ノ書面ヲ添ヘ文部省宛地方廳ニ差出スヘシ北海道廳長官府縣知事ハ本人ノ品行ニ付意  
見ヲ付記シテ文部大臣ニ差出スヘシ

一 學業業務賞罰等ノ履歷ニ係ル書面 一 學業證書免許狀ノ寫

(教育門)

(尋常師範學校同中學校高等女學校教員免許規則)



第十條 檢定ヲ受ケント欲スルモノハ檢定料金貳圓ヲ納ムヘシ

但檢定料ハ願書ト共ニ地方廳ニ差出スヘシ

第十一條 免許狀ハ分テ第一等二等三等トシ初メテ授與スル免許狀ハ三等トス又第六條但書ニ依リ授與スル免許狀ハ無等トス其既ニ得タル免許狀ヨリ高等ノモノヲ得ント欲スルモノ及無等免許狀ヲ有スルモノニシテ相當ノ有等免許狀ヲ得ント欲スルモノハ更ニ檢定ヲ受クヘシ

但一等免許狀ハ二等免許狀ヲ有シ五箇年以上二等免許狀ハ三等免許狀ヲ有シ二箇年以上教職ニ從事シ其性恪能幹超衆ノモノニ限リ授與スルモノトス

第十二條 免許狀ヲ受ケルモノハ高等師範學校卒業生ヲ除クノ外免許料金壹圓ヲ納ムヘシ  
第十三條 免許狀ヲ毀損亡失シ若クハ姓名ヲ變更シタルカ爲メ其書換ヲ請フモノハ書換料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十四條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノニハ免許狀ヲ授與セス又既ニ授與シタルモノニ雖モ之ヲ沒收ス

但特別ノ事情アルモノハ本文ノ例ニ依ラサルコトアルヘシ

一 新法ニ依リ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若シハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ若シハ監禁ニ付セラレタルモノ  
但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ輕禁

錮ノ刑ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニアラス

- 一 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルモノ
  - 一 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ
  - 一 荒蕪暴激等總テ教員タルノ面目ニ關スル所行アルモノ
  - 一 舊法ニ依リ懲役若クハ禁錮若シハ鎖錮ノ刑ニ處セラレタルモノ
- 但罰金罰金ヲ納ムルコト能ハスレテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス
- 一 前項ノ刑ニ處セラレ存留養親老少癡疾婦女等ノ故ヲ以テ收賄ヲ聽サレタルモノ
- 第十五條 前條ノ處分ヲ要スルモノアルトキハ北海道廳長官府縣知事ヨリ文部大臣ニ具申スヘシ

免許狀様式

何等免許狀 (第六條但書ニ依リ授與スルモノハ等ヲ付セス)

族籍

姓名

生年月

右何學校(何科)教員タルコトヲ免許ス

文部大臣位勳爵姓名印

年 月 日

文部大臣位勳爵姓名印

年 月 日

文部大臣位勳爵姓名印



輪廓ハ高等師範學校卒業生ニ授與スルモノハ紅色トシ第六條ニ依リ授與スルモノハ綠色トシ第六條但書ニ依リ授與スルモノハ藍色トス

○文部省第二十二號(明治十九年十二月二十二日官報)

文部省令第二十一號尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許規則發令前文部省ニ於テ授與シタル中學校師範學校教員免許狀及東京師範學校ニ於テ授與シタル中學校師範學校卒業證書ハ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許狀ト同一ノ效チ有スルモノトス

○文部省令第二十四號(明治十九年十二月二十二日官報)

其學校ノ教員免許狀チ有スルモノハ等位ノ該學校ニ準スヘキ諸學校以下ノ教員タルコトヲ得

第五條 公立學校ノ用地ハ免稅タルヘシ

○雜件

○文部省令第七號(明治十九年五月十日官報)

教科用圖書檢定條例左ノ如ク相定ム

○教科用圖書檢定條例

檢定要領

第一條 小學校師範學校若クハ中學校ノ教科用ニ充ツルニ足ルト思考スル所ノ圖書チ有スルモノハ文部省ニ願出テ其檢定ヲ請フコトヲ得

第二條 文部省ニ於テ檢査ノ上教科用ニ適スト認ムルトキハ免許證ヲ下附シ之ヲ公告スヘシ

第三條 檢定ヲ經タル圖書チ教科用圖書トシテ用ヒ得ヘキ年限ハ免許證下付ノ日附ヨリ起算シテ五ヶ年トス

第四條 前條ノ期限繼續ヲ請ハントスルモノ其滿期前ニ於テ追願スルトキハ更ニ檢査ノ上免許證ヲ下附スルコトアルヘシ

第五條 第一條若クハ第四條ニヨリ檢定ヲ願出ルニハ著譯者出版者連署ノ願書ト共ニ該圖書及其述編寫旨意書ヲ添ヘ之ニ左ノ手数料チ付シテ出スヘシ

一小學校教科用圖書 金拾圓

一右追願 金三圓五拾錢

一師範學校教科用圖書 金貳拾圓

一右追願 金七圓

第六條 圖書檢査ノ上特ニ教育ニ有益ナルモノト認ムルトキハ文部省ヨリ其著譯者ニ賞狀

(教育門)

(教科用圖書檢定條例)



ヲ與フルコトアルヘシ

第七條 免許證ヲ得タル後若シ者或ハ出版者轉籍轉居シ又ハ氏名ヲ變換シタルトキハ二箇月以内ニ文部省ニ届出スヘシ

第八條 免許證ヲ有スル期限内其圖書ノ版權ヲ賣買シ若シハ分版シタルトキハ二箇月以内ニ雙方連署ノ上文部省ニ届出ヘシ

第九條 免許證ヲ毀損紛失シタル等ノトキハ其再渡ヲ願出ルコトヲ得

第十條 免許證ヲ有スル期限内ニ於テ該圖書ニ改更増補等ヲナシ又ハ書名ヲ改メタルトキハ免許證ハ其効力ヲ失フモノトス

第十一條 無効ノ免許證ヲ使用シタルモノハ金貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條及ヒ第八條ノ届出ヲ爲サハルモノハ金一圓以上金一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○檢定手續

第十二條 教科用圖書檢定ニ關スル願書類ハ總テ出版者所在地方廳ヲ經テ文部省ニ出スヘシ

第十三條 教科用圖書檢定ヲ願出ルトキハ第一號書式ニ據リ一種ノ圖書ニ付願書ニ通該圖書ニ部及其若シ述編纂旨意書ニ第五條ノ手数料ヲ付シテ之ヲ出スヘシ其若シ述編纂旨意書ハ明瞭ニ該圖書ノ要項ヲ記スヘシ

第十四條 第四條ニヨリ追願スルトキハ第二號書式ニ據リ前條ノ手續ヲ經ヘシ

第十五條 第七條及第八條ノ場合ニ於テ届出ヲナストキハ免許證ノ番號日附及圖書名卷冊記號等ヲ記スヘシ

第十六條 第九條ニヨリ免許證ノ再渡ヲ願出ルトキハ第三號書式ニ據リ其理由ヲ記シテ之ヲ出スヘシ

第十七條 免許證ヲ得タルモノハ出願本人ニ於テ第四號書式ニ據リ其書物ノ見返シ若シハ圖書ノ見易キ處ニ免許證ヲ有スル間ノ年限ヲ印スヘシ

第十八條 第二條ノ免許證書式左ノ如シ

用紙縦曲尺七寸 横曲尺九寸 輪廓附文部省ノ三字漉込

免許證

圖書名 年月日出版 部册

族籍

著者 氏 名

編輯者 氏 名

校者 氏 名

補校者 氏 名

出版者 氏 名

文部省印

(教育門)

(教科用圖書檢定手續)



右ハ檢査ノ上師範學校教科用ニ適當ナルコトヲ認定シ明治年月日ヨリ同年月日ハ五箇年間師範學校ノ教科用トナスコトヲ免許ス

明治年月日

編輯部 第號

印刷部

願書ノ用紙ハ總テ半紙トス

第一號書式

○教科用圖書檢定願

一 圖書名

何年何月何日出版

卷冊記號

師範學校教科用ニ充ツルニ足ルト思考候ニ付御檢定ヲ願度依テ右手數料金何圓並同圖書二部ニ旨意書相添此段相願候也

何地方廳管下

地名番地居住

族籍

著者 氏 名 印

年月日

何地方廳管下

地名番地居住

族籍

出版者 氏 名 印

文部大臣某殿

第二號書式

○教科用圖書檢定追願

一 圖書名

何年何月何日出版

卷冊記號

右ハ何年何月何日附第何號免許證御下附相成候モノ有之候所何年何月何日ニテ滿期相成候ニ付テハ期限ノ繼續ヲ願度依テ右手數料金何圓並同圖書二部相添此段相願候也

(署名其他第一號書式ノ通)

第三號書式

○免許證毀損(等)ニ付再渡願

何年何月何日附第何號免許證

一 圖書名

卷冊記號

右免許證ハ私所有ニ有之候處何年何月何日何地ニ於テ云々ノ爲メ毀損(等)候ニ付再渡相

(教育門) (教科用圖書檢定手續)



成度此段相願候也

第四號書式

寸方大小ハ圖書ノ大小ニ準テ適宜ニスヘシ

(署名其他第一號書式ノ通)

五五〇

自何年何月何日  
至何年何月何日

文部省檢定濟小師範學校教科用書  
中

○文部省令第二號(明治二十年五月七日官報)

明治十九年五月五日 文部省令第七號教科用圖書檢定例ヲ廢シ師範學校小學校及中學校教科用圖書ノ檢定ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

○教科用圖書檢定規則

- 第一條 教科用圖書ノ檢定ハ止テ圖書ノ教科用タルニ弊害ナキコトヲ證明スルヲ旨トシ其教科用上ノ優劣ヲ問ハサルモノトス
- 第二條 圖書ノ出版者ハ該圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得
- 第三條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ圖書一種ニ付其目的トスル所ノ學校一種毎ニ該圖書二十部ノ定價ニ等シキ手数料及該圖書二部ヲ檢定願書ニ添ヘ地方廳ヲ經テ文部省ニ納ムヘシ但定價ヲ記載セサル圖書ニ就テハ手数料金十五圓ヲ納ムヘシ又檢定ヲ得タル後定價ヲ増加シタルトキハ本文ノ例ニ準レ其差額ヲ追納スヘシ

第四條 第二條ニ依リ檢定ヲ請ヒタル圖書中鎖少ノ修正ヲ加フレハ檢定ヲ與フルコトヲ得

第五條 檢定ヲ得タル圖書ハ文部省ヨリ官報ヲ以テ其名稱冊數定價目的トスル學校並學科ノ種類版權免許又ハ出版屆ノ年月日並該圖書ニ記載スル所ノ著譯者及出版者ノ族籍住所姓名等ヲ廣告スルベシ

第六條 檢定ノ効力ハ檢定ヲ得タル後修正ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトス

第七條 第五條ニ依リ廣告セタル定價版權免許又ハ出版屆ノ年月日並著譯者及出版者ノ族籍住所姓名等ニ異動ヲ生シ圖書中其記載方ヲ變更シタルトキ又ハ同様ニ依リ廣告シタル冊數ヲ變更シタルトキハ更ニ官報ヲ以テ其旨ヲ廣告スルニアラサレハ檢定ノ効力該圖書ニ及ハサルモノトス

第八條 檢定ヲ得サリシ圖書ノ出版者ノ願ニ依リテハ其圖書ノ檢定ヲ得サリシ事由ノ大要ヲ指示スルコトアルヘシ

第九條 檢定出願中ノ圖書若シハ檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ更ニ第三條ノ手数料ヲ納ムルコトヲ要セス

第十條 圖書ノ出版者ハ其檢定ヲ得タル圖書ニシテ第七條ノ變更アルニ會スルハ其事項ノ廣告ヲ文部省ニ請ラヘシ

第十一條 檢定ヲ請ヒタル後其願下ケテナスルト雖モ其既ニ納メタル手数料ハ之レヲ還付

(教育門) (教科用圖書檢定規則)

八二二



セサルモノトス  
 第十二條 本規則ニ於テ修正ト稱スルハ圖書ノ名稱ヲ變更シ文章字句圖書ヲ増減若クハ校訂シ又ハ字体嚮形ヲ變更シ又ハ註解附録序跋ヲ加除若クハ變更スル等ノ場合ヲ包含スルモノトス

○文部省令第三號(明治二十年五月)

明治十九年五月文部省令第七號教科用圖書檢定條例ニ依リ檢定ヲ得タル教科用圖書ハ本年五月文部省令第二號教科用圖書檢定規則ニ依リ檢定シタルモノト同一ノ効チ有スルモノトス

○文部省訓令第六號(明治二十年五月) (北海道廳 府縣)

管内中學校ノ教科用ニ充ツルヲ要スル圖書コレヲ未タ文部大臣ノ檢定ヲ得サルモノアルトキハ之カ檢定ヲ請フヘシ

○文部省訓令第七號(明治二十年五月) (北海道廳 府縣)

小學校及中學校教科用圖書ノ檢定ヲ請フトキハ該圖書一種ニ付其目的トスル所ノ學校一種毎ニ該圖書二部ヲ檢定申請書ニ添ヘテ納ムヘシ

○文部省訓令第八號(明治二十年五月) (北海道廳 府縣)

本年五月文部省令第二號教科用圖書檢定規則第七條ノ變更アルニ會シ未タ檢定ノ効力ヲ得サル圖書ニシテ其管内學校ノ教科用ニ充ツルヲ要スルモノアルトキハ其變更事項ノ廣告ヲ請フヘシ

○文部省訓令第九號(明治二十年五月) (北海道廳 府縣)

本年五月文部省訓令第三號公立小學校教科用圖書採定方法及本年五月文部省訓令第六號發令前コ於テ檢定未済ノ圖書ヲ以テ教科用ニ充テタル向ハ此際該圖書ノ檢定ヲ請フ儀ト心得ヘシ

○文部省告示第四號(明治二十年五月七日官報)

本年三月文部省令第二號教科用圖書檢定規則第二條ニ依リ教科用圖書ノ檢定ヲ請フ者ハ該圖書一種毎ニ左式ノ檢定願書ヲ差出スヘシ

○檢定願書様式 用紙ハ半紙トス

教科用圖書檢定願

左記ノ圖書御檢定被成下度該圖書……………部及手数料金……………相添へ此段

(教育門) (教科用圖書檢定規則)



相願候也

圖書ノ名卷冊ノ記號譯者ノ出版者ノ族	版權免許又ハ出版届ノ	目的トスル
號員數	籍住所姓名	ノ種類
族籍姓名	年月日	

何府何郡何町何番地居住(寄留)

何府何郡何族(平民)

年月日

文部大臣爵姓名服

姓名印

○記載方心得

圖書ノ名稱 改正増補等ニ係ルモノハ其旨ヲ記スヘシ

卷冊ノ記號員數 一卷二卷前編後編上中下或ハ一號二號三號等ノ別ヲ掲ケ冊數若クハ軸數等總計ヲ記スヘシ

著者ノ族籍姓名 姓名ノ下ニ著述翻譯編纂等ノ別ヲ記スヘシ

出版者ノ族籍住所姓名 分版ニ係ルモノハ原出版者ノ族籍住所姓名ト分版者ノ族籍住所

姓名トナシ並記シ無版權圖書ノ翻刻ニ係ルモノハ原出版者ノ族籍住所姓名ト翻刻者ノ族籍住所姓名トナシ並記スヘシ

版權免許又ハ出版届ノ年月日 改版ニ係ルモノハ改版ノ年月日ヲ記シ分版ニ係ルモノハ原版ノ年月日ト分版ノ年月日トヲ並記シ無版權圖書ノ翻刻ニ係ルモノハ原版ノ年月日ト翻刻ノ年月日トヲ並記スヘシ

○文部省訓令第三號(明治十九年五月) (北海道廳 府縣)

中學校師範學校教員免許狀授與手数料及教科用圖書檢定手数料共地方廳ニ於テ徵收ノ分ハ十九年度以降大藏省令第四號歲入取扱順序第十六條ニ據リ委託候條同順序及閣令第三號歲入歳出納規則ニ準據取扱フヘシ且教科用圖書檢定手数料ハ歳入科目第二部五款二項九目書籍發賣檢査手数料ノ次位ヘ教科用圖書檢定手数料ノ目ヲ設ケ勘定整理スヘシ

但徵收額圖書ハ別段送付セス又木文教員免許人名並圖書名檢定出願人名等仕譯書調製歳入報告書ニ添付スヘシ

○文部省訓令第十一號(明治十九年十二月十六日官報) (北海道廳 府縣)

文部省令第十二號第四條ニ據リ授與スル小學校教員地方免許狀手数料並該免許狀書換手数料取扱方ハ文部省訓令第三號ニ準據スヘシ

(教育門)

(教科用圖書檢定規則) (學事年報取調條項)



○文部省訓令第十號 (明治十九年十一月十六日官報)

(北海道廳 府縣)

文部省告示第一號小學校教員普通免許狀手数料並該免許狀書換手数料取扱方ハ文部省訓令第三號ニ準據ス

○文部省令第二號 (明治十九年三月廿二日官報)

(北海道廳 府縣)

明治十四年四月文部省第十號達ヲ廢ス

(參照) 明治十四年四月文部省達第十號

町村立小學校私立小學校及町村立諸學校 (小學校ニア) 長教員學務委員及郡區長ノ管掌スヘキ學事表簿様式別紙之通制定甲乙丙合テ二十七種各ニ通配布候條各府縣ニ於テ該様式ニ準ヒ更ニ表簿ヲ製シ來七月一日ヨリ別冊學事表簿取調心得ニ據リ夫々登記候條可取計此旨相違候事  
但別紙表簿ノ外生徒ノ學科成績等ニ係ル諸表ハ各學校ニ於テ調製シ夫々詳記スヘキ儀ト心得ヘシ  
(別紙表簿様式并取調心得略ス)

○文部省訓令第九號 (明治十九年十月十三日官報)

(北海道廳 府縣)

學事年報取調條項並諸表様式自今左ノ通相定メ歷年ノ調査ニ據リ翌年三月限各ニ通差出ス

但諸表様式ハ別ニ配布ス

○學事年報取調條項

- 一 管内學事ノ狀況 學事施設ノ要領及學事ノ現狀ヲ概記スヘシ
- 一 學區 區畫變更ノ緣由廣狹適否ノ狀況等ヲ記載スヘシ
- 一 學齡兒童 就學兒童増減ノ原由及就學督責ノ實施其他學齡就學ニ係ル總テノ狀況方法等ヲ記載スヘシ
- 一 小學校 公私立學校設置廢止ノ緣由諸般ノ準備生徒修業ノ狀況其他父兄ノ職業ニ關シ在學ノ長短學業進否ノ趣ヲ異ニスル等ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 小學校教員 教員ノ資格待遇ノ狀況需用供給ノ關係等ヲ記載スヘシ
- 一 中學校 公私立學校設置廢止ノ緣由教員ノ資格生徒ノ増減及學業ノ進否 (等級人員卒業生ノ數等ハ可及的精密ヲ要ス) 生徒卒業後ノ狀況等ヲ記載スヘシ
- 一 師範學校 附設及附屬 教員ノ資格生徒ノ養成ノ狀況學業ノ進否 (前ニ同シ) 並教員講習所ノ設置小學督業ノ配置其他授業法ノ改良ニ係ル方法等ヲ記載スヘシ
- 一 專門學校 學校設置廢止ノ緣由教授ノ要旨教員ノ資格生徒ノ増減學業ノ進否 (前ニ同シ) 其他該學藝ニ關スル教員ノ現狀ヲ觀察スルニ足ルル條項ヲ記載スヘシ
- 一 高等女學校 學校設置廢止ノ緣由教員ノ資格生徒ノ増減學業進否ノ狀況等ヲ記載スヘシ

(教育門)

(教科用圖書檢定規則)

(學事年報取調條項)



- 一 各種學校 學校設置廢止ノ理由教授ノ要旨教員ノ資格生徒ノ増減學業進否ノ狀況等ヲ記載スヘシ
- 一 教科用圖書 教科用圖書ノ適否需用供給ノ關係等凡教科用圖書ニ係ル狀況ヲ記載スヘシ
- 一 幼稚園 幼稚園ノ現況及學齡未滿幼兒ノ保育ニ係ル方法狀況等ヲ記載スヘシ
- 一 書籍館及教育博物館 書籍館及教育博物館ノ現況並將來設置ノ方法其他開館日數閱覽人ノ増減等ヲ記載スヘシ
- 一 公學費 府縣立町村立學校等經濟ノ要領授業料徵收ノ方法寄附金ノ増減收支ノ方法費金ノ豐歉學校資財増減學費蓄積等總テ學校維持並運財上ノ得失ニ係ル事項ヲ記載スヘシ
- 一 府縣會區町村會 教育費ニ係ル職事ノ梗概ヲ記載スヘシ
- 一 教育會 組織並職事ノ梗概ヲ記載スヘシ
- 一 學事關係職員 學務課吏員及學務擔任郡區吏兵長等凡學務關係職員事務ヲ措辦スル總テノ狀況及方法等ヲ記載スヘシ
- 一 學事監督及獎勵 學務官吏巡視監督ノ狀況並教員生徒等獎勵ノ要領ヲ記載スヘシ
- 一 將來學事施設上須要ノ件
- 一 其他學事ニ付申報スヘキ條件ハ便宜類聚記載スヘシ

○文部省令第三號

(明治十三年三月廿五日官報)

(北海道廳 府縣)

明治十三年四月四號明治十四年一月第七號同年一月第八號但書同年四月第十一號同年五月第十四號同年五月第十八號明治十五年九月第九號明治十六年四月第四號同年四月第五號同年九月第十七號明治十七年三月第五號同年十二月第十五號同年十二月第十六號達テ廢ス

(參照)

明治十三年一月文部省第四號達ハ公立學校ノ免稅土地取調届出ノ件同十四年一月同第七號達ハ學務課處務規程及該課吏員ノ變更進退請申ノ件同第八號達ハ郡區書記學務擔任ノ者擔任ノ件同年四月同第十一號達ハ巡回授業ノ方法等開申ノ件同年五月同第十四號達ハ私立小學校ヲ公立小學校ニ代用スル節ノ規則等開申ノ件同年六月同第十八號達ハ學校外ニ於テ教育ヲ受ケル兒童試驗規則開申ノ件同年九月同第九號達ハ公費修學生徒差出ノ節開申ノ件同十六年四月同第四號達ハ學校長教諭學力及履歷開申ノ件同第五號達ハ農學校通則制定ノ件同年九月同第十七號達ハ學務擔任書記ノ人員俸給兼務等開申ノ件同十七年三月同第五號達ハ講習所教員又ハ督業ノ任用轉免開申ノ件同年十二月同第十五號達ハ公立農學校實際用免稅地所取調届出ノ件同第十六號達ハ學校用地所下渡ノ節右地所詳細取調ノ件ナリ

(教育門) (學事年報取調係項)



○文部省令第四號(明治十九年三月廿五日官報) (北海道廳 府縣)

學務課長及府縣立學校長ノ變更進退ノ節ハ其姓名官等俸給履歷ヲ具シ開申スヘシ

○文部省令第六號(明治十九年四月二日官報) (北海道廳 府縣)

師範學校ノ卒業者ニシテ教職ニ從事スル者ハ自今毎六箇月其服務ノ狀況ヲ該學校ニ報告セシムヘシ

但既廢ニ係ル官立師範學校ノ卒業者ハ東京師範學校ニ同府縣立師範學校ノ卒業者ハ其學校ノ在リシ地方ノ所屬府縣立師範學校ニ報告セシムヘシ

○文部省令第二十號(明治十九年十一月一日官報) (北海道廳 府縣)

學事ニ關スル府縣知事ハ其公布ノ都度文部省ニ申報スヘシ  
但豫メ稟申シタル件ハ此限ニアラス

○文部省令第五號(明治二十年三月三十一日官報) (北海道廳 府縣)

區町村立私立學校ニシテ徵兵令第十一條第十二條第十八條第二項第十九條第二十條第三項第五項官立府縣立學校同等ノ學校ト認ムヘキモノハ左記ノ事項ニ該當スルヲ要スル備ニ付

該事項ヲ具備スルモノアリト思考スルトキハ其狀況ヲ稟申スヘシ

- 一入學ノ生徒ハ尋常中學校ノ如キ成規アルモノヲ除クノ外高等小學校卒業ノモノ若シハ之ニ均シキ學力ヲ有スルモノタルヘキ事
- 一學校長及教員在免ノ方法一定確實ナル事
- 一授業料束修等ノ如キ豫メ確定シ難キ收入金ヲ除キ毎年ノ費金中貳千四百圓以上ハ全ク資本ノ利子ト認メ得ヘキモノアル事

參照 徵兵令

- 第十一條 年齡滿十七歲以上滿二十七歲以下ニシテ官立府縣立學校小學校及ヒ文部大臣ロ於テ認タル之ト同等ノ學校ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ服セシム
- 第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立學校小學校及ヒ大部大臣ロ於テ認タル之ト同等ノ學校ノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期末ヲ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十八條

第二項 官立府縣立學校小學校及ヒ文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第十九條 官立府縣立學校小學校及ヒ文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校ニ於テ修業一

(教育門) (學事年報取調條項)



個年以上ノ課程ヲ卒業シタル生徒ハ六箇年以内徴集ヲ猶豫ス  
第二十條

第三項 官立公立學校及ヒ文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校教員  
第五項 官立府縣立醫學校及文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校ノ卒業證書ヲ所持  
シテ醫術開業シ者

○文部省告示第一號 (明治二十年四月四日官報)

東京府神田區西小川町一丁目十五番地私立獨逸學協會學校ノ儀ハ今般徴兵令第十一條第十  
二條第十八條第十九條第二十條第三項官立府縣立學校同等ノ學校ト認定ス

○文部省訓令第十號 (明治二十年六月十七日官報)

明治十五年十一月文部省第十一號第十二號達ヲ廢ス (北海道廳府縣)

(參照) 明治十五年第十二號達ノ入念ニ對シテ  
府縣立學校幼稚圖書籍館等設置廢止規則(文部省明治十四年第四號達)第一條第七項第  
二條第七項及第三條第五項ニ關スル府縣會ヲ議決ヲ認可セントスルトキハ豫メ當省へ  
可伺出且之ヲ認可セザラシメテ內務省へ具狀スルトキハ同時ニ當省へ可伺出此旨相  
違候事

但本文當省へ可伺出件ハ經費増減ノ爲メ事業ノ伸縮ニ影響シ隨テ學校等ノ規模ヲ動  
カスハ沙カトシテ可心得事

○同年第十三號達

町村ノ學事ニシテ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘキモノハ區町村會ノ評決ヲ認可スルノ前豫メ府  
知事縣令ノ指揮ヲ受ケルムヘキ儀ト可心得此旨相違候事

○文部省訓令第十一號 (明治二十年八月六日官報)

(北海道廳府縣)  
凡ソ學校ニ於テハ留ニ其生徒ノ學力ノミナラス兼テ人物ノ如何ニ注目シテ學力ト人物トヲ  
査定シ各尋常優等ノ二等トシ卒業ノトキニ至リ之ヲ證明スル證書ヲ授與セシムヘシ就中尋  
常師範學校生徒卒業ノ上高等小學校長ニ任シ若クハ高等師範學校生徒ニ撰舉スルモノ、如  
キハ先ツ其人物ノ優等ナルモノヨリ之ヲ撰拔スヘシ

○內務省訓令第三十七號 (明治二十年六月十四日官報)

(府縣)  
明治十九年勅令第六十五號同年閣令第三十五號ノ學校職員及郡區書記戸長等國庫費支辨  
ニ屬スル用紙ヲ以テ旅行セシムルトキ學校職員ハ其委任待遇ヲ受ケルモノ年俸十圓 月俸ハ  
收算 已上ハ三等旅費年俸十圓未滿ハ四等旅費判任待遇ヲ受ケルモノ月俸四十圓 年俸ハ  
已上ハ五等旅費月俸四十圓未滿ハ六等旅費郡區書記戸長ハ其官等ニ相當旅費ヲ同年閣令

(教育門) (文部省告示) (同上訓令)



第十四號内國旅費規則ニ依リ支給スヘシ

○勅令第四十八號(明治二十年十月一日官報)

府縣立醫學校ノ費用ハ明治廿一年度以降地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得ス

○文部省告示第六號(明治二十年八月十九日)

明治十九年<sup>四</sup>勅令第十五號中學校令第三條高等中學校ノ醫科ヲ教授スル所ヲ醫學部トシ第一ヨリ第五ニ至ル各高等中學校ニ之ヲ設ク第二高等中學校醫學部ハ仙臺ニ第三高等中學校醫學部ハ岡山ニ第四高等中學校醫學部ハ金澤ニ置キ第一第五高等中學校醫學部ノ位置ハ追テ之ヲ定ム

○文部省告示第八號(明治二十年九月二十七日官報)

本年<sup>八</sup>文部省告示第六號中第一高等中學校醫學部ハ千葉ニ之ヲ置ク

○文部省訓令第十三號(明治二十年九月二十四日官報)

高等中學校設置區域内府縣委員會ニ於テ議定シタル高等中學校經費各府縣分擔額ハ開會地ノ府縣知事ヨリ文部大臣ニ報告スヘシ

(府縣ヲ除ク)

### 衛生門

○閣令第十號

地方衛生會規則ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治十二年<sup>十二</sup>太政官第五拾五號達地方衛生會規則明治十三年<sup>四</sup>太政官達東京地方衛生會規則ヲ廢ス

明治二十年四月二十三日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

○地方衛生會規則

第一條 地方衛生會ハ府知縣事ノ監督ニ屬シ警視總監府縣知事ノ諮詢ニ應シテ其府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第二條 地方衛生會ハ府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就テハ警視總監府縣知事ニ建議スルコトヲ得

第三條 地方衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

第四條 地方衛生會ニ職員ヲ設クルコト左ノ如シ

會長 府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

委員 府縣第二部長

警部長東京ハ警視廳第一局長

(衛生門)



府縣廳所在地ノ郡長及ハ區長

壹人

府縣會常置委員

三人

醫師

三人乃至五人

獸醫

壹人

化學家

壹人

臨時委員

書記 府縣屬ヲ以テ之ロ充ツ

第五條 會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ警視總監府縣知事ニ具申ス

第六條 會長事故アルトキハ開會當日出席人ヲ以テ其事務ヲ代理セシム

第七條 委員中東京府都府大坂府ノ區長及醫師獸醫化學家臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス但獸醫及化學家ハ其人ヲ得サルトキハ做員ト爲スコトヲ得

第八條 委員中官職ナキ者ニハ手當並ニ旅費ヲ給スルコトヲ得

第九條 書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ議事ヲ筆記シ文書計算ニ從事ス

○傳染病豫防規則(明治十三年七月九日第三十四號布告)

明治十二年八月第三拾二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺腸窒扶私赤痢質布埜利亞發疹窒扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルハ地方長官ハ內務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スルモノハ遲クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村戶長ニ通知スルヲ要ス戶長ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳(東京府下ハ府廳及ヒ警視本署)ニ届出ヘシ

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出警察署ヨリ戶長ニ通知スルモ妨ケナシ地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及治癒死亡ノ數ヲ內務省ニ申報スヘシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ內務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

第四條

(衛生門) (傳染病豫防規則)



第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄及官立ノ學校、病院、製作所等ニ於テ傳染病者アルハ其主  
長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹、室扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要  
スヘキト認ムルハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルヲ得

第七條 醫師並ニ戶長ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認  
ル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ  
絶タシムヘシ十五年第四十七號ヲ以テ病名貼付ハ當分施行セサル旨ヲ布告ス

但患者治癒死亡又ハ避病院ニ入りタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵  
守セシムヘシ

虎列刺病  
第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ  
埋却セシムヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且他ニ改葬スル  
ヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具、衣服器具及ヒ室室、船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレ  
ハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授買賣スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道及ヒ圃園、芥溜、下水、溝渠等總テ病毒滋生  
ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患  
者若クハ死者アルハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナルハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師、衛生  
官吏、警察吏、郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員トナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セ  
シムルヲ得

此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病ヲ診斷スルハ總テ檢疫委員ニ届出  
ヘシ十五年第四十八號布告

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮、劇場等人民ノ群集ヲ差止ルヲ得

虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延シ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ボサ  
サル際遮斷シ得ヘキモノト認ムルハ地方官ヨリ内務卿ニ稟請シ交通ヲ絶タシムルノ處  
分ヲ爲スコトヲ得十四年第五十八號布告

但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スコトヲ得

腸蜜扶私病 (衛生門) (傳染病豫防規則)







ルモノハ此規則ニ照ラセ手當金ヲ給スヘシ

第二條 手當金ヲ分テ療養埋葬及ヒ遺族扶助ノ三種八等トナシ病者ハ療治料ヲ給シ死者ハ埋葬料及ヒ扶助料ヲ給スヘシ

第三條 手當金ノ差等ハ其月給ノ多寡ニ因リテ之ヲ定ム則貳百圓以上百五拾圓以上百圓以上七拾圓以上五拾圓以上貳拾圓以上拾圓未滿トナシ等級ニ應シテ支給スヘシ但日給ノ者ハ一ヶ月ヲ平均三十日ト看做シ該日數ニ乘シテ本條月給ノ等差ニ準スヘシ

第四條 療治料ハ自宅ニ於テ治療スルモノニ一日ニ付金壹圓ヲ給シ其官公立病院ニ入ル者ハ適宜官費ヲ以テ支給スヘシ

第五條 遺族扶助料ハ戸主ニシテ家族ナキ者及ヒ戸主ニアラスレテ妻子ナキ者ハ給セス尤死者戸主ニアラス且妻子ナキ者ト雖モ其死者ニ依リ活計ヲ營ミ來ル遺族(一戸籍内ニアルモノ)アレハ之ヲ給スヘシ

第六條 埋葬料ヲ給スルニ獨身ニシテ且親戚ナキ者ハ病院或ハ同僚或ハ區戸長ニ下付スヘシ

第七條 流行病ノ節雇入ル、醫師ノ月給ハ明治八年第四拾九號達ノ通タルヘシト雖モ現ニ十五圓以上ノ給料ヲ以テ使府縣公立病院ニ從事スル醫師ヲ臨時該流行病ノ治療ニ任スル者並ニ虎列刺病ノ節拾五圓以上ヲ以テ雇タル檢疫委員ハ此規則ノ表面ニ照シテ給スヘシ

手當表

月給	等級	療治料	埋葬料	扶助料
貳百圓以上	一等	一日ニ付壹圓	五拾圓	貳百五拾圓
百五拾圓以上	二等	同	四拾圓	貳百圓
百圓以上	三等	同	三拾五圓	百五拾圓
七拾圓以上	四等	同	三拾圓	百貳拾五圓
五拾圓以上	五等	同	貳拾五圓	百圓
貳拾圓以上	六等	同	貳拾圓	八拾圓
拾圓以上	七等	同	拾五圓	六拾圓
拾圓未滿	八等	同	拾圓	四拾圓

○虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則 (明治十五年六月二十三日)

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則左ノ通制定ス

第一條 凡虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ検査官ノ検査ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書ヲ(衛生門) (虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則)



得ル後ニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ  
陸揚ヲ爲ス可ラス

第三條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキハ檢疫官直チニ其船船ノ他港ニ進航シ陸地又  
ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フ可シ  
但檢疫官ニ於テ必用ト認ムルキハ其船船ヲ四拾八時間以内其指定スル場所ニ碇泊セシ  
メ十分ノ消毒法ヲ施スコトヲ得テ以テ但書ヲ追加ス

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルキハ檢疫官其船船ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染  
ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ  
該病患者ハ之ヲ避病院若シハ其住居若シハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ  
其死者ハ若シ該病人ノ望アル 地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル  
後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ  
與ヘ其船船及ヒ傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船船ノ他  
港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第四條 此規則ニ違背シタル者若シハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分  
スヘシ

第五條 此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定ス可シ

○虛列刺病流行ノ際檢疫所設置取計方(明治十三年三月十六日 内務省令第九號(東京警視本署)府屬(地) 虎列刺病流行ノ際内地ニ於テ海陸ノ檢疫所ヲ設ケ行旅船客ヲ抑留候儀ハ經伺之上可取計儀ト可心得此旨相達候事)

○處列刺病流行地方ヨリ古着及ヒ襦袢輸送ヲ禁ス(明治十八年九月十四日 内務省甲第三拾壹號警視(地) 虎列刺病流行ノ際ニ於テハ其流行地方ヨリ古着及ヒ襦袢ヲ他ノ健康地ニ輸送スルコトヲ禁止スヘシ此旨相達候事)

○人家稠密ノ場所ニ於テ糞糞ヲ禁ス(明治六年五月十五日 即百六十三號布告) 方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ヘレ候處温暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健康ヲ害スルノミナラス 近來獸類ノ傳染病流行往々人生ノ傷害ヲ醸シ候ニ付自今三府市街ノ区内ハ勿論各地一般人 家稠密ノ場所ニテ糞糞ノ積置ヲ禁止候條右区内ニ於テ從前營業ノ者ハ布令到達ノ日ヨリ三 十五日以内ヲ以テ郊外便宜ノ地ニ立退糞糞可致事 但東京府下朱引内ハ假令草野空間ノ地ト雖モ糞糞不相成候尤乳汁搾取ノ爲メ糞糞候ハ被 差許候得共不潔臭穢ノ儀モ有之候ヘハ詮議ノ上可令取拂事

(衛生門)

(虎列刺病流行ノ際檢疫所設置取計方)

(醫師免許規則)



○養費制限酌方(明治七年一月九日)

昨明治六年第百六拾三號ヲ以テ公布相成候趣ハ專人命保護ノ爲メ市街等人家稠密ノ地ニテ  
衆養候ヲ制限候等ニ候條山村僻邑等ハ實地適宜ニ斟酌可致此旨相達候事

○醫師免許規則(明治十六年十月二十三日)

醫師免許規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス  
但明治十五年二月第四號布達同年八月第三拾九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス  
(別冊)

第一條 醫師ハ醫術開業試驗ヲ受ケ内務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス  
但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトス

●山梨縣前從前御省ノ試驗ヲ經成ハ試驗ヲ須ヒス免狀御下附ノ者ハ勿論(中略)願免許致  
シ從來開業ノ醫師ヲモ總テ包括シタル體ト相心得可然哉  
前項ヲ可トスルハ若シ此等ノ者其業ニ關シ但罪若クハ不正ノ行爲アレバハ規則第十  
一條ノ旨ニ準シ縣令ニ於テ適宜處分シ可然哉  
指令 十六年十一月廿一日

●秋田縣前從來開業證ニシテ是マテ廢業シ書札附與セザルモノ更ニ復業願出ルルハ今府  
本縣限開業證許不苦備ト心得可然哉  
第二項 當省ニ於テ處分スヘキ候ト心得ヘシ

●指令(十七年二月二十日)  
十六年第三十四號布達ニ依リ更ニ試驗ヲ受レムヘシ

●指令(十六年十一月三十日)  
醫師免許規則第三條ニ於テ試驗ヲ要セス免狀授與ノ際職ニ及フヘキ者ハ特ニ當省ノ許  
可ヲ得タル學校ノ卒業ニ限ルヘシ

●指令(十六年十一月三十日)  
島根縣前 官立府縣立醫學校トハ客年文部省第四號達醫學校通知甲乙兩種ヲ指稱スル  
儀ナルヤ

●指令(十六年十一月三十日)  
本年當省第四十六號達ノ趣心得ヘシ

●指令(十六年十一月三十日)  
外國ノ大學醫學部若シハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免狀  
ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ルルハ内務卿ハ其  
證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

●指令(十六年十一月三十日)  
雖田其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

●指令(十六年十一月三十日)  
雖田其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

●指令(十六年十一月三十日)  
雖田其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

●指令(十六年十一月三十日)  
雖田其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

●指令(十六年十一月三十日)  
雖田其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

●指令(十六年十一月三十日)  
雖田其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

●指令(十六年十一月三十日)  
雖田其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ



●秋田縣伺

前段(恩)或ハ一管内例之ハ甲地方ニ醫師アルモ乙地方ハ山間遠隔ニ僻在シ醫師ニ乏シキ等ノ實況アル者ハ是亦本條ニヨリ具狀スルヲ得ル儀ト心得可然哉

指令(十七年二月廿五日)

後段之場合ニ限ルヘシ

- 第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下附ノ簡手数料金三圓ヲ納ムヘシ
- 第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ
- 第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ
- 第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下附ノ簡手数料金二圓ヲ納ムヘシ
- 第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納ムヘシ
- 第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルハ中央衛生會ノ審議ヲ經内務卿ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ
- 第十二條 但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本條ニ準ジ處分スルコトアルヘシ
- 第十三條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日開停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ廳印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ
- 第十四條 内務卿ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖モ本人ノ行狀ヲ勘査シ中央衛生會ノ審議ヲ經テ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

醫師開業試驗規則(明治十六年十月二十三日第三十四號布達)

今般第三十五號ヲ以テ醫師規則免許布告相成候ニ付醫術開業試驗規則別冊ノ通相定メ明治十七年一月ヨリ施行ス

但明治十二年二月内務省甲第三號布達ハ廢止ス

(別冊)

- 第一條 醫術ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試驗ヲ受クヘシ
- 第二條 内務卿ハ毎年二回醫術開業試驗ヲ舉行スヘシ
- 第三條 但試驗ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試驗期日ハ六ヶ月前之ヲ内務卿ヨリ告示スヘシ
- 第四條 内務卿ハ醫術開業試驗ヲ舉行スル毎ニ官立及ヒ府縣立醫學校病院ニ從事スル者又ハ地方ニ於テ學術名望アル醫師理化學者等ヲ選ヒ試驗委員ヲ命スヘシ
- 第五條 但齒科醫術開業試驗ニ於テハ齒科醫聲名ヲ試驗委員ニ加フルコトアルヘシ
- 第六條 内務卿ハ主事者ヲ派遣シ一切試驗ノ事ヲ監督整理セシムヘシ
- 第七條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第八條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第九條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第十條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第十一條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第十二條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第十三條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第十四條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第十五條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第十六條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第十七條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第十八條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第十九條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第二十條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第二十一條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第二十二條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第二十三條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第二十四條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第二十五條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第二十六條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第二十七條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第二十八條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第二十九條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第三十條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第三十一條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第三十二條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第三十三條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第三十四條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第三十五條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第三十六條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第三十七條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第三十八條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第三十九條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第四十條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第四十一條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第四十二條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第四十三條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第四十四條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第四十五條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第四十六條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第四十七條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第四十八條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第四十九條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第五十條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第五十一條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第五十二條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第五十三條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第五十四條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第五十五條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第五十六條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第五十七條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第五十八條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第五十九條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第六十條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第六十一條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第六十二條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第六十三條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第六十四條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第六十五條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第六十六條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第六十七條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第六十八條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第六十九條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第七十條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第七十一條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第七十二條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第七十三條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第七十四條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第七十五條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第七十六條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第七十七條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第七十八條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第七十九條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第八十條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第八十一條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第八十二條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第八十三條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第八十四條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第八十五條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第八十六條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第八十七條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第八十八條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第八十九條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第九十條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第九十一條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第九十二條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第九十三條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第九十四條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第九十五條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第九十六條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第九十七條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第九十八條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第九十九條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス
- 第一百條 試驗場ニ係ル費用ハ内務省ニ於テ支辨ス

(衛生門)

(醫師開業試驗規則) (何指令)



第六條 試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

前期試驗科目

- 第一 物理學
- 第二 化學
- 第三 解剖學
- 第四 生理學

後期試驗科目

- 第一 外科學
- 第二 內科學
- 第三 藥物學
- 第四 眼科學
- 第五 產科學
- 第六 臨床實驗

●埼玉縣同 試驗科目前後二期ニ區別有之其科目中眼科齒科等モ列記有之候ニ付從來眼科産科等特ニ其一種之試驗ヲ以テ專門開業許可之儀ハ御開屆難相成候トハ存居候得共同則第七條ニ於テ齒科醫ノミ獨專門開業許可相成候様相見ニ聊疑團相生シ候ニ付相伺候也

指令(十六年十一月十九日)

第七條 伺之趣齒科醫術ニ限リ專門開業差許候儀ト可心得事  
齒科試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一 齒科解剖及生理
- 第二 齒科病理及治療
- 第三 齒科用藥品
- 第四 齒科用器械
- 第五 實地試驗

第八條 前期試驗ハ一ケ年半年以上後期試驗ハ更ニ一ケ年半年以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス  
クニコトヲ得ス

但齒科醫術開業試驗ハ二ケ年半年以上修學セシ者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス  
但書追加  
但書追加  
●内務卿ヨリ參事院長へ賀儀並回答

前期試驗ハ一ケ年半年後期試驗ハ更ニ一ケ年半年以上修學セシモノニアラサレハ云々ト有之右ハ更ニ一ケ年半年トハ前期試驗ヲ受ケタルヨリ計算スル儀ニ無之前修學ノ一ケ年半年ヨリ又更ニ一ケ年半年修學スルコトニシテ即チ就學ヨリ通算シテ三年ヲ經シ以上ハ試驗差許可申儀ト相心得候共爲念此段及御賀儀候也  
右回答 十六年十一月八日

本月一日附質開業試驗規則中第八條ノ件ハ見解ノ違右及回答候也

第九條 前期試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副へ後期試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試驗及第ノ證書ヲ副へ毎年六月十二日地方廳ニ差出スヘシ  
地方廳ハ翌月五日迄ニ其書類ヲ取纏メ内務省ニ進達スルモノトス  
但履歷書ニハ其師若シハ他ノ開業醫師二名以上ノ保證アルヲ要ス

●秋田縣同 前期試驗及第ノ證書ヲ相添願出ヘキ成規ニ候處右ハ一身ノ榮譽ヲ證スル者ニシテ長ク保存致度旨願出之者有之事情尤ノ次第ニ候條本證書ハ當廳ニ於テ調査ノ上其寫ヲ以テ進達致不苦儀ニ可有之哉  
回答 十七年七月五日

前期試驗及第ノ證書寫ヲ添ヘ差出スモ苦シカラズ

第十條 地方廳ニ於テ試驗出願者中醫事ニ關スル犯罪若クハ不正ノ行爲アリト認ムル者アルトキハ之ヲ内務省ニ具狀スヘシ内務省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經其情狀ニ因リ期

(衛生門) (醫師開業試驗規則) (伺指令)



限ヲ定メ試験ヲ許サル、コトアルヘシ

第十一條 試験問題ハ試験主事者試験委員協議ノ上之ヲ撰定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ

但時宜ニヨリ回答セシムルコトアルヘシ

第十二條 試験主事者ハ試験終ルノ後試験委員ト共ニ其成績ヲ評定シ及第シタル者ニハ直チニ及第證書ヲ與フヘシ

但及第證書ニハ試験主事者試験委員連署スヘシ

第十三條 試験ニ落第シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試験ヲ請フコトヲ得ス

第十四條 醫術開業試験ヲ受シル者ハ試験開場ノ前日迄ニ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

前期試験手数料 金三圓

後期試験手数料 金五圓

齒科試験手数料 金五圓

第十五條 受験中疾病及ヒ其他ノ事故アリテ試験ヲ中止シ又ハ落第シタル者ト雖モ前條ノ手数料ヲ返付セス

○試験ヲ要セスシテ醫術ノ免狀ヲ授與スヘキ者格例(明治十六年十一月十七日內務省乙第四十六號)

本年第三拾五號布告醫師免許規則第三條ニ據リ試験ヲ要セス免狀ヲ授與スヘキ者ハ東京大學及ヒ左ノ條件ヲ具、當省ノ特許ヲ得タル醫學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニ限り候條右ニ適應スル醫學校有之候向ハ其校則、教則及ヒ教員履歷書生徒員數其他學校ニ關スル一切ノ書類取纏メ豫メ當省ヘ稟請スヘシ此旨相達候事

但明治十五年太政官第四號布達ニ依リ既ニ特許ヲ得タル向ハ其際更ニ稟請ニ及ハス

- 一 三名以上ノ醫學士(歐米ノ大學校ニ於テ卒業シタルモノ等)ヲ以テ教諭ニ充ツルモノ
- 一 生徒ノ員數ニ相當セル助教ヲ置クモノ
- 一 四年以上ノ學期ヲ定メ教則並ニ試験法ノ完備スルモノ
- 一 生徒ノ實地演習ヲ爲スヘキ病院アルモノ
- 一 器械標本ノ具備スルモノ

○醫師開業受験人心得ヲ定ム(明治十六年十二月十日內務省甲第二十六號告示)

今般太政官第三拾四號ヲ以テ醫術開業試験規則布達相成候ニ付右受験人心得左ノ通相定候條此旨告示候事

受験人心得

第一條 醫術開業試験ハ當省ヨリ告示シタル試験舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受ルルヲ得ヘシ

(衛生門) (醫師開業受験人心得)



第二條 醫術開業試験ヲ受ケント欲スル者ハ本年第三拾四號布達醫術開業試験規則第九條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ

第三條 前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタル期限迄ニ試験舉行ノ地ニ着シ宿所氏名ヲ其地方廳ヘ届出ツヘシ

第四條 試験手数料ハ試験舉行ノ前日迄ニ醫術開業試験場ヘ相納ムヘシ

第五條 試験場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルヘシ

第六條 試験中一科以上欠席スル者ハ其期ノ試験ヲ終フルコト得ス十七年甲第三十五號願書式

醫術開業試験願

住所(番附ナレハ本籍)

族籍

氏名

年月生

名

私備何年何月何地ニ於テ醫術開業前期(後期)齒科ナレハ醫術ノ上齒科ノ二字ヲ加ヘ前期後期ノ四字ヲ除ク 試験相受度別紙書類相添此段奉願候也

年月日

右 氏名 印  
 長 氏名 印

衛生委員氏 名 印

内務卿宛

○從來開業ノ醫師ハ試験ヲ要セス鑑札等ヲ附與セシム(明治十年八月十六日府廳)

昨明治九年當省乙第五號ヲ以テ醫師試験ノ備相達從來開業ノ者ハ試験ヲ要セス地方限リ鑑札等ヲ與ヘ新舊ヲ區分シ以テ醫術改進ノ基礎相立候處維新以來該術ヲ以テ諸官廳及ヒ地方公立病院ニ奉職從事シ主トシテ醫寮若クハ教授ノ任ニ當リタル者ハ志願ニヨリ試験ヲ不須直ニ免狀可交付候條左ノ箇條ニ照觀シ本人ノ願書及履歷書ニ管轄ノ添書ヲ付シ可申出此旨相達候事

心得事

- 一 内務省警視病院醫員及ヒ舊警視廳醫員
- 一 但藥局專任ノモノハ此例ニアラス以下之ニ倣ヘ
- 一 陸軍省軍醫副及軍醫試補以上
- 一 海軍省軍醫副以上
- 一 文部省及舊大學東校少得業生及ヒ醫學教官下醫當直醫以上並同省直轄諸學校醫員 醫進 掛御座掛 掛御座掛 掛御座掛

(衛生門)

(醫師開業受験人心得外三件)



- 一 司法省及警彈正監醫員
- 一 宮内省六等侍醫以上及舊少典醫官積少侍醫以上
- 一 開拓使病院醫員
- 一 府縣病院及地方公立病院當直醫以上
- 一 從前府縣廳ニ於テ下付シタル醫術開業ノ證ヲ所持スル者ハ更ニ免狀ヲ授與ス明治十七年一月二十一日

○内務省乙第四號府縣へ達

從前府縣廳ニ於テ下付シタル醫師開業許可ノ證ヲ所持スル者ハ今般更ニ當省ニ於テ免狀授與可致候條此旨相達候事

○入齒齒拔口中療治接骨等營業ノ者開業及鑑札渡方(明治十八年三月二十三日)

入齒齒拔口中療治接骨等營業之者ハ明治十六年十月第三拾四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相成候條從來之營業者ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ付與シ相當之取締法相立可申此旨相達候事  
但既ニ取締法相設居候向ハ更ニ本分ノ手續ヲ爲スニ及ハス

○鍼灸術營業者取締方(明治十八年三月二十五日)

鍼灸術營業者之儀ハ從來開業之者並ニ新規開業セントスル者ハ自今出願セシメ其修業履歷ヲ檢シ相當ト認ムルハ差許サ苦其取締方之儀ハ便宜相設可申此旨相達候事  
但既ニ營業差許シタルモノハ更ニ出願セシムルニ及ハス

○患者死亡届差出順序(明治九年四月一日)

當省本年乙第拾三號ヲ以テ患者死亡届ノ儀相達候處右届書差出方順序醫師ヨリ直チニ差出候テハ數醫ノ施療ヲ受ケタル患者死亡ノ節醫師各自届出重複シ或ハ互ニ譲リ合等開相成候儀モ可生ニ付主任ノ醫師ハ必ス届書ヲ死者ノ家人ニ付與スヘク家人ハ必ス之レヲ請求シテ該病家ヨリ區戸長ニ爲届出候様可取計此旨更ニ相達候事同上戸長ノ下(或ハ區)

●藥舖醫師兼業之儀ニ付福井縣伺(十六年五月十一日)

會テ御省免狀所持又ハ縣限リ許可シタル藥舖ニシテ醫學修業ノ上醫術開業出願候節試驗問題請求候ハ、御交附可相成ハ勿論ト信認仕候而シテ試驗成績合格者ハ開業免狀交附セラレシ上ハ右醫師從前藥舖業相兼業スルモ別ニ妨ケ無之儀ト相心得可然哉  
指令(十七年四月十一日)  
伺之由

●醫師兼業之儀ニ付埼玉縣伺(十七年四月十九日)

醫師ニシテ藥舖兼業不相成儀ハ各縣伺御指令等ニモ相見候狀ヲハ藥種商ト雖モ同様兼業不相成儀ニ候哉

(衛生門) (入齒・抜口中療治接骨等營業者開業及鑑札渡方) (患者死亡届差出方)



指令 (十七年四月三十日)

● 醫術開業免狀授與之儀ニ付宮城縣伺 (十六年十二月二十四日)

御省乙第四十七號ヲ以テ明治十年御省乙第七十六號達以後奉職ノ者ト雖正該達ニ比準スヘキモノハ志願ニ依リ直ニ醫術開業免狀授與可相成旨御達相成候就テハ縣立避病院擔當醫員ノ如キハ勿論該達ニ比準スルヲ得ヘキ儀ト存候處縣立避病院附屬梅院擔當醫員及郡區醫員ノ如キモ縣令ノ命スル處ニシテ地方稅賦金等ヨリ俸給與致置儀ニモ有之且地方衛生會員中醫業ヲ以テ撰拔セラレタルモノハ俸給ハ給與不致ト雖同様令ヨリ命シ置候ニ就テハ是亦該達ニ比準スルヲ得候儀ト相心得可然哉  
指令 (十七年五月二十日)

● 入齒齒拔口中療治接骨等營業者取締御達中疑義ノ釐宮城縣伺 (十八年三月二十八日)

第一條 入齒齒拔口中療治接骨等營業ノ者トアルハ右四業ノ外ニ鍼灸按摩等ノ者ヲモ食著セラレハヤ  
第二條 從來口科又ハ整骨科ノ者明治十六年十二月御省乙第五十號御達ニ據リ醫籍編入進達ノ上御省ヨリ免狀下附ノ者ヲ除キ其他右ノ如キ營業ヲ爲ス者ノ取締相立候儀ト心得可然哉  
第三條 營業鑑札ハ廳費ヨリ支辨スヘキヤ又ハ地方稅ヨリ支辨スヘキモノナルヤ  
第四條 從來ノ營業者ハ此際各屬地方ニ於テ鑑札ヲ附與シ云々トアレハ從來ノ營業者指令 (十八年四月二十日)  
第一條 鍼灸按摩ハ食著セズ  
但鍼灸ハ明治十八年當省甲第十號達ノ通可心得按摩ハ其屬ノ見込ニ任セ適宜取締相立候儀ハ若シカラス  
第二條 第四條 伺之趣  
第三條 後段伺之趣

○ 賣藥規則 (明治十年一月二日)

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

別冊

第一章

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ効能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ 十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ 十一年第二十七號布告ヲ以テ(管轄廳)ノ下ハ八字ヲ削ル

但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ 十五年第五十二號布告

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ 十一年第二十七號布告ヲ以テ(管轄廳)ノ下ニ改メ(賣藥)ノ下

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スル者其由ヲ届出

第五條 賣藥ヲ請買セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ヲ

(衛生門) (伺指令) (賣藥規則)



營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ届出免許鑑札ヲ受ク

第六條 賣藥營業者及ヒ請買者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請買者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント

第八條 營業鑑札請買鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此

期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

●岐阜縣伺 取締上不都合ニ付自今鑑札裏面ヘ滿期年月日ヲ記載候モ不苦候哉

指令(十六年五月廿五日)

●山形縣伺 (前略)免許期限ニ至リ新鑑札願受ル者ハ鑑札書換手数料ヲ徴シ引續キ營業者

トシ亦期限過ル際造新鑑札願受ケサル者ハ管ニ取調舊鑑札返納可爲致順序ノ處若シ免

許期限經過新鑑札願受ケノ者ハ營業中絶セシ儀ニ付一旦廢業届出サセタル上更ニ營業

同視シ鑑札書換手数料而已徴收可然哉或ハ此等ノ者ト雖引續キ營業者ト

之時ハ規則第二十三條ノ無鑑札營業者ニ照準スヘキヤ右相伺候也

指令(十六年九月八日)

●前段免許期限ニ至リ引續キ營業鑑札下附候モノハ新規營業ト見做シ鑑札料營業稅共徴

後段伺之通

●山形縣伺 賣藥營業者滿期續願シタルモ其請買行商者鑑札ハ規則第八條ノ年限迄書換

ヘス可然哉

○指令(十七年四月廿二日)

●同之通

第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ

月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條 免許期限内ト雖其製藥第三條ニ掲グル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ發

業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコアルヘシ

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、時ハ其請買者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ

届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前

書換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請買者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ

管轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ請フヘシ

第十五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタルモハ營業者ハ勿論其請買者ニ於テモ總

テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

(衛生門) (賣藥規則) (伺指令)

八六一



第十六條

賣藥營業者ハ左ノ通税金並鑑札料ヲ上納スヘシ十四年第六號布告ヲ以テ(賣藥及ヒ(右鑑札料)ノ次(賣藥請賣鑑札料)ノ二項ヲ別ル) 營業者)ノ下(及ヒ請賣者)ノ五字ヲ

賣藥營業稅

藥劑一方ニ付一ケ年

金貳圓

右鑑札料

藥劑一方ニ付一枚

金貳拾錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金並鑑札料ヲ納ムヘ

第十七條

水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘ

第十八條

税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日

第十九條

税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年

第二十條

無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期

第二十一條

無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スル者又ヒ無鑑札

第二十二條

免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ

第二十三條

無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者

第二十四條

諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ偽造シ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ

第二十五條

私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一

第二十六條

方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十七條

新濶縣同營業者ニシテ期限過キタル鑑札ヲ以テ營業シタル者第二十三條無鑑札營業ス

第二十八條

指令 十六年八月三日

第二十九條

同之通

第三十條

(衛生門) (賣藥規則) (賣藥取扱手帳)

第三十一條

八六三

第三十二條

八六二



第二十六條

以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其實  
トシテ其罰金ノ半高キ與フヘシ

賣藥取扱手續明治十年三月十二日  
內務省令第三十二號府廳へ達

本年一月太政官第七號賣藥規則公布相成候ニ付テハ左ノ手續書及書式雛形ニ照準取扱可申

此旨相違候事

一 昨明治八年七月以降當省ニ於テ下附候賣藥鑑札ハ追テ相違候迄免許發賣共當分替替爲  
願出ニ不及規則公布後相渡候鑑札同様相心得ヘシ

一 前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月日ヨリ起算スヘシ尤税金ノ備ハ  
本年分ヨリ徴收スヘキニ付昨九年マテノ分ハ納メレムルニ及ハス

但鑑札料ハ總テ上納爲致定期納附ノ節勘定帳ニ其區分チナスヘシ

一 營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限り營業ノ權アルモノニ付別戶支店等ニ於テハ別ニ  
其居住人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ營業スルヲ得ヘカラス十年內務大藏兩省令  
第六十五號達ヲ以テ本項  
ヲ追  
加ス

一 前條營業鑑札所持ノ賣藥ヲ請賣又ハ行商致シ居候分來ル四月三十日マテニ悉皆爲願出鑑  
札交付取計フヘシ同上達ヲ以テ次項ヲ改正ス  
但既往ニ屬スルヲ以テ除ク

一 賣藥營業者並ニ請賣者免許看板ハ左式ノ通製セシムヘシ  
寸法同上

一 堅三尺

許 免 賣 藥 營 業

出 4 寸

許 免 賣 藥 請 賣 業

同 上

一 税金並ニ諸鑑札料納附ノ節ハ上納證ヲ添ユルノヨニシテ勘定帳ハ一ケ年取束テ毎年八月  
三十一日限り該地差立大藏省租稅局へ進達スヘシ

但會計年度ノ都合モ有之本年一月ヨリ六月マテノ分ハ別牒ニ製シ八月三十一日限り該  
地差立同局へ進達スヘシ同上達ヲ以テ  
全項ヲ改正ス

一 行商鑑札ハ各管廳ニ於テ雛形ノ通之ヲ製シ願人ニ下附スヘシ尤行商スル藥劑ハ其方名ヲ  
一々鑑札ニ記載スヘシ

但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スル時ハ方數ニ拘ハラヌ營業者異ナル毎ニ鑑札ヲ別製  
シテ之ヲ渡スヘシ

一 行商鑑札ヲ下附シタル分ハ其都度明細簿ニ登記シ置キ每半年分宛別ニ一本ヲ調製シ一月  
七月ノ兩度內務省ニ開申スヘシ十四年七月廿五號省  
令ヲ以テ次項ヲ削ル  
十年內務大藏兩省令第六  
十五號達ヲ以テ全項改正

一 賣藥營業稅並諸鑑札料上納勘定帳雛形十五年內務大藏兩省令第六  
十五號達ヲ以テ全項改正  
明治何年七月ヨリ同何年六月マテ賣藥營業稅並諸鑑札料仕上勘定帳

賣藥營業願書式

明治八年當省乙第九十八號達雛形ニ照準スヘシ

(雛形並書式略ス)

(衛生門)

(賣藥規則)

(賣藥取扱手續)



本年九月太政官第二十七號ヲ以テ賣藥規則改正公布相成候ニ付テハ左之手續並離形ニ照準  
シ取扱可申此旨相達候事 十一月十八日 務省第七十號府縣へ達

○賣藥取扱手續

- 一 盤札料紙ハ別紙離形之通相製シ當省ヨリ相渡スヘシ
- 一 右料紙ハ凡積ヲ以テ毎半年期分宛一月七月兩度ニ受取方當省へ申立ヘシ
- 一 管應ニ於テ盤札ニ記スヘキ方名姓番號等離形之通記入押印之上下渡スヘシ
- 一 家畜牛馬等ニ用ユル賣藥盤札ハ赤輪廓之分ヲ用ユヘシ
- 一 免許期限内ニ於テ盤札書換ヲ要スル分ハ其事由並ニ書換タル年月日ヲ盤札裏面ニ記入下付スヘシ
- 一 賣藥廢業盤札是迄當省へ返納致來候處自今其義ニ及ハス管應ニ於テ消却スヘシ 十四年七月十四日 第一項ヲ削ル

(盤札離形略之)

○賣藥請賣盤札並行商盤札製作費支辨方 (明治四年四月廿六日 第三十二號府縣へ達)

賣藥請賣盤札並行商盤札製作費ノ儀ハ自今明治十三年四月第十六號布告第三條第七項ノ内  
ヲ以テ支辨スヘシ此旨相達候事

○賣藥手續申請賣盤札及行商盤札並行商盤札製作費ノ一項ヲ削除シ更

ニ取扱方ヲ示ス (明治四年四月三十日 肉務省第七十五號府縣へ達)

本年四月太政官第三十二號公達相成候ニ付テハ明治十年三月當省乙第三十二號賣藥取扱  
手續請賣盤札料及行商盤札料ノ廉並行商盤札製作費云々ノ一項削除候條更ニ左ノ條項ニ照  
準シ取扱可申此旨相達候事

- 一 賣藥請賣及行商ニ地方稅ヲ賦課スルハ本年府縣會ニ於テ其稅額ヲ議定シ十四年度ヨ  
リ徵收スヘシ
- 一 請賣盤札料紙ハ自今大藏省ヨリ配賦不致候條各官廳ニ於テ從前離形之通製造スヘシ  
但大藏省ヨリ下附セシ盤札所持ノ者ハ別段引替ニ不及且本年分豫算ヲ以テ受取候料紙  
未用ノ分ハ同省へ返納スヘシ

一 請賣者ニテ其賣藥ヲ調製候儀ハ無之等ニハ候得共或ハ營業者ノ藥方分量ヲ傳ハリ調製候  
向モ有之候ハ改正規則第二十三條ノ罰則ニ相當ルヘキモノニ付迷ニ調製相止メ更ニ賣  
藥營業爲願出候條取計スヘシ

●異邦ノ賣藥請賣ノ儀ニ付山口縣同十六年六月十八日  
發ニ支那人ノ製藥ニ係ル俗ニ唐人膏藥ト稱スル賣藥ヲ請賣致度願出候モノ有之右等モ  
部テ賣藥規則ニ據リ差許可然故相伺候也  
指令 十六年八月八日  
出而伺之越外國ノ賣藥ヲ請賣スルモノハ營業者ト看做シ更ニ檢査ノ上營業盤札下附  
スヘキ儀ト可心得申

(衛生門) (賣藥取扱手續) (伺指令)



●丸散藥等ノ藥劑ニ効能書ヲ附セス販賣ノ儀ニ付山梨縣伺十六年六月四日

丸散散藥等ノ藥劑ニ効能書ヲ附セス單ニ方名及用法代價ノミヲ附記シテ販賣スルモノ有之右ハ効能書ヲ附セサル以上ハ賣藥規則外ノ者ト見做サ、ルヲ得サル儀ニ可有之哉  
指令 十六年八月十四日  
書面伺之趣治病ノ目的ヲ以テ販賣スルモノハ總テ賣藥規則ニ準據セシムヘキ儀ト可  
心候事

●施藥ノ儀ニ付岡山縣伺十六年六月廿七日

賣藥規則ニ準シ方名製法用法効能等ヲ附記シテ而シテ無代價施與致度旨出願候者ハハ儀  
札附與徵稅方等一般賣藥同様取扱可然乎將タ右等之儀不問屆儀ニ候乎  
指令 十六年八月十八日  
後段伺之通

●藥湯營業ノ儀ニ付福島縣伺十五年五月十八日

藥湯營業免許ヲ得タルモノヨリ其開劑品ヲ買請温度及水盤等部テ該營業者ノ方法ニ做  
ヒ藥湯營業スルモノ、如キハ賣藥營業同様之手續ヲ以テ鑑札下附可然哉此段相伺候也  
指令 十六年九月十四日  
伺之通

●賣藥請賣及行商鑑札方數記載方之儀ニ付福井縣伺十六年五月二十四日

賣藥請賣及行商鑑札方數記載方之儀ハ明治十年御省乙第三十二號及十一年乙第七十號  
御達ニ據リ五方迄ヲ限リ記載下附致來候處十四年第三十二號公達ヲ以テ自今郡區廳員  
給料旅費及關中船費之内ニ以テ支辨可致様相成候ニ就テハ其方數之如キハ縣限ヲ適宜  
記載致シ可然哉此段相伺候也  
指令 十六年九月十九日  
書面伺之趣五方ニ限候儀ト可心得事

●賣藥能書中六種傳染病之項削除之儀ニ付岐阜縣伺十六年十月十日

賣藥能書中六種傳染病ノ項許可致來候處右ハ人民ニ於テ自然傳染ニ罹ルモノ賣藥ヲ服シ  
醫藥ヲ受クシテ該病應處之弊ヲ醸成候モ難計取掃上ニモ關係候儀ニ付自今能書中六  
種傳染病之項削除販賣爲致度此段相伺候也  
指令 十六年十月十八日  
伺之通

●鑛泉販賣ノ儀ニ付嶋根縣伺十六年九月八日

鑛泉ヲ採酌運搬シテ病者ヲ浴セシムルハ賣藥規則外トシ可取扱旨明治十一年御省番外  
御達賣藥檢査心得書ニ有之條ニ付テハ内服ノ爲メ販賣スルモノモ同様取扱可然哉  
指令 十六年十一月一日  
書面伺之趣ハ賣藥規則外トシ取扱候儀ト可心得事

●賣藥營業者ノ儀ニ付岡山縣伺十七年二月二十五日

受ニ賣藥營業及ヒ請賣者支店販賣セント欲スル者ハ十年御省第六十五號御達ニ別戶支  
店等ニ於テハ其居住人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非レハ云々ト有之然ル上ハ鑑札記載方  
ニ於テハ本主營業人ノ名前ヘ尙別戶支店ヲ擔當スル者ノ姓名ヲモ記載可下渡儀ニ可有  
之哉果シテ然ラハ税金ハ本店而已ニテ可然哉  
指令 十七年四月九日  
伺之趣鑑札面ニハ何處支店代理人何誰ト記シ營業稅及鑑札料共箇所毎ニ徵收スル儀  
ト可心得事

●賣藥營業ノ儀ニ付埼玉縣伺十七年四月九日

賣藥營業者ニシテ甲地ニ居住シ乙地ニ一定ノ床見世ヲ設ケ日々出張製劑ヲ販賣スルモノ  
有之右之如キハ行商鑑札ヲ附與シ可然哉  
指令 十七年五月九日  
伺之通

(衛生門)

(伺指令) (賣藥取扱規則)



賣藥規則中疑義之件 栃木縣同十七年四月十八日

賣藥規則第十三條ニ據リ免許證札ヲ他人ニ譲渡サントスル者及ヒ第十四條ニ據リ免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時又水火盜難其他紛失等ニ付免許證札ヲ換出願中證札所持不致ト雖モ期限中故營業不善換ト相心得可然哉  
指命 十七年五月十六日  
何之通

○藥品取扱規則(明治十三年一月十七日)

藥品取扱規則左ノ通相定來ル二月十五日ヨリ執行シ明治十年二月第貳拾號布告毒藥劇藥取扱規則ハ右同日限相應條此旨布告候事

第一條 凡ソ藥品中最注意シテ精撰スヘキモノハ第一類ニシテ其性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直チニ生命ヲ傷害スルコト足ルヘキモノヲ第二類ニシテ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類ニシテ其類目別表ノ如シ

但新タニ發見及ヒ舶來シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シテ試驗ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ峻烈ニ拘ハラズ若シ精良ナラサルトキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品故ニ他物ヲ混シタルニアラズ全ク化學製造上或ハハ之ヲ藥用トシテ販賣スヘカラス

但藥師ニ於テ自ラ其良否ヲ鑑別シ能ハサルトキハ最寄司藥場ニ請ヒ試驗ヲ受ケルコトヲ得ル下(無費ニテ其ノ五字ヲ削除ス)

第三條 第一類中ノ粗製品ト雖モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ必チ販賣スルコトヲ得

第四條 第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年月日及ビ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニアラサレハ決シテ販賣或ハ授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他不安心ト認ムルモノニハ一切交付スヘカラス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若シハ包紙ニ必ス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ本文ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密封印スヘシ

第六條 第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ偽品ヲ故意ニ他ノ物品ヲ本品ニ混合シテ其容量重量成ハ名變ヲ變換ス 敗品其酸敗風化或ハ潮解シ或ハ其効力ヲ失スルモノハ類ヲ云フ

販賣スルモノハ其價敗品ヲ没入シ三拾圓以上五百圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年半以下ノ懲役第一條但書第四條但書及第三條第五條ニ背戻スルモノハ壹圓以上貳拾五圓以下ノ罰金若クハ二月以上二十五日以下ノ懲役ヲ科シ又ハ罰金懲役ヲ併セ科スヘシ

第七條 右ノ罰則ヲ再犯スルモノハ其本罰ノ最多限ニ貳倍以下ノ罰ヲ科シ三犯スルモノハ

(衛生門) (藥品取扱規則)

八七二



本罰ノ最多限ニ三倍以下ノ罰ヲ科スヘシ

第一類 注意表

- 印度大麻葉及其製劑
- 麥奴及其製劑
- 乳酸鐵
- 吐根
- 礮砂精(アンモニヤ水)
- カラバル豆及其製劑
- ヨサウム
- 沃土鐵舍利別
- 第一コロール汞(甘汞)
- 炭酸アンモロヤ(礮砂糖)
- 葛陀羅華及其製劑
- 芫菁(斑蝥)
- コロソルヒドライト
- 格魯道篤實及其製劑
- 阿片製劑
- 葛若葉並根及其製劑
- 番木籃子及其製劑
- ペプシチ
- 吐酒石
- チキタリス葉及其製劑
- 肝油
- 沃土加里
- 第一沃土汞(黃色沃汞)
- 第二コロール汞(昇汞 猛汞)
- 老利爾結兒私水並苦扁桃水
- 蒟刺巴脂並球根及其製劑
- コロソフォルム
- 格魯失屈謨實及其製劑
- アトロヒチ鹽類
- サントニイチ

- 醋酸(アセチク)水(エシテリリ精)
- 規尼涅鹽類
- 硝酸銀
- 砒酸セリウム
- ニイテル(アール)
- ヒロス藥及其製劑
- 莫爾比涅鹽類

第二類 毒表

- 揮發苦扁桃油
- 有毒性アルカロイド並其鹽類
- ニコチチ、チキタリチ、ナルセーチ、ウエラトリチ、プルシチ、コニーチ、コデーチ、アトロ
- ヒチ、アニコチチ、エメチチ、ヒヨシアミチ、ホルヒネ、ストリキニーチ等
- 猛劇汞劑
- 白降汞、第一沃汞、第二沃汞、昇汞、赤降汞、硝酸亞酸化汞、青酸汞、生々乳
- 薩爾撒根
- 機那波
- 綿馬及其製劑
- 失鳩答草及其製劑
- 臭素加里(フロロムカリウム)
- 鹽基性硝酸蒼鉛
- 葛麻子油
- 水素還元鐵
- カンタリダーチ
- 亞砒酸(異名 自砒石、砒石) 其製劑及砒抱合物(砒冠、砒黃)

(衛生門) (醫品取扱規則)



青酸及其製劑 第三類制表

- 印度大麻葉及其製劑
- 番木鱉及其製劑
- 麥奴及其製劑
- 吐酒石其他安質葉尼製劑
- 腐黃
- 硫酸
- 苛性加里(腐蝕)
- 芥子油及芥子精
- ヨグウム及其製劑
- ヨザウム
- 雙驚刺球根(附子)及其製劑老利爾結兒私水並扁桃水
- ツユウキ根
- 蒟刺巴脂並球根及其製劑
- 莞菁(斑)及其製劑
- 實若葉並根及其製劑
- 巴豆及巴豆油
- ポドヒリオン
- 吐根及其製劑
- 毒高昔及其製劑
- サキタリヌ葉及其製劑
- カラバル豆及其製劑
- 苛性曹達(腐蝕)
- 甘汞及粉輕粉、汞灰散、藍丸
- 沃土加里
- ヨードホルム
- 過酸縮倫酸加里及曹達
- 曼陀羅華葉及其製劑
- クレチソート

- プロミウム(臭素)
- コロンン實並根及其製劑
- コロハフオルム(迷藥)
- コロラルヒドライド
- コロム酸加里及重コロム酸加里
- 亞鉛華其他亞鉛製劑
- 醋酸鉛(鉛)其他鉛製劑
- 次醋酸銅其他銅製劑
- 硝酸銀
- 臭素加里
- 鹽化金ナトリウム
- 鹽基性硝酸銻鉛其他銻鉛製劑
- ヒヨス葉及其製劑
- 瑞香皮及其製劑
- コロンン酸
- コロトニコロラルヒドライド
- コロザイン
- 阿片及其製劑
- サヒナ葉及其製劑
- サントニーチ
- 硝酸(硝石)
- 失鳩答葉及其製劑
- 鹽酸(鹽化水素酸)
- 鹽酸重土其他重土製劑
- エウホルビウム及其製劑
- 石炭酸
- スカンモニー脂

○燐製ノ鼠取藥ヲ禁ス (明治十年三月二十二日 內務省乙第三十六號府縣へ達)

從來燐製ノ鼠取藥ヲ以テ實藥トナシ候儀聞屆鑑札下渡候向有之候處右ノ毒藥ヲ到底民間

(衛生門) (藥品取扱規則)



誤用之虞ナキヲ免レズ殊ニ本年太政官第二十號毒劇藥取扱規則公布相成取締上ニモ關係候ニ付自今一切禁止候條右營業者有之府縣ハ其旨相違違ニ鑑札返納可取計此旨相違候事但請賣業ノモノモ同様賣業規則ニ照シ禁止之處分可相違候事

○アニリン其他鐵屬製ノ繪具染料取締方(明治十一年四月十八日)

近年アニリン其他鐵屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物ニ著色スルモノ不勘趣ニ候處右ハ自然人身ノ健康ヲ害スルハ勿論中ニハ甚シキ中毒ニ罹リ忽チニ非命ノ橫夭ヲ致スモノモ有之危險ノ至リニ候條各地方廳ニ於テ注意取締可致此旨相違候事

退テ地方慣用ノ品ニヨリ毒性分ノ有無判然離致モノハ其原物相添當衛生局ハ照會試驗ヲ受可申事

○繪具染料賣買取締方(明治十三年三月十七日)

本年一月太政官第壹號ヲ以テ藥品規則公布相成候ニ付テハ繪具染料等モ第二類並第三類表中ニ掲載有之モノハ該規則ニ照シ賣買可致等ニ候條心得違ノ者無之様可取計此旨相違候事

○摺附木製造ニ黃燐ヲ用フルヲ禁ス(明治十八年一月二十八日)

摺附木製造ニ黃燐ヲ用ヒ候備ハ自今禁止候様可致此旨相違候事

○藥品其他検査手数料ヲ定ム(明治十七年十月十四日)

當省衛生局(東京大阪)試驗所ニ於テ舉行スル藥品其他ノモノ検査手数料左ノ通相定來ル十一月一日ヨリ徵收候條此旨告示候事

検査手数料

一藥品 一容器(一瓶一)ニ付金壹圓乃至五圓

但大容器ノ藥品ヲ検査シタル上小容器ニ分テテ印紙ヲ貼付スルモノハ其小容器ヲ以テ一容器トス尤單ニ告示箋ヲ與フルモノハ其個數ノ多少ニ拘ラス金壹圓ヲ徵ス

左ノ各項手数料ハ壹個毎ニ徵收スルモノトス

- 一 飲水及氷雪 飲料適否鑑定 金拾圓乃至五拾圓
- 一 乳汁 單而ナル理學的検査並定性分析 金貳拾圓乃至貳圓
- 一 酒類 定量分析 金貳拾圓乃至五圓
- 一 飲食物 全全 金貳拾圓乃至貳圓
- 一 天氣及有害性瓦斯類 定性定量ニ拘ラス 金壹圓乃至五圓
- 一 食器中有害性金屬 定性分析 金貳拾圓乃至貳圓
- 一 衣服料 定性分析 金五拾圓乃至三圓
- 一 礦泉 定量分析 金五拾圓乃至三圓

(衛生門) (繪具染料賣買取締方) (藥品其他検査手数料ヲ定ム)



一 顏料

一 玩具其他着色物中有毒性色質

一 化學製品 定性分析  
定量分析

一 礦物及金屬 全

一 警察及裁判關係諸品 檢査ノ難易及之ニ要ス  
ル時日ノ長短ニ依リ

一 前各項外ノ諸品ハ其檢査ノ難易之ニ要スル時日ノ長短ニ依リ相當ノ手續料ヲ徵收スヘシ

一 右諸品時日ヲ限リ檢査ヲ乞フモノハ試驗所ノ都合ニヨリ之ヲ許可スルヲアルヘシ然ルモ  
ハ普通檢査手續料ノ五倍以内ヲ增徴ス可シ

● 檢査手續料之價ニ付靜岡縣同十七年十月二十八日

今般即省甲第廿七號ヲ以テ衛生局試驗所ニ於テ舉行スル試驗手續料之價告示相成候處  
左之廉價疑團有之候ニ付左ニ相伺候

一 右手數料ノ價ハ人民ノ志願ニ依リ試驗願出候者ノミ徵收相成候儀ニ候哉

二 人民ニ於テ志願ニアラサルモ御省ノ合連ニ依リ試驗ヲ乞ハサルヲ得サルモノ例之  
ハ明治九年御省乙第五十四號達ニ依リ製鹽試驗ヲ願出ルモノ、如キハ徵收不相成  
儀ニ候哉

三 前同縣令ノ令達ニ依リ縣令ハ願出ルモノニシテ縣令ヨリ更ニ御省ハ試驗ヲ依願  
スルモノ例之ハ著色料、礦泉等ノ如キハ前同縣令收不相成儀ニ候哉

四 人民ノ願出ニ無之縣令ニ於テ試驗ヲ必要ト認メ試驗ヲ當省ハ依頼スルモノ例之ハ  
有害品檢査等ノ如キハ徵收不相成儀ニ候哉

指令 (十七年十一月十三日)

八七五

金貳拾錢乃至貳圓

全

金貳拾錢乃至壹圓

金壹圓乃至五圓

金三圓乃至貳拾五圓

金五拾錢乃至五拾圓

第一項 官民ノ別ヲテ徵收ス  
第二項 伺之通  
第三項 第四項 第一項指令ニ依リ了知スヘシ

○石炭酸其他劇藥傳染病流行ノ際販賣ヲ許ス (明治十三年五月十五日)

石炭酸其他劇藥ハ本年二月第一號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ其管轄廳ニ願出此旨布告候事

○藥用阿片賣買並製造規則 (明治十一年八月九日)

明治三年八月布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則左之通相定限條此旨布告候事

但施行ノ時日ハ追テ内務省ヨリ可相達事 同年内務省甲第廿七號ヲ以テ十二

第二條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許ス

第三條 藥用阿片ハ其內國產若クハ外國產ヲ論セス總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上然ル後各司藥場ヨリ阿片卸賣特許藥舖ニ拂下ケ之ヲ賣捌カシムヘシ

但各司藥場ヲ置カサル地方ニ於テハ該地方廳ヨリ之ヲ拂下ケヘシ  
第三條 各司藥場ヨリ拂下クル所ノ阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器司藥場ノ印紙ヲ貼

(衛生門)

(藥用阿片賣買並製造規則)

八七九



附スヘシ

八八〇

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限り藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ  
内務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ内務省ニ返納スヘシ

第五條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ  
報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置  
クヘシ

第七條 特許ヲ受タル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度最寄司藥場同藥場ヲキ地ニ  
申立テ其拂下ケテ請フヘシ

但欲乏ノ節ハ臨時拂下ケテ請フコトヲ得

第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルキハ其量目並ニ其住所姓名  
及年月日病院ハ其名冊及ヒ院  
長若クハ副長ノ姓名ヲ記シ刷印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘ  
シ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ユヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ買賣  
スルトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ起ユヘカラ

ス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者外ハ特許藥舖並ニ一般藥舖ニ於テ  
一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ一匁以上賣捌ノ高及ヒ買入ノ住所姓名並ニ一匁  
以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤一匁以下ノ分ハ平常其  
明細簿ヲ記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ内務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出ステ要ヒスト雖モ平  
常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管  
轄廳ヲ經由シテ内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名刷印シタル願書ヲ以テ地方廳  
ヲ經由シ内務省ノ買上ケテ願フヘシ右買上ケテ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコ  
トヲ許サス

但司藥場ニ於テ其品位藥用ニ適セサル者トスルキハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ  
其阿片ハ其應ニ預リ置クヘシ

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アル

(衛生門)

(藥用阿片賣買並製造規則)

八八一



一 顏料

一 玩具其他着色物中有害性色質

一 化學製品 定性分析

一 礦物及金屬 定量分析

一 警察及裁判關係諸品 檢査ノ難易及之ニ要ス

一 前各項外ノ諸品ハ其檢査ノ難易之ニ要スル時日ノ長短ニ依リ

一 右諸品時日ヲ限リ檢査ヲ乞フモノハ試驗所ノ都合ニヨリ之ヲ許可スルコトアルヘシ然ルモ  
ハ普通檢査手續料ノ五倍以内ヲ増徴ス可シ

● 檢査手續料之儀ニ付靜岡縣同令十七年十月二十九日

- 一 今般印省中第七號ヲ以テ衛生局試驗所ニ於テ執行スル試驗手續料之儀告示相成候處  
左之儀ハ疑固有之儀ニ付左ニ相伺候
  - 二 右手續料ノ儀ハ人民ノ志願ニ依リ試驗願出候者ノミ徴收相成候儀ニ候哉
  - 三 人民ニ於テ志願ニアラサルモ御省ノ令達ニ依リ試驗ヲ乞ハサルヲ得サルモノ例之  
ハ明治九年御省乙第五十四號達ニ依リ製糖試驗ヲ願出ルモノ、如キハ徴收不相成  
儀ニ候哉
  - 四 前同縣縣令ノ令達ニ依リ縣令ヘ願出ルモノニシテ縣令ヨリ更ニ御省ヘ試驗ヲ依頼  
スルモノ例之ハ著色染料類等ノ如キハ前同縣縣令不相成儀ニ候哉
  - 五 人民ノ願出ニ無之縣令ニ於テ試驗ヲ必要ト認メ試驗ヲ當省ヘ依頼スルモノ例之ハ  
有害品檢査等ノ如キハ徴收不相成儀ニ候哉
- 指令 (十七年十一月十三日)

八七五

金貳拾錢乃至貳圓

全

金貳拾錢乃至壹圓

金壹圓乃至五圓

金三圓乃至貳拾五圓

金五拾錢乃至五拾圓

- 第一項 官民ノ別ナク徴收ス
- 第二項 同之趣
- 第三項 第四項 第二項指令ニ依リ了知ス

○ 石炭酸其他劇藥傳染病流行ノ際販賣ヲ許ス (明治十三年五月十五日)

石炭酸其他劇藥ハ本年二月第一號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣者ノ者ハ其管轄廳ニ願出此旨布告候事

○ 藥用阿片賣買並製造規則 (明治十一年八月九日)

明治三年八月布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則左之通相定候條此旨布告候事

但施行ノ時日ハ迨テ内務省ヨリ可相達事 同年内務省甲第七號ヲ以テ十二

第二條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許ス

第二條 藥用阿片ハ其内國產若クハ外國產ヲ論セス總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ

買上ク然ル後各司藥場ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ケ之ヲ賣捌カシムヘシ

第三條 各司藥場ヨリ拂下クル所ノ阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器司藥場ノ印紙ヲ貼

(衛生門)

(藥用阿片賣買並製造規則)

八七九



附スヘシ

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ  
内務省ニ稟議シ鑑札ヲ受テ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ内務省ニ返納スヘシ

第五條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ  
報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置  
クヘシ

第七條 特許ヲ受タル藥舖ハ半年分賣捌ノ高チ豫算シ毎年兩度最寄司藥場可賣場ナキ地ニ  
申立テ其拂下ケテ請フヘシ

但欲乏ノ節ハ臨時拂下ケテ請フコトヲ得

第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルハ其量目並ニ其住所姓名  
及年月日病院ハ其名冊及ヒ院長ノ姓名ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘ  
シ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ユヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ買賣  
スルトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ起ユヘカラ

ス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ニ外ハ特許藥舖並ニ一般藥舖ニ於テ  
一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ一匁以上賣捌ノ高及ヒ買人ノ住所姓名並ニ一匁  
以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤一匁以下ノ分ハ平常其  
明細簿ヲ記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ内務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平  
常其明細簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ醫粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管  
轄廳ニ經由シテ内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳  
ニ經由シ内務省ノ買上ケテ願フヘシ右買上ケテ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコ  
トヲ許サス

但司藥場ニ於テ其品位藥用ニ適セサル者トスルハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ  
其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アル

(衛生門)

(藥用阿片賣買並製造規則)



ハト雖其品位ニ應テ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ「モルヒチ」ノ多少ニ因ル  
ヘシ

八八二

第十五條 內務省ニ買上ケ及ヒ拂下ケル所ノ阿片ハ百分中ニ「モルヒチ」六分以上十一分ニ  
至ルマテ含有スル者ニ限ルヘシ

第十六條 此規則ニ違反スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ  
沒收シ百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○阿片賣買並製造規則施行ニ付取扱方

明治十一年十一月四日  
內務省乙第六拾八號府縣へ達

本月二日當省甲第貳拾七號ヲ以テ阿片賣買並製造規則施行ノ日限布達候ニ付テハ豫メ左  
件ノ通可取計此旨相達候事

一各管内藥舖營業者及ヒ阿片製造者ニ於テ現在所持ノ阿片ノ試驗ヲ要スルモノハ來ル十  
二月限リ最密司藥場ニ差出ス可シ試驗ノ上相當ノ品ハ小器ニ分チテ印紙ヲ貼附シ之ヲ  
下渡シ若シ其買上テ望ムモノハ定價ヲ以テ買上ク可ク品位不相當ノ品ハ其理由ヲ記シ  
テ持主ニ返附スヘシ

一阿片賣買並製造規則第四條ニ據リ各郡區ニ於テ阿片賣捌ヲ特許スヘキ藥舖ヲ撰定シ其  
郡區町村番地姓名年齢ヲ詳記シ來ル十二月限リ申出ヘシ

一阿片製造人有之地方ハ同規則第十二條ニ據リ免許鑑札願出サシムヘシ

○製藥免許手續

明治九年五月八日  
內務省乙第五拾四號府縣へ達

製練藥品ノ儀ハ本邦ニ於テモ往々舶來品ニ勝レル良品モ有之處只管輸入品ヲ安信シ概シ  
テ國產ヲ卑ムノ風ニ流レ價廉藥ノ輸入日ヲ逐テ増加シ其損害不尠ニ付自今製造試驗ノ上  
其良否ヲ鑑定シ免許鑑札相渡スヘシ候條醫藥用ニ職用ヲ問ハス藥品製煉致シ候者ハ其製  
造品相係左ノ箇條書ニ從ヒ願出許可ノ上販賣致シ候條可取計此旨相達候事

但阿片製造人ノ儀ハ詮議ノ次第有之候條當分地方限リ聞届置昨八年當省乙第百五拾六  
號達ニ照準シ可取計事

一製藥人ハ屬籍住所姓名等詳記シタル願書ニ通テ作り其製品ヲ添へ管廳へ出サシメ管  
廳ハ之ニ添書シテ內務省ニ出スヘシ

一製品ハ各地ノ便宜ニ就キ最密司藥場ニ送致シ置キ其譯添書ニ追申スヘシ  
同年乙第百  
三十四號書  
達ヲ以テ送致シ下(試驗ヲ受  
ケ)テ(置キ)ニ改メ但書ヲ加フ

但司藥場ニ於テハ試驗ノ上直チニ本省ニ差出シ別ニ該管廳ニ通知セサルモノトス  
一試驗ノ上良品ナルモノハ免許鑑札ヲ交附シ若シ其製造十全ナラサルモノハ本人ノ志  
願ニヨリ司藥場ニ於テ製煉ノ方法傳示スヘシ

一製藥許可ヲ得タルモノハ官許ノ文字ヲ冒シタル商標ニ藥名及ヒ其住所姓名ヲ記シ每  
器ニ貼シテ販賣スヘシ

(衛生門) (製藥免許手續)

八八三



但藥名ハ國字洋文兩様共記載スルハ勝手タルヘト雖モ洋文ノミヲ書スヘカラス  
必ス普通ノ譯名或ハ譯名無之モノハ假名ニテ原名ヲ記スヘシ  
一鑑札雛形(略之)

○勸業事務上製造ノ藥用阿片ノ備ニ付三重縣伺 十六年七月十二日

明治十一年八月第廿一號公布藥用阿片賣買並製造規則頒行相成候處縣廳又ハ郡役所等  
ノ勸業事務上其栽培場或ハ試驗場ノ類ノ箇所ニ於テ阿片製造ノ爲メ縣廳ヲ培養シ且  
用阿片ヲ製造セントスルキハ該規則第十二條ノ例ニ比準シ其旨ヲ詳記シ縣廳勸業事務  
ニ關スル分ハ御省ヘ御届及ヒ郡役所勸業事務ノ分縣廳ニ爲届出候ニ止リ御省ノ免許  
札ヲ受ケルニ及ハサル儀ト心得可然哉尤其製造ノ阿片取扱方ハ該規則第二條ニ照シ御  
省ヘ御置上相願候ハ勿論ノ事ト存候處其製造稟准ノ手續官衙勸業事務ニ關スル分ハ該  
規則中明文無之ニ付如何取計可然哉  
指令 〔農商務〕 十六年八月十七日  
何之通但郡役所ノ分ハ内務省ヘ届出ツヘキ事

### 土木門

○國道ノ等級ヲ廢シ其幅員ヲ定ム(十八年一月六日 第一號布達)  
今般國道ノ等級ヲ廢シ其幅員ハ道敷四門以上並木敷濶拔敷ヲ合セテ三間以上總テ七間ヨリ  
狭少ナラサルモノトス

但國道線路ハ内務卿ヨリ告示スヘシ

○道路等級ヲ更定ス(九年六月第六)

明治六年八月大藏省ヨリ相達候道路ノ等級ヲ廢シ更ニ別紙ノ通相定候條右分類等級各管内  
限詳細取調内務省ヘ可伺出此旨相達候事

但費用ノ儀ハ追テ一般布告候迄從前ノ通相心得ヘシ

國道

(等級ハ前令ニ依リ除ク)

縣道

- 一等 各縣ヲ接續シ及各鎮臺ヨリ各分營ニ達スルモノ
- 二等 各府縣本廳ヨリ其支廳ニ達スルモノ
- 三等 著名ノ區ヨリ都府ニ達シ或ハ其區ニ往還スヘキ便宜ノ開港等ニ達スルモノ

里道

- 一等 彼此ノ數區ヲ貫通シ或ハ甲區ヨリ乙區ニ達スルモノ
  - 二等 用水堤防牧畜坑山製造所等ノタメ該區人民ノ協議ニ依テ別段ニ設ケルモノ
  - 三等 神社佛閣及田畑耕耘ノ爲ニ設ケルモノ
- 右ノ内一道ニシテ各種ヲ兼ルモノハ其類ノ重キモノニ從テ國道並縣道ノ道幅其土地ノ承

(土木門) (國道ノ等級ヲ廢シ其幅員ヲ定ム)



況ニ據テ各地名殊ナルモノナレハ今遽ニ之ヲ一定シ實地ニ施行スヘカラスト雖ハ豫メ一般ノ法則ナキ時ハ道路ヨリ生スル百般ノ事件其準據ヲ失フノ患アリ仍テ左ノ定テ以テ一般ノ法則ト爲シ且將來新設スル所ノ道路ハ其土地ノ便宜ニヨリ此道幅ヲ保タシムヘシ國道（幅員ハ前令ニ依リ除ク）  
 縣道 道幅四間乃至五間  
 里道ニ至テハ要スルニ該區ノ利便ヲ達スルニ在テ其關係スル所隨テ小ナレハ必ス之ヲ一定スルヲ要セス  
 橋梁ハ即チ路線ヲ互續スルモノナルヲ以テ道路ノ種類ニ隨テ至當トス然レモ其幅ノ如キハ必スモ道幅ニ隨テ要セス

○道路表（十八年二月二十四日）

（内務省第六號告示）

本年一月太政官第一號ヲ以テ國道之備布達相成候ニ付該線路別表之通相定候條此旨告示候事

國道表 凡例

一路線中前號路線ト相通用スル者（例ヘハ第二號東京ヨリ大坂港 東京ヨリ横濱港）ト同様ナル如キ類ハ之ヲ畧シ其番號ヲ記ス  
 一路線甲ヨリ乙ニ達スル中間ニ位スル府縣及鎮臺等（例ヘハ第二號東京ヨリ大坂港 中靜岡 靜岡縣廳大坂ハ大坂府廳及大坂鎮臺所在地ノ如キ）ハ其包括シタル路線ニ讓リ別ニ

之ヲ標出セス○各府各鎮臺ヲ拘聯スルモノモ之ニ準ス

國道表（地名ノ下右書スルモノハ管轄名左書ス）

- 壹號 東京ヨリ横濱ニ達スル路線  
 日本橋 東京府 品川 川崎 神奈川縣 神奈川 横濱
- 貳號 同 大坂濱ニ達スル路線  
 日本橋 壹號 神奈川 武藏 保土ヶ谷 戶塚相模 藤澤 平塚 大磯 小田原 箱根 三島 伊豆 沼津駿河 原 吉原 蒲原 由井 興津 江尻 靜岡 丸子 岡部 藤枝 島田 金谷遠江 日坂 掛川 袋井 見付 濱松 舞坂 新居 白須賀 二川 三河 豐橋 御油 赤坂 藤川 岡崎 知立 鳴海尾張 熱田 西福田 前ヶ須 桑名 伊勢 四日市 石藥師 庄野 龜山 關 坂下 土山 滋賀縣 水口 石部 草津 大津 三條大橋 京都府 淀 牧方 大坂府 守口 大坂 攝津
- 三號 同 神戸港ニ達スル路線  
 日本橋 二號 京都 山縣 山崎 芥川 大坂府 道祖本 瀬川 西宮兵庫縣 御影 神戸
- 四號 同 長崎港ニ達スル路線  
 日本橋 三號 兵庫縣 明石 播磨 加古川 御着 姫路 正條 片島 東有年 三ツ石 備前 西片上 香登本 藤井 岡山 眞金備中 川邊 矢掛 上出部 高屋 神部

（土木門） （國道表）



廣島縣 今津 尾道 三原 本郷安藝 四日市 海田 廣島 廿日市 玖波 岩國山口縣  
 備後 柱野 玖珂 今市 花岡 徳山 福川 富海 宮市 小郡 山中長門 船木 厚狹  
 小月 豊浦 赤間關 大里福前縣 小倉 黒崎筑前 木屋瀬 飯塚 内野 山家 原田  
 田代肥前縣 藤木 中原 神崎 境原 佐賀 牛津 小田 北方 柄崎 嬉野 彼杵長  
 崎縣 大村 永昌 矢上 長崎

○五號 同 新潟港ニ達スル路線  
 日本橋東京府 下板橋 蕨崎玉縣 浦和 大宮 上尾 桶川 鴻巣 熊谷 深谷 本庄  
 新町群馬縣 倉ヶ野 高崎 板鼻 安中 松井田 坂本 輕井澤長野縣 香掛 追分  
 小諸 田中 上田 坂木 戸倉 屋代 篠井 丹波嶋 長野 新町 牟禮 大古間 柏  
 原 野尻 關川新潟縣 關山 新井 高田 直江津 黒井 瀧町 柿崎 鉢崎 青海川  
 柏崎 荒濱 椎谷 石地 出雲崎 寺泊 彌彦 竹ノ町 赤塚内野 新潟

○六號 同 函館港ニ達スル路線  
 日本橋東京府 千住 草加 埼玉縣 越谷 粕壁 杉戸 幸手 栗橋 中田茨城縣 古河  
 野木栃木縣 間々田 小山 羽川 小金井 石橋 雀宮 宇都宮 十八年內務省第二十  
 除クテ 上阿久津 氏家十八年內務省第十一號告示ヲ 岡 矢板 三島 東小屋 高久  
 小島 白川福島縣 小田川 矢吹 笠石岩代 須賀川 郡山 山ノ井 本宮 二本松  
 松川 清水町 福島 瀨上 桑折 藤田 越河宮城縣 齊川 白石 宮 金ヶ瀬陸前

大河原 船道 槻木 岩沼 増田 中田 長町 仙臺 七北田 富谷 吉岡 三本木  
 古川 荒谷 高清水 筑館 宮野 澤邊 金成 有壁 一ノ關岩手縣 前澤 水澤 金  
 ノ崎 黒澤尻 花巻 石鳥谷 郡山 盛岡 澁民 沼宮内 小繋 陸奥 一ノ戸 福岡  
 金田一 三ノ戸 青森縣 淺水 五ノ戸 傳法寺 藤島 三本木 七ノ戸 坪野邊地  
 小港 野内 青森 函館函館縣

○七號 同 神戸港ニ達スル別路線  
 日本橋 五號 追分長野縣 小田井 岩村田 鹽名田 八幡 望月 蘆田 長久保 和  
 田 下諏訪 糠尻 洗馬 本山 賢川 奈良井 葦原 宮越 福島 上松 須原 野尻  
 三留野 妻籠 馬籠 落合岐阜縣 中津川 大井 大嶽 細久手 御嵩 伏見 太田  
 嶋沼 加納 河渡 美江寺 赤坂 垂井 關ヶ原 今津 柏原滋賀縣 醒ヶ井 番場  
 鳥居本 高宮 愛知川 武佐 守山 草津 間大路 井村十九年內務省第二十號告 二號  
 京都京都府 三號 神戸兵庫縣

○八號 東京ヨリ新潟ニ達スル別路線  
 日本橋 五號十八年內務省第五十九號告示ヲ 高崎群馬縣 金古 澁川 柵下 眞  
 庭 上牧 湯楡曾 清水新潟縣 長崎 六日町 浦佐 堀ノ内 川口 妙見 長岡 今  
 町 三條 新飯田 白根 大野 新潟

○九號 東京ヨリ伊勢宗廟ニ達スル路線  
 (土木門) (國道表)



日本橋 二號 四日市間退分三重縣 神戶 白子 上野 津 雲津 松坂 本明星 山田 宇治

○十號 東京ヨリ名古屋鐵道ニ達スル路線  
日本橋 二號 熱田愛知縣 名古屋

○十一號 東京ヨリ熊本鐵道ニ達スル路線  
日本橋 四號 田代佐賀縣 久留米福岡縣 十九年內務省告示第十四號  
山鹿熊本縣 植木十九年內務省告示第十一號 熊本以下ヲ改正ス 福島 兼松

○十二號 東京ヨリ群馬縣ニ達スル路線  
日本橋 五號 深谷間東方村埼玉縣 中瀬 平塚群馬縣 境 伊勢崎 駒形 前橋

○十三號 東京ヨリ千葉縣ニ達スル路線  
日本橋東京府 市川千葉縣 八幡 船橋 馬加 檢見川 千葉

○十四號 東京ヨリ茨城縣ニ達スル路線  
日本橋 六號 千住東京府 新宿 松戸千葉縣 小金 我孫子 取手茨城縣 藤代 牛久常陸 荒井沖 中村 土浦 中貫 下稻吉 石岡 竹原 片倉 小幡 長岡 水戸

○十五號 東京ヨリ宮城縣ニ達スル別路線  
日本橋 六號 千住東京府 十四號 水戸茨城縣 枝川 田澤 佐和 石神外宿 大和田 大沼 下孫 介川 田尻 小木津 川尻 伊師 高萩 足洗 下櫻井 神岡 關田

○十六號 東京ヨリ山梨縣ニ達スル路線  
日本橋東京府 内藤新宿 布田神奈川縣 府中 日野 八王寺 小佛 小原相模 與瀬 吉野 關野 上野原山梨縣 鶴川 野田尻 犬目 鳥澤 猿橋 大橋 花咲 初狩 笹子 駒飼 勝沼 栗原 石和 甲府

○十七號 東京ヨリ岐阜縣ニ達スル路線  
日本橋 二號 熱田愛知縣 十號 名古屋愛知縣 清洲 一ノ宮 笠松岐阜縣 岐阜

○十八號 東京ヨリ岐阜縣ニ達スル路線  
日本橋 二號 熱田愛知縣 十七號 清洲 一ノ宮 間四ツ屋愛知縣 稻葉 萩原 起 墨股岐阜縣 大垣 垂井間 七號 關ヶ原岐阜縣 藤川滋賀縣 春照 伊部 郡上 木木 柳ヶ瀬 椿坂 中河内 板取福井縣 今庄 湯尾 鯖波 脇本 四郎丸 武生 鯖江 淺

○十九號 東京ヨリ石川縣ニ達スル路線  
日本橋 二號 熱田愛知縣 十七號 福井 越前 舟橋 丸岡 笹岡 熊坂 牛谷 大聖寺石川縣 作見 動稿 月津 小松 寺井 粟生 水島 下柏野 松任 野々市 金

○二十號 東京ヨリ石川縣ニ達スル路線  
日本橋 二號 熱田愛知縣 十七號 福井 越前 舟橋 丸岡 笹岡 熊坂 牛谷 大聖寺石川縣 作見 動稿 月津 小松 寺井 粟生 水島 下柏野 松任 野々市 金

○二十一號 東京ヨリ石川縣ニ達スル路線  
日本橋 二號 熱田愛知縣 十七號 福井 越前 舟橋 丸岡 笹岡 熊坂 牛谷 大聖寺石川縣 作見 動稿 月津 小松 寺井 粟生 水島 下柏野 松任 野々市 金

○二十二號 東京ヨリ石川縣ニ達スル路線  
日本橋 二號 熱田愛知縣 十七號 福井 越前 舟橋 丸岡 笹岡 熊坂 牛谷 大聖寺石川縣 作見 動稿 月津 小松 寺井 粟生 水島 下柏野 松任 野々市 金

○二十三號 東京ヨリ石川縣ニ達スル路線  
日本橋 二號 熱田愛知縣 十七號 福井 越前 舟橋 丸岡 笹岡 熊坂 牛谷 大聖寺石川縣 作見 動稿 月津 小松 寺井 粟生 水島 下柏野 松任 野々市 金

○二十四號 東京ヨリ石川縣ニ達スル路線  
日本橋 二號 熱田愛知縣 十七號 福井 越前 舟橋 丸岡 笹岡 熊坂 牛谷 大聖寺石川縣 作見 動稿 月津 小松 寺井 粟生 水島 下柏野 松任 野々市 金

○二十五號 東京ヨリ石川縣ニ達スル路線  
日本橋 二號 熱田愛知縣 十七號 福井 越前 舟橋 丸岡 笹岡 熊坂 牛谷 大聖寺石川縣 作見 動稿 月津 小松 寺井 粟生 水島 下柏野 松任 野々市 金

○二十六號 東京ヨリ石川縣ニ達スル路線  
日本橋 二號 熱田愛知縣 十七號 福井 越前 舟橋 丸岡 笹岡 熊坂 牛谷 大聖寺石川縣 作見 動稿 月津 小松 寺井 粟生 水島 下柏野 松任 野々市 金

○二十七號 東京ヨリ石川縣ニ達スル路線  
日本橋 二號 熱田愛知縣 十七號 福井 越前 舟橋 丸岡 笹岡 熊坂 牛谷 大聖寺石川縣 作見 動稿 月津 小松 寺井 粟生 水島 下柏野 松任 野々市 金

(土木門) (國道表)



- 二十號 東京ヨリ富山縣ニ達スル路線  
日本橋 二號 熱田 尾張縣 十七號十八 金澤 石川縣 南森下 津幡 竹橋 今石動山  
越中 四十萬 高岡 大門新町 小杉 富山
- 二十一號甲 東京ヨリ富山縣ニ達スル別路線  
日本橋 五號 高田 新潟縣 大豆中屋敷 長濱 有間川 名立 能生 梶屋敷 糸魚川  
青海 歌 外波 市振 泊町 越中 入膳 三日市 魚津 滑川 氷橋 新庄 富山
- 二十一號乙 東京ヨリ富山縣ニ達スル別路線  
高田 新潟縣 廿一號甲 泊町 越中 舟見 浦山 三日市 廿一號甲 富山 越中
- 二十二號 東京ヨリ鳥取縣ニ達スル路線  
日本橋 四號 姫路間 播磨縣 林田 山崎 落折 因幡縣 若松 安井ノ鳥取 十九年內務省第三十九號告示  
改正
- 二十三號 東京ヨリ鳥取縣ニ達スル別路線  
日本橋 二號 京都 京都府 檜原 龜岡 丹波 八木 園部 須知 檜山 下大久保 菟原 生野 福知山 立原 額田 矢名瀬 但馬縣 和田山 養父市場 八鹿 關宮 村岡 湯村 岩井 因幡縣 鳥取
- 二十四號 東京ヨリ島根縣ニ達スル路線

- 日本橋 四號 姫路間 兵庫縣 廿二號 姫路間 追分 播磨縣 東荷 千本 三日月 佐用  
全上告示ヲ以テ姫路正線 土居 岡山縣 川崎 勝間田 津山 坪井下 久世 高田 美  
則ヨリ(佐用)迄正ス
- 甘新庄 坂井原 鳥取縣 根雨 江尾 溝口 米子 安來 島根縣 出雲郷 松江
- 二十五號 東京ヨリ島根縣ニ達スル別路線  
日本橋 二號 京都 京都府 廿三號 鳥取 因幡縣 松原 寶木 曹谷 泊伯耆 長瀬  
由良 赤崎 下市 御來屋 淀江 米子 二十四號 松江 島根縣
- 二十六號 大阪府 鎮西トチ拘聯スル路線  
大阪 大阪府 尼崎 兵庫縣 西ノ宮 三號 廣島 鎮西 安藝縣
- 二十七號 東京ヨリ山口縣ニ達スル路線  
日本橋 四號 宮市 山口縣 山口
- 二十八號 東京ヨリ山口縣ニ達スル別路線  
日本橋 二號 京都 京都府 廿三號 松江 島根縣 湯町 穴道 直江 今市 久村 口  
田備 波根東 石見 太田 大森 西田 黒松 郷田 濱田 三隅 益田 横田 青原  
津和野 徳佐 山口縣 地福 鷹巢 篠目 山口
- 二十九號 東京ヨリ和歌山縣ニ達スル路線  
日本橋 二號 大坂 大阪府 堺和泉 岸和田 信達 山中 山口 和歌山縣 和歌山
- 三十號 東京ヨリ徳島縣ニ達スル路線

(土木門) (國道表)



日本橋 四號 明石 兵庫縣 岩屋淡路 假屋 志筑 福良 岡崎 德島縣 徳嶋

○三十一號 東京ヨリ愛媛縣ニ達スル路線  
 日本橋 四號 岡山 岡山縣 庭瀬備中 倉敷 天城備前 下津井 丸龜 愛媛縣 上高瀬  
 寺家 和田濱 川ノ江伊豫 豊田 上野 岸下 大町 小松 川上 久米 松山

○三十二號 東京ヨリ高知縣ニ達スル路線  
 日本橋 四號 岡山 岡山縣 卅一號 川ノ江 愛媛縣 上分 馬立 立川 高知縣 川口  
 戸出野 植野 布師田 高知

○三十三號 東京ヨリ高知縣ニ達スル別路線  
 日本橋 四號 明石 兵庫縣 三十號 徳島 徳島縣 立江 桑野 下福井 木岐 日和佐  
 中村 淺川 高園 矢喰 甲浦 高知縣 野根 佐喜濱 浮津 喜良川 奈米利 安田  
 安藝 和食 赤岡 稻生 高知

○三十四號 東京ヨリ福岡縣ニ達スル路線  
 日本橋 四號 小倉 福岡縣 若松 福岡縣 葦原 赤間 古賀 香柳 箱崎 博多 福岡

○三十五號 東京ヨリ大分縣ニ達スル路線  
 日本橋 四號 小倉 福岡縣 刈田 行事 大橋 推田 八屋 中津 大分縣 四日市 南  
 宇佐 立石 豐後 野原 豊岡 別府 大分

○三十六號 東京ヨリ宮崎縣ニ達スル路線  
 日本橋 四號 延岡 富高 美々津 都濃 高鍋 廣瀬 宮崎

日本橋 四號 小倉 福岡縣 卅五號 大分 大分縣 中戸次 大寒 市場 小野市 重岡

○三十七號 東京ヨリ鹿兒島縣ニ達スル路線  
 日本橋 四號 山家 福岡縣 十一號 熊本 熊本縣 川尻 宇土 松橋 吉本 八代 日  
 奈久 濱浦 佐敷 永俣 米ノ津 鹿兒島縣 出水 高尾野 阿久根 西方 高城  
 向田 串木野 市來 伊集院 鹿兒島

○三十八號 東京ヨリ鹿兒島縣ニ達スル別路線  
 日本橋 四號 小倉 福岡縣 卅六號 宮崎 宮崎縣 田野 山ノ口 都ノ城 通山 鹿兒島縣  
 大隅 福山 濱ノ市 加治木 重富 鹿兒嶋 薩摩

○三十九號 東京ヨリ山形縣ニ達スル路線  
 日本橋 六號 福島 福島縣 堰場 大滝 大平 荏安 山形縣 米澤 糠目 赤湯 川廻  
 小石澤 中山 川口 上山 山形

○四十號 東京ヨリ秋田縣ニ達スル路線  
 日本橋 六號 福島 福島縣 卅九號 山形 山形縣 天童 六田 楯岡 土生田 尾花澤  
 蘆澤 船形 新庄 金山 及位 上院内 秋田縣 院内 湯澤 横手 金澤中野 金澤  
 本町 六郷 大曲 花館 神宮寺 北檜岡 刈和野 泥川 境 和田 巨嶋 秋田

○四十一號 東京ヨリ青森縣ニ達スル別路線



日本橋 六號 福島福島縣 四十號 秋田秋田縣 土崎 大久保 虻川 大川 一日市  
鹿渡 森岡 豊岡 金田 檜山 鶴形 荷上場 小繫 綴子 大館 白澤 碓ヶ關青森縣

○四十二號 東京ヨリ札幌縣ニ達スル路線  
日本橋 六號 函館函館縣 七飯 森 室蘭札幌縣 幌別 白老 苫小牧 千歳 島松  
札幌 石狩

○四十三號 東京ヨリ根室縣ニ達スル路線  
日本橋 四號 函館函館縣 四十二號 苫小牧札幌縣 勇拂 佐瑠太日高 賀張 下々  
方 三石 浦川 様似 幌泉 猿留 廣尾 十勝 歷舟 大津 尺別根室縣 白糠 釧路

○四十四號 東京ヨリ沖繩縣ニ達スル路線  
日本橋 四號 山家福岡縣 三十七號 鹿兒島鹿兒島縣 那覇沖縄縣  
○四十五號 東京ヨリ横須賀鎮守府ニ達スル路線  
日本橋 一號 横濱神奈川縣 金澤 横須賀 相模

○四十六號 東京ヨリ吳鎮守府ニ達スル路線  
日本橋 四號 海田廣島縣 吳  
○四十七號 東京ヨリ佐世保鎮守府ニ達スル路線

日本橋 四號 柄崎佐賀縣 宮野 有田 早岐 長崎縣 佐世保  
○四十八號 佐世保鎮守府ト熊本鎮台ト拘聯スル路線  
佐世保長崎縣 四十七號 佐賀佐賀縣 櫻津福岡縣 柳川 瀬高 原町 南關熊本縣  
肥猪 山鹿 十一號 熊本

○國縣道ノ新設又ハ變換ニ係ルモノノ築造保存方法取調上申方(十九年八月五日內務省訓令第十三號北海  
道廳府縣(沖繩縣)ヲ除ク)  
國縣道ノ新設又ハ變換ニ係ルモノハ自今左ニ掲ケル所ノ標準ニ從ヒ其築造保存方法等取調  
差出ス可シ

但在來ノ道路ト雖モ可成此標準ニ據リ漸次改良ヲ加フル儘ト心得ヘシ

第一章 築造計畫

- 第一條 國道縣道ヲ新築若シハ改築スルハ左ノ圖面及ヒ書類ヲ調製スヘシ
  - 一 實測平面圖 縮尺六千
  - 二 實測縱斷面圖 縮尺長六千分一 同 縮尺高二百分一
  - 三 實測橫斷面圖 縮尺適宜
  - 四 橋梁隧道暗渠等ノ圖 縮尺適宜

(土木門) (國縣道ノ新設又ハ變換ニ係ルモノノ築造保存方法取調方上申)



五 堀削及盛土土坪計算書

六 一位代價表

七 工費計算書

八 計畫說明書

第二條 實測平面圖ニハ國界、郡界、村界、地名、字、宿驛、市街、村落、人家、山脈、丘陵、水流、沼澤、森林、原野、荒蕪地、耕地、橋梁、堤塘、等其外地形ヲ顯ハスニ必要ナルモノハ之ヲ詳記スヘシ又高六尺毎ニ計畫路線近傍地ノ高低線ヲ記入シ計畫線路ハ赤線ヲ以テ記シ其丁杭并直線ノ長及方向、曲線ノ長及半徑等ヲ詳記スヘシ

第三條 實測縱断面圖ニハ計畫路線中心地面ノ高低、計畫路線ノ高低、計畫路線ノ丁杭及水平距離、各高低線間ノ水平距離、計畫路線ノ勾配、堀削及盛土部分ノ高低及長、水平路線及阪路ノ水平距離、隧道及橋梁ノ長及高、其他國郡、村界、市街、村落、地名、字、水流、溝渠等ヲ參照ニ必要ナルモノヲ詳記スヘシ

第四條 實測橫断面圖ハ計畫路線長三丁毎ニ之ヲ製シ其他高低甚キ箇所ハ其橫断面圖ヲ製シ土坪計算ノ用ニ供ス可シ

第五條 橋梁ハ平面圖(橋梁前後河川ノ景狀ヲ記スヘシ)側面圖其他構造ヲ顯ハスニ必要ナル圖面及橋梁ヲ架設スヘキ箇所ノ河川橫断面圖ヲ調製スヘシ

第六條 隧道暗渠溝渠等ハ其構造ヲ顯ハスニ必要ナル圖面ヲ調製スヘシ

第七條 堀削及盛土土坪計算書ニハ橫断面ノ番號、幅、高、平積、距離、立積ヲ記シ之ヲ表ニ製シ其計算法ヲ明瞭ニスヘシ

第八條 一位代價表ハ堀削、盛土、溝渠、石垣等其他各種共各一位トナスヘキモノ(假令ハ堀削盛土ハ立積一坪ヲ一位トナシ野面石垣ハ平積一坪ヲ一位トナスノ類ヲ選ミ其一位ニ付テ必要ナル築品人夫等ノ員數及代價賃金ヲ算シ一位ノ代價ヲ記スヘシ

第九條 工費計算書ニハ各種工事共各部分毎ニ其一位ヲ以テ算出シタル總數ニ一位ノ代價ヲ乘シ其計ヲ記スヘシ但橋梁、隧道、暗渠、其他諸雜費ハ別ニ部分ケテ爲シテ其工費ノ計算内課ヲ記スヘシ

第十條 計畫說明書ニハ新道開設若シハ路線變更ノ必要アル理由、路線撰定ニ付テ地形、氣候、土質等ヲ酌量シタル理由并築造費及保存費ノ多寡運搬ノ便否ヲ比較シタル說明其他橋梁隧道等ニ付テ其構造ノ說明及強力ノ計算并其構造法選定ノ理由等ヲ詳記シ及橋梁溝渠暗渠、等ノ計算ニハ水流最高水ノ面積及流量ヲ記スヘシ

第二章 路面ノ築造

第十一條 道路ノ表面ハ削石ヲ以テ築造スヘシ其馬車ノ通行頻繁ナク搭載荷物重量ナクサル者ハ砂利ヲ以テ築造スルヲ得但其築造法ハ概テ削石道路ト同一ナル可シ

第十二條 削石ノ厚ハ道路ノ中央ニ於テ五寸以上トシ夫ヨリ兩端ニ向ヒ漸次減却三寸以上ト爲スヘシ

(土木門)

(國縣道ノ新設又ハ變換ニ係ルモノノ築造保存方法及調方上申)



第十三條 橫斷路面ノ形狀ハ楕圓形トス其勾配ハ平三十分一トスヘシ

第十四條 下水ノ深サト其底敷ノ幅ハ各一尺五寸サ下ルヘカラス

第十五條 車道中央ノ高サハ下水ノ最高水面ヨリ一尺以上タルヘシ

第十六條 削石敷設ノ方法ハ先ツローラル或ハ蝸木コテ地盤ヲ堅ムルノ後削石一層ヲ敷キ

其上ニ削石ト能ク密着スヘキ石屑又ハ砂利ヲ散布シ之ヲ堅メ然ル後再ヒ削石ヲ敷キ前同

様ノ石屑若クハ砂利ヲ其上ニ散布シテ更ラローラル或ハ蝸木コテ堅メ法式ノ如ク仕上

ルモノトス

第十七條 削石ハ能ク寒コ堪ヘ且硬キモノニシテ混合物ナク多角ナルモノヲ撰用スヘシ

第十八條 削石ノ寸法ハ凡ソ一寸五分ヨリ大ナラサルヘク八分ヨリ小ナラサルヘシ

第十九條 散布スヘキ石屑若クハ砂利ノ割合ハ削石立積ノ三十分一ヨリ多カラサルヘシ

第二十條 削石敷設ノ後ハ密着固結ニ至ル迄間斷ナク修治ヲ加フヘシ

第三章 勾配及屈曲

第二十一條 道路ノ勾配ハ成ル可ク左ノ割合ヲ超ヘサラシムヘシ

第一項 國道 勾配三十分一 即長延壹間ニ付二寸

第二項 縣道勾配二十五分一 即長延壹間ニ付二寸四分

第二十二條 曲線ノ半徑ハ己ムヲ得スシテ減縮スル場合ト雖モ路線中心ノ半徑六間サ下ル

可カラス

第二十三條 曲線ノ半徑拾間以下ノ者ト阪路ノ勾配四十分一以上ノ者トサ同所ニ兩存セシ

ムヘカラス

第二十四條 曲線ノ半徑二十間以下ノ者ヲ背向直接セシメテ必ズ兩曲線ノ間ニ一ノ直線ヲ

置クヘシ

第四章 堀削及盛土

第二十五條 堀削若クハ盛土ノ傾斜面ハ植草柵工若クハ野面石垣等ヲ設ケテ之ヲ破損豫防

ヲ爲スヘシ

第二十六條 堀削傾斜面ノ勾配ハ其地質ニ從テ適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第二十七條 盛土傾斜面ノ勾配ハ一割二分ヨリ下ルヘカラス

第二十八條 堀削及盛土ノ傾斜面ニ勾配ヲ減少シ要スルカ若クハ其地質善良ナラサルハ

基礎石垣ヲ築造スヘシ

第五章 橋梁階渠及隧道

第二十九條 橋梁ノ構造ハ橋面平積一坪ニ付四百貫目ノ重量ヲ橋上滿面ニ積載シ得ルモノ

トナスヘシ

第三十條 長五間以下ノ橋梁ハ其幅ヲ(欄干ノ中心ヨリ中心ニ至ル)道路ノ幅員ト同一ニス

ヘシ長五間以上ノ橋梁ハ其幅ヲ(左右欄干内法)三間以上トナスヘシ

第三十一條 道路ヲ橫斷スル小流ニシテ架橋ヲ要セサル者ハ必ズ階渠ヲ設ケテ之ヲ通スヘシ

(土木門)

(國縣道ノ新設又ハ變換ニ係ルモノノ築造保存方法取調方上申)



第三十二條 隧道ノ幅員ハ濕拔ヲ除キ幅三間以上タルヘシ

第三十三條 隧道内ノ路線ハ必ス適宜ノ勾配ヲ與ヘ下水ノ流通ヲ充分ナラシムヘシ

第三十四條 隧道内ノ高サハ路面ヨリ十五尺以上タルヘシ

第三十五條 隧道暗黒コシテ危險ナル者ハ必ス返照燈ヲ點スヘシ

第六章 並木

第三十六條 並木ハ地方ノ形狀ニ依リ主トシテ雪ヲ防キ日光ヲ覆ヒ若クハ風ヲ防クノ目的

ヲ以テ植付クヘシ其種類ハ成長速カコシテ且行人若クハ道路ニ障害ナキ者ヲ撰用スヘシ

第三十七條 並木線ハ必ス路線ニ並行ナラシムヘシ

第三十八條 並木ハ下水ノ上線ヨリ二尺以上ノ距離ニ於テ植付クヘシ

第七章 保存及修繕

第三十九條 道路ハ平生注意シテ破損ヲ豫防シ若シ小破アルトキハ速ニ修繕ヲ加ヘ大破ニ

至ラサラシムヘシ

第四十條 割石道路ノ破損ハ路面ノ泥濘及ヒ粉細ノ土砂ヨリ生スルカ故ニ道路ヲ保存スル

ニハ主トシテ之ヲ掃除スヘシ

第四十一條 路面ニ少シク凹所ヲ生シタル時ハ直テニ其凹所アル部分ヲ少シク掘起シ然ル

後割石ト石屑若クハ軟質ナル砂利トヲ適意ニ散布シローラル或ハ蝸木ヲ以テ之ヲ堅メ且

其修繕ノ部分ト修繕ヲ加ヘサル部分トヲ結合シ易キヲ務ムヘシ

第四十二條 前條ノ修繕ハ一方ヨリ順次ニ着手セズテ必ス凹所ノ最モ甚シキ部分ヨリ先

ニスヘシ

第四十三條 路面ノ一方ニ修繕ヲ加フル時ハ馬車ハ好テ他ノ一方ヲ通行スヘキカ故ニ之レ

カ爲ノ其一方ノ破損ヲ來スノ患アリ又一時ニ路面ノ全幅ヲ修繕スル時ハ通行ノ馬車多ク

ハ同轍ニ由ルヘキカ故ニ其修繕シタル部分ノ未ダ固結セサル前ニ於テ破損ヲ生スルノ患

アリ故ニ一時ニ廣キ面積ノ修繕ニ着手スヘカラス且馬車ノ通行偏倚セサル様修繕スヘキ

箇所ヲ區分スヘシ

第四十四條 修繕ハ路面ノ濕氣ヲ含ミタル時ニ於テ施工シ若シ降雨ナキ時ハ適宜水ヲ注テ

施行スヘシ

第四十五條 保存及修繕ヲシテ完全ナラシムルニ第一管守人ヲ置キ平素技術者ノ指揮ヲ

受ケ之レカ保存ニ從事セシム可シ第二保存及修繕ニ使用スヘキ器具築品人夫等ヲ常ニ各

所ニ配置シ使用ニ便ナラシムヘシ

第四十六條 砂利道路修繕ノ方法ハ概ネ割石道路ト異ナリナシ但其保存ニハ一層注意ヲ

加フヘシ

○道路ノ敷地貸渡ヲ禁ス(八年十二月十七日

從來ノ因襲ヲ以是迄道路ノ敷地ヲ貸渡住居差許置候分モ有之候處自今往來障害ノ有無ニ拘

(土木門) (道路ノ敷地貸渡ヲ禁ス)



ハラス新ヲ貸渡候儀難相成候條爲心得此旨相違候事

○道路河川變換ニ付民有地ヲ新道新川敷ト爲スヤ舊道舊河敷ヲ代地トシテ下渡サレム

(九年六月三十日 内務省乙第八十一號府縣へ送)

一般便宜ノ爲メ道路河川ヲ變換スルニ際シ民有地ヲ以テ民有地ヲ新道新川敷ト爲シ舊道舊河敷不用ニ屬シ土功着手者其地ヲ請求スル時ハ右舊道舊河敷ハ新道新川敷ノ代地トシテ悉皆無代價ニテ可下渡此旨相違候事

但官林内ニ在ル舊道舊河敷地ハ此限コアラズ 十六年乙第四十五號 官道ヲ以テ但書追加

○官有ノ川敷溝敷寄洲川沿地等拂下貸下ヲ禁ス

(十八年十二月三日 内務省甲第三十六號府縣へ送)

官有ノ川敷溝敷寄洲川沿地等ハ自今拂下又ハ貸下ヲ爲スコトヲ許サズ從前既ニ貸下ケタルモノハ當期ヲ限リ返地セシム可シ

但物揚場等公益上ニ使用スルモノ及熟田畑ハ貸下クルコトヲ得ルト雖モ治水ニ妨害アルヲ構造ヲ爲シ又ハ樹竹ヲ栽培セシム可ラサル備ト心得ヘシ此旨相違候事

○道路掃除ノ事

(五年十月廿八日 第三百廿五號布告)

近來道路掃除之備多シハ等閑ニ相成甚以不相濟事ニ候條各地方官ニ於テ厚ク注意シ追テ道路之側相立候迄ハ從前掃除請持有之道筋ハ勿論持場無之場所ハ最寄町村へ公平ニ割渡左之條目ノ通掃除可爲致事

第一條 一總テ掃除請持丁場ハ風雨等ノ障リ有無ニ拘ハラズ必ス三ヶ月中一度ツ、掃除可致事

第二條 一風雨ノ後ハ必ス其持場ヲ掃除シ溜水ハ左右溝へ導キ水溜リノ場所相減候條可致事

第三條 一並木根返リ風折雪折等ハ追テ其處ヨリ處分之アルト雖モ不取敢路道妨ナキ様取片付置可申事

第四條 一左右ニ溝渠無之道路ハ可成丈々路ノ兩縁ヲ低下ニシテ雨水ノ別方宜條可致事

第五條 一掃除丁場標杭往々等閑ニ致シ置限向モ有之右ハ必ス其請持丁場境ニ東西又ハ南北何百何十何丁何那何村掃除丁場ト誌シ標杭可相建事

第六條 一路舖往々田畑ニ切添候ヨリ並木根サシテ失シ之カ爲メ根返ニ及ヒ易ク以テ外ノ事ニ候以來決テ右等ノ所業致間敷事

○並木伐採ノ事

(六年五月六日 第四拾六號布告)

(道路掃除ノ事並木伐採ノ事)

右之通堅ク可相守候若シ等閑ニ差置クニ於テハ掛官員巡廻ノ節屹度可申付事



諸道路並脇往還並木ノ儀ハ風雨寒暑ノ節行客ヲ防護スルヲ以テ猥リコ不可伐取候ニ付自今伐木願出候節ハ實況篤ト遂検査田畑ノ障害ニ相成分ハ大藏省へ申立許可ノ上所分可致尤隙碍ニ相成候下枝伐透シ或ハ立枯根倒レ風折等ノ損木有之節ハ村々出願次第遂検査府照限リ伐木差許木品入札拂下ノ上代金同省へ上納致シ跡地苗木植付等ノ儀ハ從前仕來ノ通相心得難決儀モ有之候ハ同省へ可伺出事(六年十一月十日内務省ヲ置キ道路ニ係ル事務ハ同省ニテ管轄セラル)

○道路開設電線路變換ノ事(十七年四月廿八日 工部省第四號達)

道路開設修繕ノ爲メ電信ノ線路ヲ變換シ又ハ電信柱ヲ移轉セシメテ請求スル時ハ其向ニ於テ實地ヲ調査シ不得止コ出ルモノハ多少ヲ論セテ轉換可取計候得共其費用ハ都テ請求者ニ於テ支辨可致儀ト可相心得此旨豫テ相達候事

但家屋構造又ハ店頭商業ノ支障等ニテ電信柱ノ移轉ヲ請求スル分ハ此限リコアラヌ

○治水修路並橋梁架設ノ事(十四年十二月 十四日布告)

治水修路ノ儀ハ地方ノ要務ニシテ物産蕃盛庶民殷富ノ基本ニ付府縣管下ニ於テ有志ノ者共自費或ハ會社ヲ結ヒ水行ヲ疏シ險路ヲ開キ橋梁ヲ架スル等諸般運輸ノ便利ヲ興シ候者ハ落成ノ上功費ノ多寡ニ應ジ年限ヲ定メ税金取立方被差許候間地方官ニ於テ此旨相心得右等ノ儀願出候者有之節ハ其地ノ民情ヲ詳察シ利害得失ヲ考ヘ入費税金ノ制限等篤ト取調大藏省

○可申出事

但本文之趣管内無洩可相達事(大藏省ハ内務省ニ換ル)

○橋梁渡船賃額揭示及受取方(明治八年七月二日内務省甲第十六號布達)

諸道橋梁渡船賃ノ儀各種ノ賃額川場ハ勿論賃錢受取所へモ明瞭揭示可致且賃錢受取方ニ付テハ時間ヲ費シ通行人ノ迷認不相成様厚ク注意可爲致此旨布達候事

○川々渡船ノ儀一人タリトモ速ニ出船セシム(明治六年五月七日大藏省第七十五號布達)

諸道川々渡船場ノ儀ハ相當ノ賃錢ヲ請取越立候ニ付譬一人タリモ速ニ可越立ハ當然ニ候處多人數ニ及候迄旅行ヲ留置候弊習有之趣相聞以ノ外ノ儀ニ付以來一人タリモ早々出船候様川場へ揭示可致置事

○道路橋梁渡津等ニ於テ警部巡查區内巡行ノ節賃錢請求ヲ禁ス(明治九年三月五日内務省甲第四號布達)

道路橋梁渡津等ニテ公私ノ別ナシ賃錢請求ノ儀許可致置キ候場所モ有之候處自今警部并巡查持區内巡視之節制服着用ノ者ニ限リ賃錢請求不相成候條此旨布達候事

(土木門) (治水修路並橋梁架設ノ事) (橋梁渡船賃額ノ事)



○人民私費架設ノ橋梁トハ渡津又ハ新道軍隊行進ノ節賃錢請求方ヲ禁ス  
（明治十三年四月號日 內務省乙第十七九府縣へ達）

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津又ハ新道自今軍隊隊伍ヲ組ニ行進之節ハ其賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船願人共ハ無漏可相達候此旨相達候事 同年乙第三十三號省達ヲ以テ渡津ノ下四字ヲ加フ

○人民私費架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等憲兵巡行ノ節賃錢請求方ヲ禁ス  
（明治十四年十二月二十日 內務省乙第六拾貳號府縣へ達）

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開鑿之道路等憲兵巡行ノ節ハ單騎獨歩ト雖モ制服着用之節ニ限リ其賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡津船及開路願人共ハ無洩可相達候此旨相達候事

○人民私費開設ノ橋梁渡津及道路等電信配達人賃錢請求ヲ禁ス  
（明治十五年九月日 內務省乙第六拾六號府縣へ達）

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電信配達人配達ニ配達人タルヲ証スノ時ニ限リ賃錢請求不相成候條免許人共ハ遺漏無ク達シ置ク可シ此旨相達候事

○人民私費架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫印鑑所持ノ

者賃錢請求方ヲ禁ス  
（明治十六年六月十九日 內務省乙第三拾壹號府縣へ達）

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送集配ニ配達人タルヲ証スノ時ニ限リ賃錢請求不相成旨客年三月當省乙第十七八號ヲ以テ相達候處自今郵便局ヨリ左ノ如キ印鑑相渡候條右所持ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラズ賃錢請求不相成旨ト可必得此旨免許人共ハ遺漏ナク達シ置ク可シ此旨相達候事

第 一 號  
何 國  
○何 地 郵 便 局 脚 夫  
何 之 職

○明 治 十 六  
年 月 日  
何 國  
何 地  
郵 便 局

此印ハ各郵便局ヨリ各郵便局へ渡シタル局印

○公園地設置ノ事  
（第六年一月十五日 第十六號布告）

三府ヲ始メ人民輻輳ノ地ニシテ古來ノ勝區名人ノ舊跡等是迄群集遊觀ノ場所（東京ニ於テ草寺東叡山寛永寺境內ノ類京都ニ於テハ八坂滑）從前高外除地ニ屬セル分ハ永ク万人借樂水ノ境內園山ノ類總テ社寺境內餘地或ハ公有地）ノ地下ノ公園ト可被相定メ付府縣ニ於テ右地所ヲ擇ビ其景況巨細取調圖面相添ヘ大藏省へ可伺出事

（土木門） （公園地設置ノ事） （海軍制定） （經度計算方標進） （何指令）



○海軍制定(五年四月廿四日)

(明百三十號布告)

今般海軍省ニ於テ別紙ノ通相定候條其旨可相心得尤海里ハ普通陸里ト混セサル様可致事  
一海里ハ二度六十分ニテ以テ一里ト定ム即陸里十六丁九分七厘五毛ナリ  
一尋ハ曲尺六尺ニテ以テ一尋ト定ム  
但測量圖海底ノ淺深ハ千潮ノ時間尋數ヲ以テ定ムルモノトス  
本項ハ十九年勅令五十一號ニ依テ消滅ス

○經度計算方標準(十九年七月十二日)

(勅令第五十一號)

朕本初子午線經度計算方及標準時ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 一英國グリニッチ天文臺子午線ノ中心ヲ經過スル子午線ヲ以テ經度ノ本初子午線トス
- 一經度ハ本初子午線ヨリ起算シ東西各百八十度ニ至リ東經ヲ正トシ西經ヲ負トス
- 一明治二十一年一月一日ヨリ東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テ本邦一般ノ標準時ト定ム

●渡津橋梁賃錢ノ件群馬縣ヨリ内務省ヘ伺

十九年三月五日

(十九年三月十二日官報)

明治十八年八月八日滋賀縣ヨリ同縣下ニ在ル渡津橋梁ニ於テハ府縣自他ノ差別ナク警部、  
巡査ハ制服着用ノ節及看守押丁ハ四人護送ノ節ニ限リ其四人一同賃錢請求停止致シ度ト  
ノ伺ニ同十九年二月十三日伺ノ通ト御指令相成候儀今般警保局ヨリ巡査有之候ニ付テハ  
本縣ニ於テモ自今同機取計申度就テハ四人賃錢ノ儀ハ暫ク看守押丁ヲ押送スル時ノヨリハ  
限ラズ巡査ノ腹送スル四人モ等シク賃錢請求セシメサル様致度  
指令 十九年三月十日  
前資伺之通

○農商門

○各地方勸業諮問會并勸業委員設置方(明治十六年五月十六日)

(第三十號布達)

各地方ノ便宜ニ從ヒ左ノ條項ニ照準シテ勸業諮問會并勸業委員ヲ設置スルコトヲ得

第一條 諮問會ハ各府縣勸業事務ニ付府知事縣令ノ諮問ニ備フルモノトス

第二條 諮問會員ハ府知事縣令ニ於テ管内農商工事ニ名望アル者ヲ選テ之ニ充ツ其人員并

處務ノ順序等總テ府知事縣令適宜之ヲ定ム可シ

●(栃木縣伺)

- 第一 布達第二條ノ諮問會員ハ農商工事ニ名望アル者ヲ推擧常置シ定期或ハ臨時召集シテ諮問スル儀ト心得可然哉
  - 第二 果シテ前條ノ如ク常置スル者トセハ其定員ヲ立サルヲ得ス然レニ一物産即生糸又ハ製茶ノ件等ニ限リ庶ク營業者ノ意見ヲ問ハント欲スル時ハ常置諮問會員ノ外別ニ召集諮問シ而テ諮問會員ト同一ノ取扱ヲ爲シ不苦候哉
  - 第三 該會員ハ縣會議員及戶長奉職ノ者ヲ推充不苦候哉
  - 第四 諮問會ノ會長ハ縣令又ハ書記官ノ内ニテ之ニ當ル可キ歟或ハ勸業課長等適當ノ屬官ヲ以テ之ニ充テ可然哉後略
  - 第五 諮問會員ノ旅費口當ヲ除キ其他開會ニ要スル雜費及書記給料等ノ支辨方如何取計可然哉
- 指令 十六年七月二十日
- 第一 定期又ハ臨時諮問ノ儀ハ伺ノ通但常置スルト否トハ適宜ニ任ス
  - 第二 伺ノ通但會員ハ其數ヲ限ラズト雖モ五十名ヲ超ニ可ラス

(農商門)

(各地方勸業諮問會并勸業委員設置方)



第三 縣會議員學務委員衛生委員戶長等ノ職務アル者ト雖モ特ニ其職務セシムルヲ得  
 第四 府知事縣令之ヲ務ム可シ但書記官又ハ各課長ヲシテ代理セシムルヲ得  
 第五 旅費日當外ノ旅費ハ府縣廳費ヲ以テ之ヲ支辨ス可キモノトス  
 但書記官府知事縣令其屬官中ヨリ之ヲ命ス

第三條 諮問會員ノ旅費日當ハ地方稅中勸業費ヲ以テ支辨ス可シ  
 第四條 勸業委員ハ區町村若シハ聯合區町村ニ於テ勸業ノ事務ヲ擔任シ又ハ(區郡)長戶長ノ諮問ニ備フルモノトス

第五條 勸業委員ノ人員撰舉方法及ヒ諸務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ニ於テ之ヲ評定シ府知事縣令ノ裁可ヲ受ク可シ  
 第六條 區町村若シハ聯合區町村ニ於テ農業者商業會工業會又ハ農商工ヲ併セタル勸業會其他同業會ヲ設置スルトキハ勸業委員ヲシテ會員ヲラシムルヲ得

●(東京府伺)

第一項 (前略) 抑々區町村等ノ名義ヲ以テ此等ノ各會ヲ設置スルハ即チ公共ノ事業ナルニ付本條別ニ明文ナシト雖モ之ヲ設置スルニ爲サハルトラ始メ諸般ノ事項ニ至ル迄區町村會若シハ聯合會ノ評議ニ付スベキ者ノ如シ然レモ同第八條ヲ參照スルニ此等ノ各會ニハ均シク區町村等ノ公會ナルモ其經費ハ或ハ區町村等ノ公費ニ屬シ或ハ各業者ノ私費ニ屬スベキヲ以テ計リ車費ノ間ニ於テ公私ノ別ヲ生スル協合モアルハ之ヲ區町村會ハ其第一條法文ノ通り公共ノ事件ヲ議スルハ其本分ニ有之同敷右ノ收支方法トシテ合セ議スル所ニシテ經費ナキノ事件ヲ議スルハ其本分ニ有之同敷右ニ付其公費即チ協議費ヲ以テ支辨スル協合ニ在テハ之ヲ該會ノ評議ニ付スル可ナト雖其私費即チ各業者支辨ノ協合ニ在テハ該會之ヲ評議スルノ限リニ非サルハ

レ果シテ第六條ノ各會ハ其支辨方ノ如何ニ由リ該會ノ評議ニ付スルト付セサルトノ別アル儀ニ候哉若シ其別ナシトシテ均シク付スル儀ニ候哉又ハ均シク付セサル儀ニ候哉

第二項 (前略) 勸業委員ノ本條各會ニ於ケルハ客員タルニ止リ是ヲ以テ正員トナスハカラサルニ似タリ然レニ本條單ニ其客員ノ組成ヲ示シ其正員ノ精擇ヲ定メラニス元來會アルハ必ス其定リタル正員アルヘキハ事物自然ノ數タリ今般令言明ナキハ尙モ愛ニ該各會ヲ股タル上ハ必ス正員ヲ置キ而シテ其正員ハ區町村會ニ於テ適宜之ヲ撰舉可致儀ト相心得可給哉

(指倉) 年號月日ナシ  
 第一項 農業者商業會及勸業會ノ設置ニ付テハ區町村會又ハ聯合區町村會ノ評議ニ付レ其他ノ同業會設置ニ付テハ該同業者ノ評議ニ任スベシ  
 第二項 伺之通

第七條 府知事縣令ニ於テ勸業委員設置及第六條ノ各會設立ヲ要ムルトキハ誘導シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得此場合ニハ農商務卿ニ稟議シテ認可ヲ請ク可シ

●(東京府伺)

前略本條ヲ以テ第六條ト對照スルニ農商務卿ニ稟議認可ヲ請タルノ一項ハ前條ニ之レナクシテ本條特ニ之ヲ示セリ其然レ所以ヲ考フルニ前條各會ハ既ニ民意ノ趣ク所トナリ自然ニ興起シタル者ニ付稟議認可ヲ請ケルノ要ナレト雖モ本條ノ如キハ自然ノ興起ニ先ク文化増進ノ爲メ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ設置セシムル者ナレハ特ニ稟議認可ヲ請ルヲ要シ其手續ヲシテ一層鄭重ナラシメタルノ法意ナルヘシト被存候由之觀之其所謂誘導ニ設置セシムルコトヲ得ルトハ假令區町村人民其誘導ニ應セサルモ府知事縣令ニ於テ要ムル認ムルハ其職權ヲ以テ設置セシムルヲ得ル儀ト相心得可給哉(後略)

(指令) 前段見解ノ如シト雖モ命令ヲ以テスルノ限ニアラズ  
 (飛問門) (各地方勸業諮問會并勸業委員設置方)



但本文傍導シテ設置セシムル場合ト雖モ區町村會又ハ聯合區町村會ノ評議ニ附セサルノ限ニアラズ

第八條 勸業委員ノ旅費日當及第六條ノ各會諸費ハ區町村及聯合區町村ノ協議費ヲ以テ支辨シ又ハ關係各業者ニ於テ協議支辨スルコトヲ得但有志者ヲ以テ組織スル者ハ此例ニ非ラス

第九條 農商務卿及主務ノ官署ハ各地方勸業上ノ件ニ付諮問會又ハ第六條各會ノ意見ヲ問フコトアルヘシ

諮問會又ハ第六條ノ各會ハ勸業上ノ公益ノ件ニ付農商務卿及主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルコトヲ得

●農商工會議ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ農商務省ヘ伺(明治十六年八月十七日)

區町村會又ハ聯合區町村會ニテ評定シタル商法會議所及ヒ府知事縣令ノ裁可ヲ經テ同業會等ノ決議ノ如キハ其關係ノ町村及ヒ同業者ニ在テハ町村會同業會ノ効力ヲ有スルモノト被存候然ハ其決議ノ施行モ又其關係ノ區戶長又ハ郡長ニ於テ便宜之ヲ爲スモノト相心得可然哉

右相伺候至急御指相成度候也

指令

伺之趣區町村會又ハ聯合區町村會ニアラザル他ノ各會ノ決議ハ區郡長又ハ戶長ニ於テ施行スルノ限ニアラザル儀ト相心得申

○勸業諮問會并勸業委員設置心得方(明治十六年七月廿日農商務省第八號府縣(通))

本年五月第十三號布達相成候ニ就テハ左ノ條項爲心得相達候事

第一諮問會ニ諮問スヘキ事項

- 一 海陸運漕ノ利害(道路港灣ノ)ニ關スル事
- 二 溝渠用惡水疏通ニ關スル事
- 三 惡蟲及有害鳥獸驅除ノ事
- 四 動植物蕃殖及改良ノ事
- 五 山林栽培及保護ノ事
- 六 農商工事統計ノ事
- 七 前六項ノ外農商工事ノ利害ニ關スル事

第二諮問會員ノ定限

會員ハ任期ニ定限ナシ又其數ヲ限ラスト雖モ五十名ヲ越ユヘカラス  
縣會議員學務委員衛生委員戶長等ノ職務アルモノト雖モ農商工事ニ名望アルモノハ之ニ諮問會員ヲ兼務セシムルモ妨ケナシ

農商務省官吏及農商工上等會員又ハ府知事縣令ノ許可ヲ得タル該府縣ノ官吏ハ會場ニ列シ意見ヲ陳ルヲ得ヘシ但會員ノ數ニ加ヘス

第三諮問會々頭

府知事縣令之ヲ勤ムヘシ但書記官又ハ各課長ヲシテ代理セシムルヲ得

(農商門)

(各地方勸業諮問會并勸業委員設置方)



第四諮問會說明委員及書記

府知事縣令其屬官中ヨリ之ヲ命スヘシ

第五諮問會開會ノ期節又ハ臨時開會ヲ要スヘキ場合

通常府縣會開會以前ヲ以テ通常諮問會開會ノ期節トシ其臨時開會ノ場合ハ府知事縣令ノ見込ニ依ルヘシ

第六諮問會則ノ要旨及諸説ノ採擇

會則ハ總テ談話ノ體ヲ用ヒ諸説ノ採擇ハ會頭ノ意見ニアルヘシ但場合ニヨリ會員ノ意見ヲ識別スヘキ爲メ起立ノ作用ニ依ルモ妨ナシ

第七諮問會員ノ招集

會員ノ招集ハ府知事縣令ノ達書ヲ以テシ通常開會ノ日數ハ概テ十五日以内臨時開會ノ日數ハ概テ七日以内トスヘシ

第八諮問會費

旅費日當ハ府縣會議員ノ旅費日當ニ越ヘサル額ヲ目途トシ府縣會議員ニ附スル等ハ總テ府縣會規則ノ成法ニ依ルヘシ

諮問會員ニ年手當ヲ給スルノ必要アルハ地方稅中勸業費ヲ以テ支辨スルヲ得其他開會ノ費用ハ府縣廳中費ヲ以テ支辨スヘシ

第九勸業委員ノ擔任

勸業委員ハ府知事縣令ノ裁可ヲ受ケタル處務順序ニ依リ請持部内ノ農商工事ノ上進ヲ圖リ及府縣廳區役所ノ指揮スル處ノ事務并戶長ヨリ協議ノ事務ヲ處辨スヘシ

第十區長戶長諮問ノ事項

諮問ノ事項ハ概テ第一ノ事項ニ依ルヘシ諮問ハ勸業委員各人ニ諮問スヘキモノトス

第十一勸業委員ノ選舉

選舉區域ハ實地ノ景況ニ依ルヘキモノトス但其受持部ノ甚廣大ニ失セザラントシ要スル勸業委員ノ選舉ハ其要スヘキ人員ノ幾倍ヲ選舉シ府知事縣令之ヲ選拔スルノ場合アルヘシ

第十二農業會商業會工業會勸業會及同業會

各會ハ名稱ヲ一ニシテ檢束スルモノニ非ス譬ハ農業會中ニ農談會アリ商業會中ニ商法會所アリ同業會中ニ單一種ノ同業會或ハ各種同業會ヲ聯合シタル同業會アルノ類トス

第十三勸業委員ノ設置及各會設立ノ誘導

準則ヲ設ケテ諭達シ或ハ區長戶長ニ指示スル等同一ニ施行セント圖ルコトアルハ票議シテ認可ヲ請クヘシト雖モ有志者ヲ説諭奮起セシムル等ノ如キハ認可ヲ請クヘキ限ニ非ス

第十四勸業委員費

旅費日當額ハ區町村會若クハ聯合區町村會又ハ關係各業者ノ議決ヲ經ル等總テ區町村會法ノ成法ニ依ルヘシ

(農商門)

(各地方勸業諮問會并勸業委員設置方)



勸業委員ヨ年手當ヲ給スヘキ必要アルキハ之ヲ協議費ヨリ支辨シ或ハ其幾分ヲ地方税中  
勸業費ヲ以テ補助スルコトヲ得ヘシ勸業上ヨ付勸業委員ヲ府縣廳ヘ招換スヘキ要用アルキ  
ハ其旅費日當ハ地方税中勸業費ヨリ支給スヘシ  
第十五施行ノ後本省ヘ報告スヘキ件

諮問會員ノ人名及處務ノ順序

勸業委員ノ人員選舉方法及處務ノ順序  
各會設置ノ組織

已上ニ關スル諸費用ノ豫算決算額及仕譯書  
其他該件ニ關スル緊要事件

○勸業委員人員撰舉方法及處務順序評定心得方(明治十六年九月廿五日農商務省第十一號府廳ニ達)  
本年五月第十三號布達第五條勸業委員ノ人員撰舉方法及處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合

區町村會ノ評定ニ任スヘキノ處該會ノ設置無之地方ニ於テハ其手續ヲナスヘキ爲メ之ニ  
代フルニ區町村從來慣行ノ相談會等ニ於テ評定スルモ不苦爲心得此旨相達候事

○博覽會共進會出品ニ關スル件(明治二十一年一月七日大藏省訓令第一號)  
博覽會共進會開設ニ際シ煙草菓子賣藥ヲ出品シ且ツ其會場内外ニ於テ特ニ販賣スル件其取

扱方ハ左ノ通心得ヘシ(但明治十一年六月內務大藏兩卿連署乙第四十七號ハ自今廢止ス)

- 一 從來免許ノ營業人コシテ出品スルモノハ別段免許鑑札ヲ受ルニ及ハス
- 一 印紙ノ貼用ヲ要スル物品ハ總テ其規則ニ遵テ印紙ヲ貼用スヘシ
- 一 出品主コシテ其出品ノ販賣店ヲ開設スル者モ亦前二項ニ準ス但其店頭ニ免許何營業人住  
處氏名ヲ記載セル標札ヲ掲出スヘシ
- 一 前項販賣店開設ヲ許可スルニ當リ場内狹隘ノ爲メ止テ得サルトキハ其場近傍ニ一定ノ區  
域ヲ限リ之ヲ許可スルコトヲ得

○蠶糸業組合準則及蠶種検査等ノ事(明治十八年十一月二日農商務省第四十一號達)

蠶絲業組合準則左ノ通相定候條該準則ニ基キ組合相立サセ其規約認可ノ上取締所ニ係ルモ  
ノハ當省ヘ届出ヘシ此旨相達候事

第一條 蠶絲業ニ従事スル者ハ郡區又ハ町村ノ區畫ニヨリ組合ヲ設置スヘシ但自用ノミコ  
供スル者ハ此限ニ非ス

第二條 組合ノ名稱ト何縣何郡區何町村蠶絲組合ト稱スヘシ

第三條 組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ  
第一項 繭ハ春夏秋若シハ黃白ノ種類又ハ太陽殺蒸殺燥殺等混淆シタル者ヲ賣買セザ  
ル事

(農商門)

(博覽會共進會出品ニ關スル件) (蠶糸業組合準則)



- 第二項 製絲ノ最モ良好ナル種類ヲ育養スル事
- 第三項 桑樹ノ栽培蠶兒ノ養法ヲ善長ナラシムル事
- 第四項 繭ノ貯藏法ヲ完全ナラシムル事
- 第五項 蠶卵ノ検査法ヲ設ケ蠶病ヲ豫防スル事
- 第六項 繭荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及ヒ製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事
- 第七項 一捆ハ勿論一總若クハ一把中長否混淆等ノ者ヲ製造販賣セサル事但等級ヲ區分シテ一捆ヲナシタルモノハ此限コアラズ
- 第八項 生絲ノ製造及ヒ結束ノ不正ノ重量ヲ付シ賣買セサル事
- 第九項 繰取アル揚簍ヲ用ヒ尺度ヲ一様ナラシムル事
- 第十項 生絲ノ結束及ヒ總ノ量目ヲ一様ナラシムル事
- 第十一項 提造島田折返造等ノ生絲ヲ揚返サスシテ其儘改造賣買セサル事
- 第十二項 生絲検査法ヲ設ケ其精粗ヲ監別シ及ヒ製造上ノ弊害ヲ矯正スル事
- 第十三項 生絲荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事
- 第十四項 各組合ハ委員ヲ設ケ組合中ノ事務ヲ擔任セシムル事
- 第十五項 組合員ハ必ス其組合ノ證書ヲ携帯スル事但證書コハ管轄地方廳ノ捺印ヲ受クル事

- 第六條 組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ検査スル事
- 第七條 各府縣下便宜ノ地ニ取締所ヲ置キ各組合ヲ統轄シ組合ノ規約ノ實施ヲ監査スル事
- 第八條 取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互選スル事
- 第九條 取締所ニ關スル費用收支ハ各組合員集議ヲ以テ之ヲ定ムル事
- 第十條 全國中便宜ノ地ニ蠶系組合中央部ヲ設ケ各地方蠶系組合取締所ノ氣脈ヲ聯通スル事
- 第十一條 蠶系組合中央部ノ規約ハ當省ノ認可ヲ受クル事
- 第十二條 蠶系組合中央部ノ役員ハ各地方蠶系組合取締所ノ役員中ヨリ互撰スル事但便宜ニヨリ役員外ノ者ト雖モ之ヲ撰舉スル事得
- 第十三條 蠶系組合中央部ノ費用收支ハ各地方蠶系取締所役員ノ集議ヲ以テ之ヲ定ムル事
- 第十四條 右各條ノ外組合ニ於テ必要ト爲ス事項ハ適宜ニ其規約ヲ設クル事ヲ得

○農商務省令第九號(明治十九年八月十七日)

蠶種微粒子病(一名黑痣病)豫防ノ爲蠶種検査規則左ノ通相定メ原種ノ検査ハ明治二十年検査期ヨリ施行シ製絲用種ノ検査ハ同二十一年検査期ヨリ施行ス

○蠶種検査規則

第一條 凡ソ蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣セントスル者ハ管轄廳ニ願出テ鑑札ヲ受クル事

(農商門)

(蠶種検査規則)



- 第二條 蠶種ヲ製造スル者ハ此規則ニ從ヒ其検査ヲ受クヘシ
- 第三條 検査證印ナキ蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス
- 第四條 蠶種検査所ハ管轄廳ニ於テ管内便宜ノ地ニ之ヲ設置スヘシ  
但地方ノ狀況ニ由リ巡廻検査ヲナスモ妨ケナシ
- 第五條 蠶種検査員ハ管轄廳ニ於テ之ヲ命ズヘシ  
但検査ノ方法ハ別ニ訓令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六條 春蠶種ノ検査ハ毎年十月一日ヨリ始メ夏蠶種秋蠶種ノ検査期日ハ管轄廳ニ於テ適宜之ヲ定ムルモノトス
- 第七條 蠶種ヲ製造スル者ハ春蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造額ヲ毎年七月三十一日マテニ夏蠶種秋蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造豫算額ヲ検査期日ヨリ三十日以前ニ管轄廳ニ届出ツヘシ
- 第八條 蠶種ニハ製造人ノ住所氏名又ハ會社若クハ組合ノ名稱ヲ記シ之ヲ原種 販賣用種ノ別ニト製絲用種トニ區別シテ検査所ニ差出スヘシ
- 第九條 病毒ノ歩合原種ニ於テハ百分ノ五以下製絲用種ニ於テハ百分ノ十五以下ノモノニ検査證印ヲ付シ其以上ニ及ブモノハ都テ廢棄證印ヲ付スルモノトス

●(新潟縣伺)

本條ニ病毒ノ歩合原種ニ於テハ百分ノ五以下製絲用ニ於テハ百分ノ十五以下ト規定有之候處製絲業組合ニ於テ原種ハ百分ノ四若クハ三以下或ハ無毒製絲用ニ於テハ百分ノ十若クハ五以下等右九條ノ範圍内ニ於テ規約ヲ以テ之カ程度ヲ定メ認可願出ル

片ハ認可ヲ與ハ差支無之哉  
指令(明治二十一年) 一月九日

伺ノ趣蠶種微粒子病毒ノ歩合ハ組合規約中ニ掲ケシメサル儘ト心得ヘシ

- 第十條 廢棄證印アル蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス
- 第十一條 蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣スル者廢業ニルカ他ノ管轄地ニ寄留若クハ轉籍スルトキハ其旨ヲ管轄廳ニ届出鑑札ヲ返納スヘシ但寄留若クハ轉籍地ニ於テ營業セントスルトキハ第一條ニ據ルヘシ
- 第十二條 第一條第三條第十條ニ違ヒタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

○農商務省訓令第十四號(明治十九年八月十七日)

當省令第九號蠶種検査規則取扱手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

○蠶種検査規則取扱手續

- 第一項 蠶種検査規則第一條ニ據リ下付スル鑑札ハ製造鑑札ト販賣鑑札トニ區別ス
- 第二項 販賣鑑札ハ輕便ナルモノヲ用ヒ販賣ノ爲メ外出スル時ハ之ヲ携帯セシムヘシ
- 第三項 検査所ハ可成郡役所戶長役場等ノ一部ヲ以テ之ニ充テ經費ノ節減ヲ旨トスヘシ

(農商門) (蠶種検査規則取扱手續)



第四項 蠶種ノ産額多カラシテ製造者各地ニ散在スル地方ニ於テハ蠶種検査規則第四條但書ニ據リ便宜巡廻検査ノ法ヲ設クヘシ

第五項 検査員ハ蠶業ニ熟達セルモノヲ擧用シ其氏名及ヒ履歴ヲ當省ニ届出ツヘシ

第六項 原種ヲ検査スルニハ蠶種ノ全面ヲ撫摩シテ卵子百粒許ヲ取り其中ヨリ悪キモノ五十粒ヲ撰ヒテ之ヲ十分シ其一分毎ニ之ヲ小乳鉢ニ盛り苛性加里ノ稀薄液一滴ヲ加ヘテ能ク之ヲ磨碎シ其液ヲ顯微鏡ニ照シテ四隅及ヒ中央ヲ丁寧ニ觀察シノ観察トス毎鏡面微粒子ノ有無ヲ檢シ左表ニ據リ病毒ノ歩合ヲ定ムヘシ

視察中微粒子ヲ目撃セル回数	百分中ノ歩合	原種	製絲用種
一回	二、	使用ニ適スルモノ	使用ニ適スルモノ
二回	四、	以下廢棄スヘキモノ	以下廢棄スヘキモノ
三回	六、		
八、			
一〇、			
一二、			
一四、			
一六、			

一八、			
二〇、			

病毒ノ歩合ヲ定ムルニハ觀察中微粒子ヲ目撃セル數ニテ乘シ以テ百分中ノ歩合トナスヘシ

第七項 製絲用種ハ同種類中ニ於テ病毒多シト認ムルモノヨリ順次第六項検査ヲ爲シ病毒百分ノ十五以内ノモノヲ檢出スルニ至リテ止ムヘシ

第八項 顯微鏡ハ五百倍以上ノモノヲ用フヘシ

第九項 検査證印及廢棄證印ヲ定ムルコト左ノ如シ

○原種検査證印

圓經一分文字(某府某検査所原種検査之證)

○製絲用種検査證印

楕圓形 横一寸八分 文字(某府某検査所製絲用種検査之證)

○廢棄證印

長方形 横一寸五分(文字廢棄之證)

第十項 各検査所毎年検査ノ成績ハ左ノ表式ニ準シ翌年二月限リ當省ニ報告スヘシ

(農商部)

(蠶種検査規則取扱手續)







大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 組合ノ名稱ハ何府何區茶業組合ト稱スヘシ

第六條 組合ハ郡區内便宜ノ場所ニ各組合事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第七條 組合ハ其氣脈ヲ聯通スル爲メ府縣ノ區畫ニ依リ便宜ノ地ニ聯合會議所ヲ設ケ東京ニ中央會議所ヲ設クヘシ

第八條 組合ハ此規則ノ範圍内ニ於テ其業務ニ關シ組合及會議所ノ規約ヲ定ムヘシ

第九條 組合及聯合會議所ノ規約ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ中央會議所ノ規約ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 組合員

第十條 組合員ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第十一條 組合員ハ組合及會議所ノ規約ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス但費用負擔ノ割合及徵收方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

（静岡縣例）

本條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ストアリ而シテ其第十一條ヲ見レハ組合員ハ組合及會議所ノ規約ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトスノ兩條アリ然レトキハ第三十三條第三十四兩條ノ規約ヲ確定シタル組合員ニシテ若シ其規約ヲ遵守セサル時即チ違約ノ際第三十六條ニヨリ處分スル儀ニ候ナ

○指令（明治二十一年）例之通

（三重縣例）

茶業組合同則第十一條ニ據リ罰セラル、者ハ規約ニ定メタル違約者處分方ヲ拒ム者ニ限ル儀ナルカ

○指令（明治二十一年）違約處分ヲ指ムト西トニ拘ハラヌ罰セラル、儀ト心得ヘシ

第十二條 社名若シハ組名ヲ以テ組合員タル者ハ相當ノ代表人ヲ定メ置キ組合ニ關スル一切ノ責ニ任セシムヘシ

第三章 役員

第十三條 各組合事務所ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ部内ノ組合員之ヲ選定シ組長ハ委員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

但選任及改選ノ都度聯合會議所ヲ經テ地方廳ニ届出ツヘシ

第十四條 組長ハ委員ト協議シテ部内組合ノ取締ヲナシ其他一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第十五條 組長ハ常ニ營業上ノ利害ニ注意シ組合ノ確實ヲ圖ルヘシ

第十六條 組長ハ部内組合中ニ生シタル紛議ヲ仲裁シ及ヒ違約者アルトキハ規約ニ依リ處分スルコトヲ得

但會議所ノ規約ニ違背シタル者ヲ處分シタルハ其旨會議所ニ通知スヘシ

第十七條 組長ハ職員ノ資格ヲ以テ聯合會議及中央會議ニ列スルコトヲ得

第十八條 聯合會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ聯合會議ニ關スル事務及ヒ聯合會議所ノ規

（農商門）（茶業組合同則）



約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ  
第十九條 聯合會議所ノ事務員ハ會議ニ於テ部下組合員中ヨリ之ヲ選定シ地方官長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 聯合會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議ニ列スルコトヲ得

第二十一條 中央會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ中央會議ニ關スル事務及中央會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第二十二條 中央會議所ノ事務員ハ中央會議々員ニ於テ全國組合員中ヨリ之ヲ選定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

但時宜ニ依リ組合員外ノ者ト雖モ選舉スルコトヲ得

第二十三條 中央會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ中央會議ニ列スルコトヲ得

○第四章 會議

第二十四條 會議ヲ分テ聯合會議及中央會議トシ聯合會議ハ聯合會議所ニ於テ中央會議ハ中央會議所ニ於テ定時又ハ臨時ニ之ヲ開クヘシ

第二十五條 聯合會議ニ於テハ會議所所在府縣ノ組合ニ關スル事項ヲ議定シ中央會議ニ於テハ全國ノ組合ニ關スル事項ヲ議定スヘキモノトス

第二十六條 聯合會議ノ議員ハ部下各組合員之ヲ選定シ中央會議ノ議員ハ聯合會議々員之ヲ選定スヘシ

第二十七條 聯合會議及中央會議ニ出席スヘキ議員ノ數ハ産額ノ多寡ニ從ヒ規約ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 會議ノ正副議長ハ議員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

第二十九條 會議ノ正副議長及議員ノ氏名並ニ會議開閉期日其聯合會議ニ係ルモノハ地方廳ニ其中央會議ニ係ルモノハ農商務省ニ届出ツヘシ

第三十條 農商務大臣ハ中央會議地方長官ハ聯合會議ノ開閉又ハ議員ヲ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第三十一條 會議ハ議員半數以上出席セサレハ當日ノ議事ヲ開クコトヲ得

但議員半數以上ノ欠席三日以上ニシテハ半數以內ト雖モ議事ヲ開クコトヲ得

第三十二條 議事ハ出席員過半數ニ依リ決ス可否同數ナルキハ議長ノ決スル所ニ據ル

○第五章 規約

第三十三條 各組合ノ規約ハ其部内組合員中ヨリ委員ヲ選定シテ左ノ事項ニ準シ之ヲ定ムヘシ

- 一 組合ノ位置
- 一 組合員ノ證票
- 一 粗惡不正茶取締ノ方法
- 一 役員選舉ノ方法

(農商門) (茶葉組規則)



- 一 組合人退者取扱ノ方法
  - 一 違約者處分ノ方法
  - 一 經費賦課徴収支出ノ方法
  - 一 其他組合ノ情况ニ依リ必要ナル條件
- 第三十四條 聯合會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 一 聯合會議所ノ位置
  - 一 製茶ヲ改良シ販路ヲ擴張スルノ方法
  - 一 製造及ヒ販賣上ノ弊害ヲ矯正スルノ方法
  - 一 部下ノ組合ニ關スル事務ヲ處辨シ及ヒ紛議ヲ仲裁スルノ方法
  - 一 聯合會議々員及事務員選舉ノ方法
  - 一 聯合會議ニ關スル規程
  - 一 違約者處分ノ方法
  - 一 經費賦課徴収支出ノ方法
  - 一 其他地方ノ情况ニ依リ必要ナル條件
- 第三十五條 中央會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 一 中央會議所ノ位置
  - 一 全國組合ノ氣脈ヲ聯通スルノ方法

- 一 内外茶業ノ實況ヲ調査シ及ヒ之ヲ報告スルノ方法
- 一 中央會議々員及ヒ事務員選舉ノ方法
- 一 會議ニ關スル規程
- 一 經費賦課徴収支出ノ方法
- 一 其他中央會議ニ於テ必要ト認タル條件

第六章 罰則

第三十六條 此規則第二條第九條第十條第十一條ニ違犯シタル者ハ金二圓以上金二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

● 神奈川県 昨年十二月御省令第四號ヲ以テ茶業組合規則被定候ニ付テハ管下各郡區ニ組合ヲ設ケ便宜ノ地ニ聯合會議所可設置ニ有之候處管下横濱區ノ如キハ各郡ト至ク其營業ノ性質種類ヲ異ニスルヲ以テ到底其制ヲ區別セサレハ整理難致候ニ付此ニ準則御發布相成候節ニ經例ノ上郡區各別ニ取締所設置爲致候儀ニ有之候依テ今回右ニ準シ該會議所郡區各別ニ爲致設置度候條御差支ノ儀無之候ハ、御開置相成度但各組合設置ノ上一應協議可爲致見込ニ有之候

○ (農商務省) 指令 (明治二十一年一月二十八日) 何ノ趣開届ケ

● (中央茶業組合本部) 同 昨明治二十年省令第四號ヲ以テ御布達相成候茶業組合規則ニ據リ各地方ニ於テ茶業組合設置可致順序相違ヒ候處該條項中疑議ノ點有之候趣ニテ各地方茶業取締所其他ヨリ當本部へ問合有之候ニ付左ノ件々未何候第一項 製茶家ニテ製造中使役スル雇入ハ茶業組合規則第一條ノ茶業者範圍外ト心得可然哉

(農商門) (茶業組合規則) (何指令)



- 第二項 茶業者小數ナルトキハ三四郡若クハ一府縣合併シテ一組合トナルモ差支ナキ儀ト心得可然哉
  - 第三項 組合又ハ聯合會議及中央會議ノ決議ニ據リ組合ノ名義ヲ以テ茶ヲ試製シ又ハ製茶ヲ試賣スルハ第十條ノ範圍外ト心得可然哉
  - 第四項 規則第十七條ハ議事ノ都合ニ依リ會議ニ於テ組長ノ出席ヲ必要トナス場合ニ限リ儀ト心得可然哉
  - 第五項 同第二十條及第二十三條ハ議事ノ如何ニ拘ハラヌ事務員ハ常ニ其會議ノ職員タルヲ得ル儀ト心得可然哉
  - 第六項 組長ハ聯合會議及中央會議ノ職員ニ聯合會議所ノ事務員ハ中央會議ノ職員ニ擬シテラルハ得ル儀ト心得可然哉
  - 第七項 規則第四條ニ據リ販賣者ノミチ以テ組織セシ組合又ハ産額僅少ニシテ賣買取引ノ盛ナル聯合會議所部内ハ其取引額ヲ以テ産額ニ準シ規則第二十七條ニ據リ應分職員ノ數ヲ定ムル儀ト心得可然哉
  - 第八項 粗悪不正茶取締ノ方法ハ組合規約ニ於テ定ムルヘキ儀ニ候得共營業者ノ便宜ニ依リ聯合會議又ハ中央會議ニ於テ之ヲ設ケルモ差支ナキ儀ト心得可然哉
- 指令(明治二十一年二月一日)
- 何ノ趣左ノ通心得ヘシ
  - 第一項 第三項第六項第七項及第八項何ノ通
  - 第二項 一府縣下ヲ通シテ一組合トナスハ同業者ニ於テ適宜之ヲ定ムルヘキ限ニアラス
  - 第四項 規則第十七條ハ會議ニ於テ組長ノ出席ヲ要シ又ハ組長ニ於テ其部内組合ノ事ニ關シ會議ニ列シテ意見ヲ述フヘキ必要アル場合ニ限リタルモノニシテ其方法及費用負擔ノ割合ハ應テ聯合會議所及中央會議所ノ規約ヲ以テ之ヲ定ムルヘシ
  - 第五項 第四項之趣

●埼玉縣伺

- 客歲十二月御省令第四號並茶業組合規則中疑義ノ際々左ニ
- 第一項 第十七條ニ組長ハ職員ノ資格ヲ以テ聯合會議及中央會議ニ列スルヲ得ルトアルハ擧擧ノ有無ヲ問ハス際ヨリ職員トナシ聯合會議及中央會議ニ列スルヲ得ヘキ義ニシテ定員外ト看做シ可然哉將々被擧擧權ヲ有スルニ止ル義ニ候哉
- 第二項 第二十條聯合會議所ノ事務員ハ職員ノ資格ヲ以テ聯合會議ニ列スルコトヲ得トアルハ等レテ前項ノ如ク見做シ可然哉
- 第三項 第二十六條聯合會議ノ職員ハ部下各組合員之ヲ擧定シ中央會議ノ職員ハ聯合會議々員之ヲ擧定スヘシトアリ右ハ中央會議員擧擧權ヲレテ獨リ聯合會議々員ニ與ヘ候義ニシテ被擧擧權ハ一般組合員之ヲ有レ候義ニ候哉將々聯合會議々員互擧スヘキ義ニ候哉果シテ然ラハ議場ニ列スル事務員ノ如キモ其權ヲ有スヘキ義ニ候哉
- 第四項 本月十七日官報第一三六二號靜岡縣伺ニ對シ會議所職員ノ數ハ此度限リ蓋組合ノ規約ニテ定メタル數ヲ假リ用フヘシト御指令アリ右ハ單ニ會議所トアル上ハ聯合中央兩會議々員共ニ茲組合規約ヲ假用スヘキハ勿論ニ候得共中央會議々員ノ數ニ至テハ他ニ據ルヘキノ道ナキヲ以テ止テ得ス茲組合規約ニ定メタル數ヲ用フルモ聯合會議員ノ數ハ適宜本縣ニ於テ相定不苦哉

○(農商務省)指令(明治二十一年二月四日)

- 何ノ趣左ノ通心得ヘシ
- 第一項 會議ニ於テ組長ノ出席ヲ要シ又ハ組長ニ於テ其部内組合ノ事ニ關シ會議ニ列シテ其意見ヲ述フヘキ必要アル場合ニ限リタルモノニシテ職員定員外トス
- 第二項 前項ノ趣
- 第三項 組合員ハ一般職員ノ被擧擧權ヲ有ス
- 第四項 聯合會議々員ノ數モ茲規約ニ據ルヘシ

●(千葉縣)照會

(農商部) (茶業組合規則)